

令和 6 年度（2024 年度）
横浜市社会的養護自立支援実態把握事業
報告書

令和 7 年（2025 年）3 月

目次

退所者調査	3
調査概要	3
(1) 基本属性	5
■年齢	6
■最後に生活した施設等	7
■最後に生活していた施設等で過ごした期間	8
■最後に生活していた施設等を出た年齢	10
(2) 退所後の進路と生活について	11
■退所後の進路	11
■働き方	12
■現在の住まい	13
(3) 退所後の経済状況について	14
■家計収支	14
■貯金の有無	15
■ローンや借金の有無とその理由	18
(4) 退所後の健康状態について	19
■身体の状態	19
■精神の状態	21
(5) 退所前の不安や自立準備について	22
■退所に関する不安内容	22
■尊重されていた感覚	23
■就職や進学の前準備期間	24
■自立準備の開始時期の評価	25
(6) 入所中のサポートについて	27
■入所中、役に立ったサポート	27
■施設からの連絡頻度	34
■連絡頻度の満足度	36
■回答者からの連絡頻度	37
■退所後に役に立ったと思うサポート	38
(7) 退所後の課題について	43
■現在困っていること	43
■現在の相談相手	46
■良かったこと、嬉しかったことを伝える相手	48
■安心安全な居場所	50
退所者調査のまとめ	51
入所者調査	54
調査概要	54
(1) 基本属性	55
■年齢	56
■現在生活している施設等	57
■施設等で生活している期間	58
(2) 入所者の健康状態について	59

■現在の「身体」の状態	59
■現在の「精神」の状態	60
(3) 入所者の生活状態について	61
■通っている学校	61
■卒業後の進路	63
■自身の保有するお金の金額把握	64
(4) 不安や将来のイメージについて	65
■将来の不安	65
■将来の働くイメージ	67
■生活・生計を立てていくイメージ	69
■社会人マナー	71
■将来についての希望	73
(5) 将来の自立準備について	73
■進学の詳細時期	74
■自立準備の開始時期の評価	75
(6) 入所中のサポートについて	75
■施設等のサポートで「将来に向けて役に立つ」と思うもの	75
■将来についての意思表示	79
■尊重されている感覚	79
■施設職員や里親、兄相の担当者が信頼できるか	80
■将来の施設等からの連絡頻度	81
■将来の回答者から施設等への連絡頻度	82
■退所後に受けたサポート	83
■困った時の相談相手	85
■良かったこと、嬉しかったことを伝える相手	87
■安心安全な居場所	89
入所者調査のまとめ	90
施設調査	92
調査概要	92
(1) 基本属性	93
■施設区分	93
(2) 自立支援の実施状況について	94
■取り組んでいる自立支援施策	94
■施設から退所者への連絡頻度	96
■連絡が取れない退所者の割合	97
(3) 退所者へのサポートについて	98
■退所者への自立支援の取り組み内容	98
■つながっている退所者にしたらよいと思うサポート	100
■つながっていない退所者にしたらよいと思うサポート	102
施設調査のまとめ	104
参考資料目次	106

退所者調査

調査概要

1. 調査の目的
社会的養護施設等の措置解除者等の自立支援に対するニーズの把握を行い、彼らが直面する課題や困難に対して効果的な自立支援が提供されるための環境整備を行い、将来的な支援につなげる。
2. 調査対象
横浜市管轄の社会的養護経験者等で、以下の条件を全て満たす者
① 平成 31 年（2019 年）4 月 1 日～令和 6 年（2024 年）3 月 31 日に措置解除
② 15 歳以上の義務教育を終了
③ 以下の施設等の措置（委託）を解除
児童養護施設、児童自立支援施設、児童心理治療施設、自立援助ホーム、
母子生活支援施設（保護者を含む）、里親家庭、ファミリーホーム
3. 調査方法
退所者本人を回答者とする web アンケート調査
4. 実施期間
令和 6 年（2024 年）9 月 27 日～10 月 27 日
5. 回答件数
 - ・ 調査対象者（最終措置解除施設が母子生活支援施設の者を除く¹）：387 件
 - ・ 回答数
 - 最終措置解除施設が母子生活支援施設の者を含む：136 件
 - 最終措置解除施設が母子生活支援施設の者を除く：88 件（回答率 22.7%）

¹ 最終措置解除施設が母子生活支援施設の調査対象者は非公開のため、回答率算出の母数からは除いた

【参考】本退所者調査の回答率に関する評価

過去の類似調査との比較

	依頼率	回答率（捕捉率）	配布（依頼）に対する 回答率
本退所者調査	44.7%	22.7%	50.9%
熊本県調査 ²	69.4%	40.5%	58.3%
全国調査 ³	35.7%	14.4%	40.4%

- ・ 過去の施設退所者等調査の捕捉率（対象者数のうち回答した人の割合）は、2割～4割が多い⁴とのことなので、本調査の回答率が極端に高くも低くもないと推察する。
- ・ 熊本県調査との大きな違いは、対象者への依頼率である。本退所者調査では、対象者への調査依頼は、個別状況を鑑み施設に一任したためと思われる。

6. 調査項目

設問種別と設問内容については次ページ図表のとおり。調査項目一覧は、末尾の参考資料に掲載。

² 令和5年度（2023年度）熊本県社会的養護自立支援実態把握調査 <https://www.pref.kumamoto.jp/soshiki/36/198578.html>

³ 令和2年度子ども・子育て支援推進調査研究事業 児童養護施設等への入所措置や里親委託等が解除された者の実態把握に関する全国調査 <https://www.mhlw.go.jp/content/11900000/000863975.pdf>

⁴ 自治体による施設退所者等の実態把握のための手引き https://www.murc.jp/wp-content/uploads/2020/04/koukai_200427_5_2.pdf

設問種別	設問内容	
(1)基本属性	①生年月 ③最後の施設等での入所期間 ⑤退所直後の進路	②最後に生活していた施設等の種類 ④退所時の年齢
(2)現状（進学、就労、住居、家計、心身）	①現在の就労・就学の状況 ③求職活動 ⑤中退・休学経験とその理由 ⑦収支バランス ⑨ローンや借金の理由 ⑪心・精神の健康状態 ⑬過去1年間に通院できなかった理由	②雇用形態 ④現在の就学先 ⑥現在の住まい ⑧貯蓄と借金 ⑩身体の健康状態 ⑫過去1年間の通院の可否
(3)退所前の自立支援	①退所前の不安 ③入所中の意思の尊重 ⑤自立準備開始時期とその評価 ⑦自立支援への意見	②入所中の意思表示 ④自立準備の満足度 ⑥施設等で受けた自立支援の内容とその有効性
(4)退所後のサポート	①施設等からの連絡頻度とその充足度 ③退所後に受けたサポートとその有効性	②回答者から施設等への連絡頻度 ④退所後のサポートへの意見
(5)悩み、相談相手	①現在困っていること	②現在の相談相手
(6)心のよりどころ	①嬉しかったことを伝える相手	②安心安全な居場所とその内容

（１）基本属性

退所者に関する基本的な属性として、生年月、最後に生活していた施設の種類の入所期間、退所直後の進路についてたずねた。

今回の調査では、「母子生活支援施設」において「保護者」と想定される回答が含まれる。そのため、下記条件の方を除いた「児童のみ」の数値が全体数値と大きく異なる場合には、「児童のみ」の数値を参考値として記載する。

※児童のみの抽出条件：（Q2-1：最後に生活していた施設＝母子生活支援施設 & Q2-3：措置解除時期＝21 歳未満）＋（Q2-1：最後に生活していた施設＝母子生活支援施設以外全て）

また、調査結果において、施設区分別の比較を実施しているケースがあるが、その際の「施設区分」を、以下の5分類で定義した。

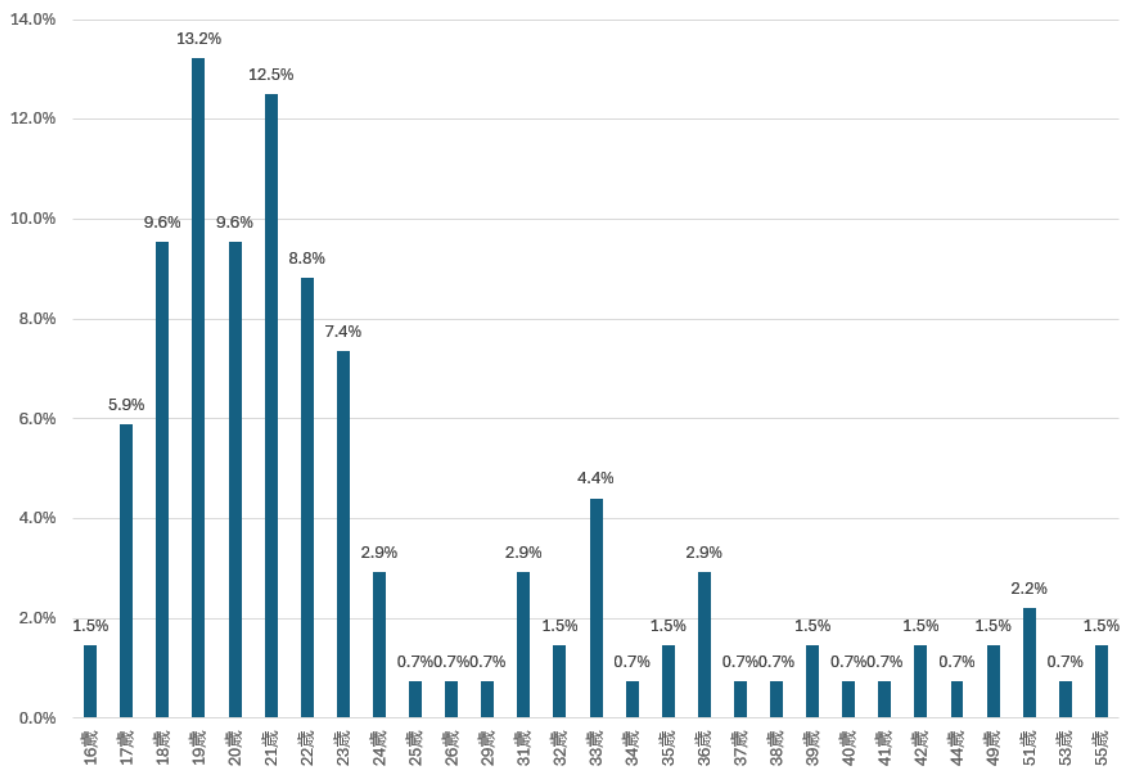
【施設区分の定義】

1. 施設（児童養護施設、児童自立支援施設、児童心理治療施設）
2. 自立援助ホーム
3. ファミリーホーム＋里親
- 4-1. 母子生活支援施設の児童
- 4-2. 母子生活支援施設の保護者

■年齢

「年齢」は「19 歳」が最も多く 13.2%、次いで「21 歳」の 12.5%、「18 歳」と「20 歳」の 9.6%が続く。「30 歳以上」の年齢が入っているのは、「母子生活支援施設」での回答者の「保護者」と想定される回答が含まれているため。

Q1_令和 6 年（2024 年）4 月 1 日時点*の年齢（n=136）

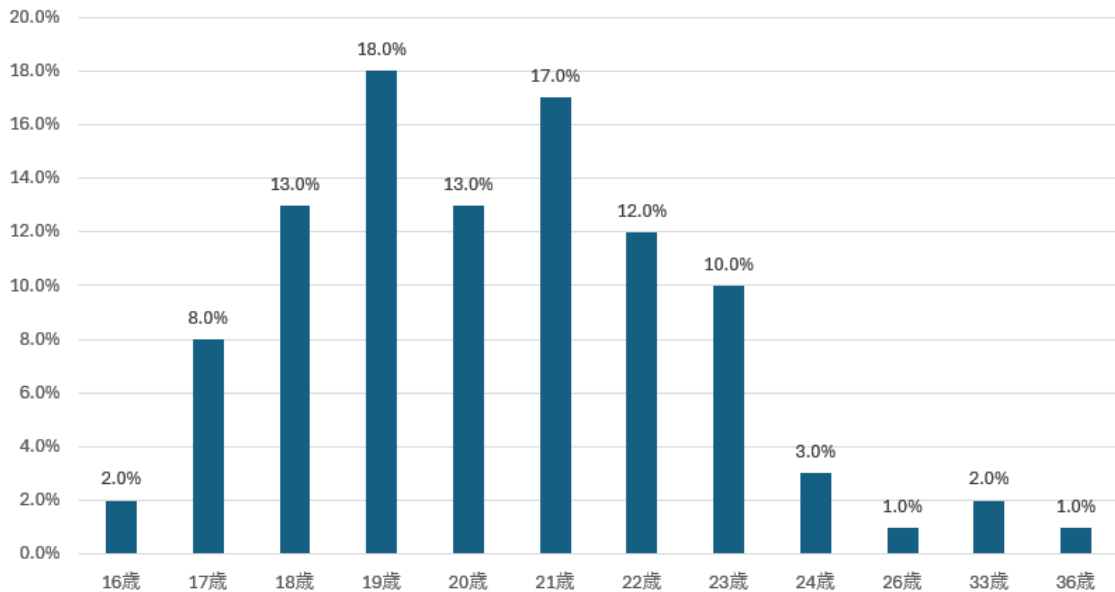


*誕生年月から算出

== 児童のみ ==

「年齢」を児童のみで集計しても、最も多いのは「19 歳（18.0%）」で、次いで「21 歳（17.0%）」、「18 歳」・「20 歳」の 13.0%が続く。全体とトップ 3 の順位の変動はない。一方で、16～20 歳の割合に変化が生じている。全体で 39.8%であったのに対し、児童のみでは 54.0%と 14.2 ポイント増加した。

Q1_令和 6 年（2024 年）4 月 1 日時点*の年齢（児童のみ n=100）

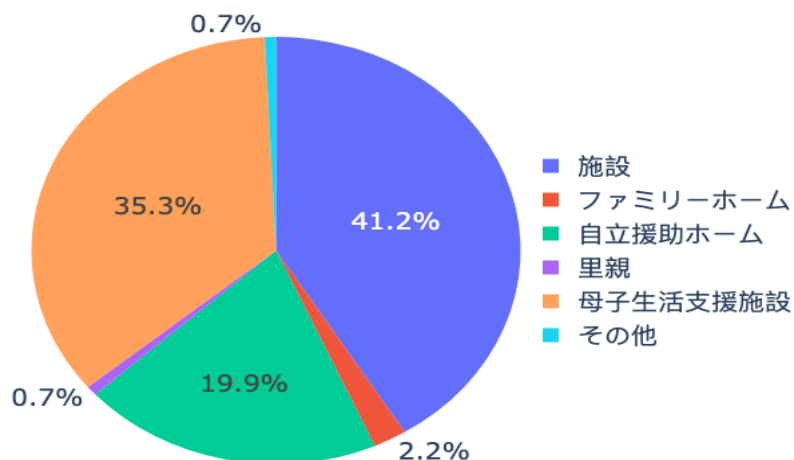


*誕生年月から算出

■最後に生活した施設等

「最後に生活した施設等」は、「施設（児童養護施設、児童自立支援施設、児童心理治療施設）」が最も多く 41.2%で、次いで「母子生活支援施設」の 35.3%、「自立援助ホーム」の 19.9%が続く。

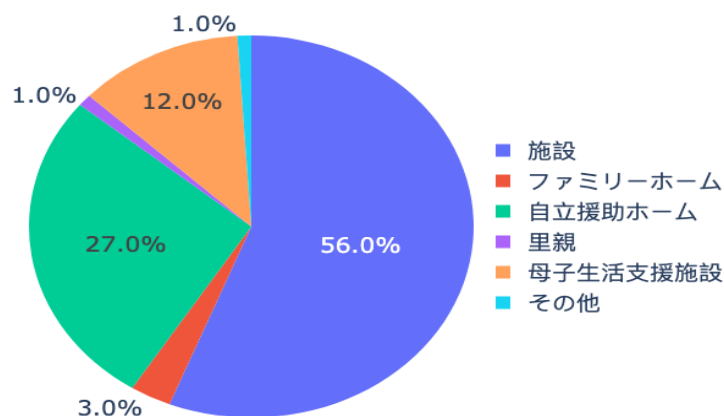
Q2-1_最後に生活した施設等を教えてください（n=136）



==参考 児童のみ==

「最後に生活した施設等」を児童のみで集計すると、「施設」の割合が全体では41.2%であったのに対して56.0%へ増加している。また、「母子生活支援施設」の保護者分が減少するため、2位が「自立援助ホーム（27.0%）」となり、3位が「母子生活支援施設（12.0%）」となっている。

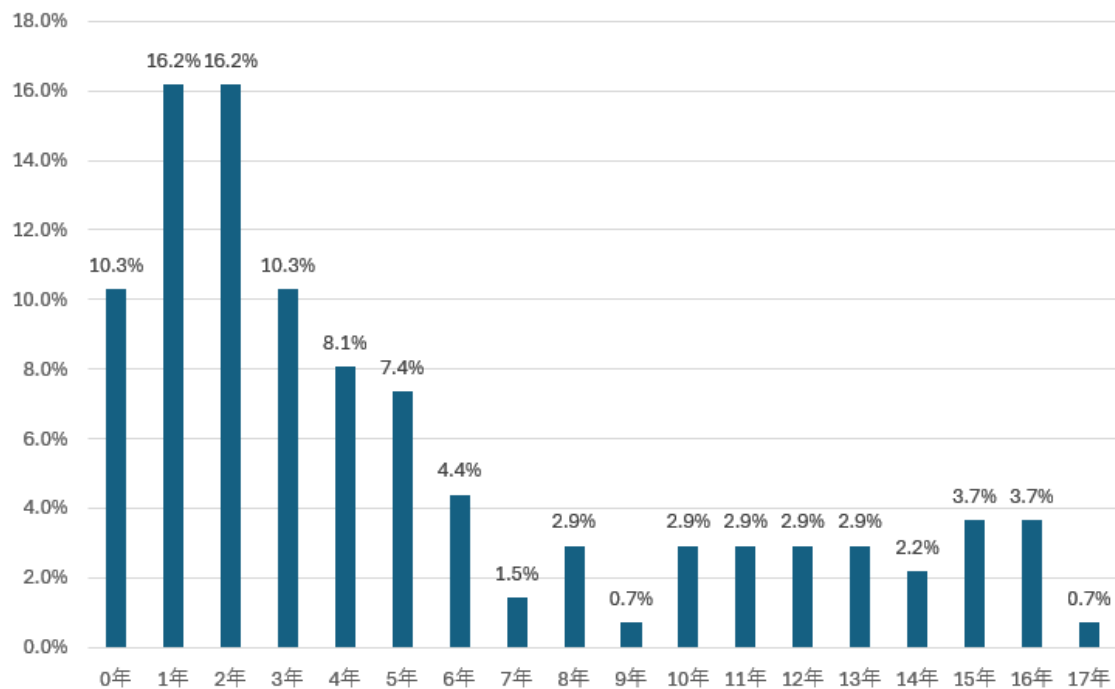
Q2-1_最後に生活した施設等を教えてください（児童のみ n=100）



■最後に生活していた施設等で過ごした期間

「最後に生活していた施設等で過ごした期間」は、「1年」と「2年」が最も多く16.2%で、次いで「1年未満（0年）」と「3年」の10.3%が続く。1年未満～3年までの「3年以内」が半数を超えて53.0%となっている。

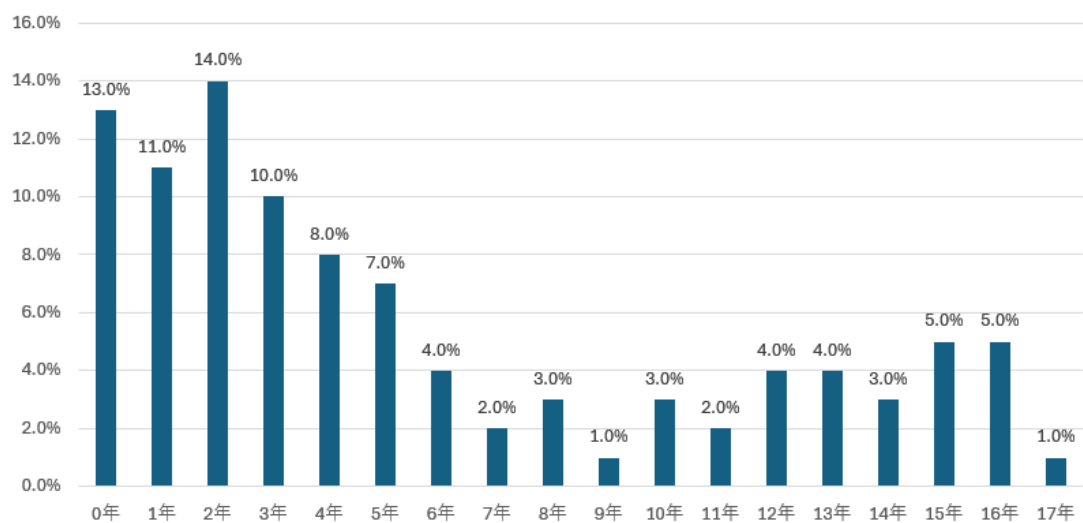
Q2-2_最後に生活していた施設等で、どのぐらいの期間を過ごしましたか(年) (n=136)



==参考 児童のみ==

「最後に生活していた施設等で過ごした期間」を児童のみで集計すると、「2 年」が単独で最も多い 14.0%となり、2 位が「1 年未満 (0 年)」の 13.0%、3 位が「1 年」の 11.0%となる。全体と比較して「3 年以下」の割合が減少しており、全体の 53.0%から 48.0%となる。

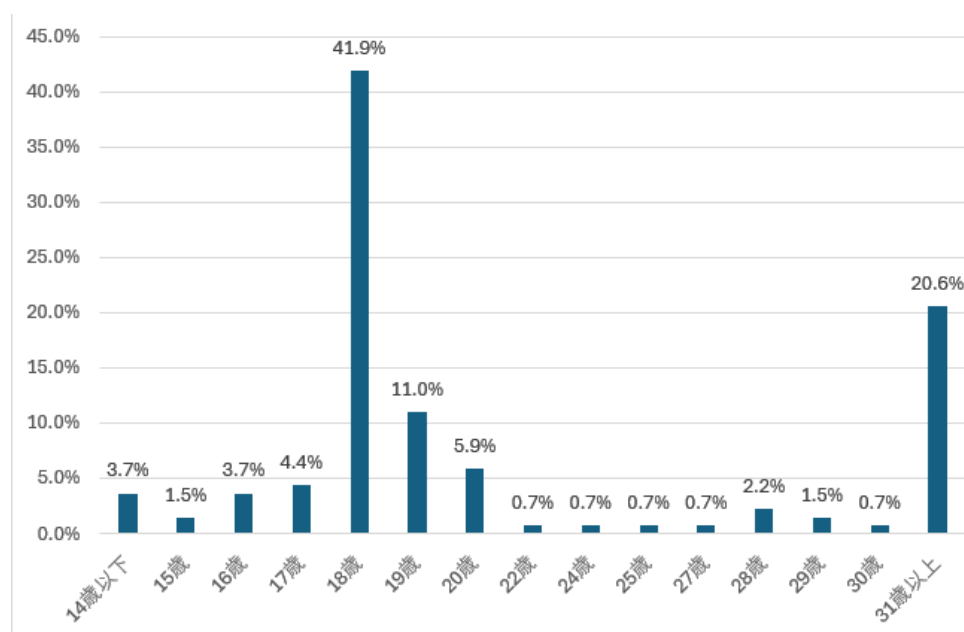
Q2-2_最後に生活していた施設等で、どのぐらいの期間を過ごしましたか(年)
(児童のみ n=100)



■最後に生活していた施設等を出た年齢

「最後に生活していた施設等を出た年齢」は、「18 歳」が最も多く 41.9%で、次いで「31 歳以上」の 20.6%、「19 歳」の 11.0%が続く。「18 歳」と「19 歳」だけで半数を超え、52.9%となった。

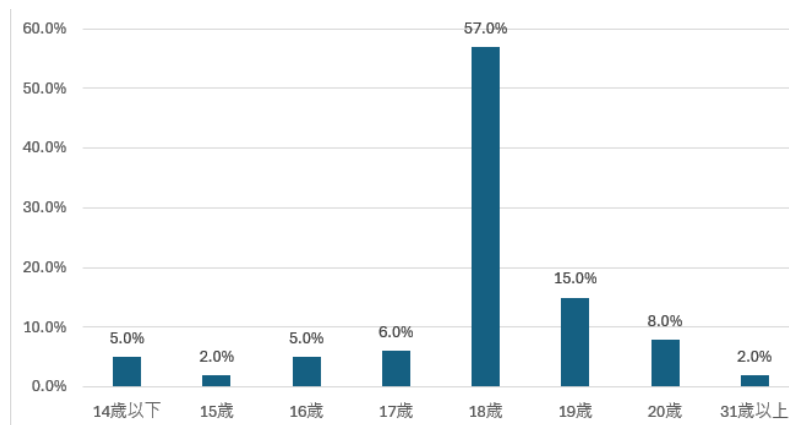
Q2-3_最後に生活していた施設等を出たのは、何歳の時ですか (n=136)



==参考 児童のみ==

「最後に生活していた施設等を出た年齢」を児童のみで集計すると、「18 歳」の割合が増加し 57.0%となった。2 位が「19 歳」の 15.0%、3 位が「20 歳」の 8.0%となっている。

Q2-3_最後に生活していた施設等を出たのは、何歳の時ですか (児童のみ n=100)



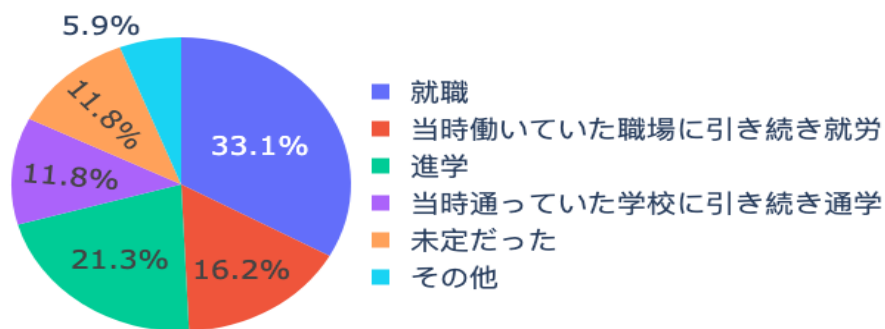
(2) 退所後の進路と生活について

退所者が施設等を退所後、どのような進路へ進み、働いている場合はどのような仕事をしているか、また、どこで暮らしているかをたずねた。

■退所後の進路

「退所後の進路」は、「就職」が 33.1%で最も多く、「当時働いていた職場に引き続き就労」の 16.2%と合わせると、49.3%が「仕事」に就いている。また、「進学」の 21.3%と「当時通っていた学校に引き続き通学」の 11.8%を合わせると、33.1%が「通学」となる。退所後は、「仕事」に就く割合が約半数となり、「通学」よりも 16.2 ポイント高くなっていることが分かる。

Q3_最後に生活していた施設等を出た時、その直後の進路を教えてください (n=136)

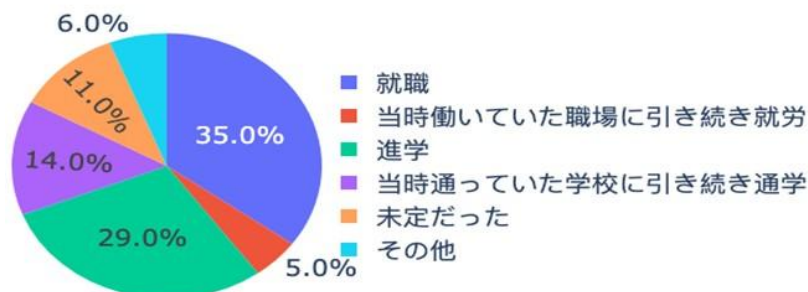


==参考① 児童のみ==

「退所後の進路」を児童のみで集計すると、1位「就職」、2位「進学」の順位は全体と同様であるが、3位が全体の「当時働いていた職場に引き続き就労」から「当時通っていた学校に引き続き通学」へ変わっている。また、「未定だった」が単独で4位となり、全体の3位であった「当時働いていた職場に引き続き就労」は6位となっている。

さらに「進学」と「当時通っていた学校に引き続き通学」を合わせた「通学層」は、全体の 33.1%から 43.0%へと 10 ポイント近く増加している。「就職」と「当時働いていた職場に引き続き就労」を合わせた「就労層」は 40.0%に減少し、「通学層」の割合が高くなった。

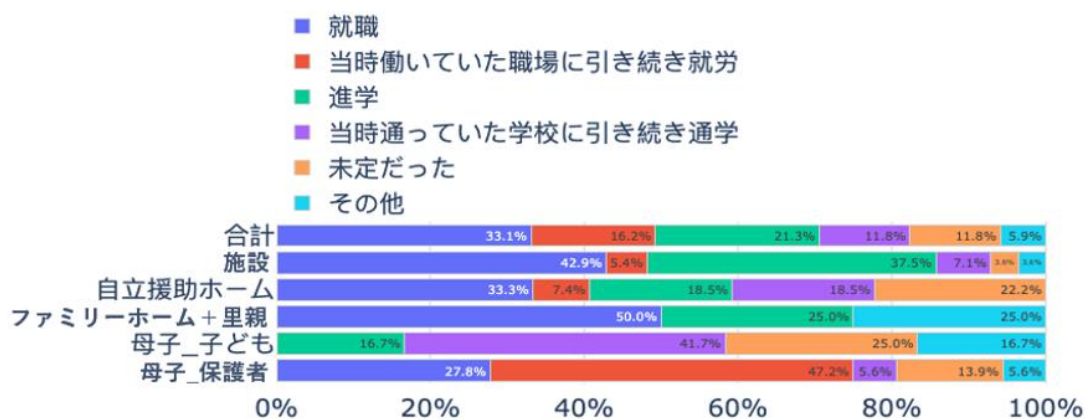
Q3_最後に生活していた施設等を出た時、その直後の進路を教えてください
(児童のみ n=100)



==参考② 施設区分別の進路==

「退所後の進路」を施設区分でクロス集計すると、「施設」の「進学」割合が、他施設と比較して高いことが分かる。他施設では 25%以下なのに対し、「施設」は 37.5%となっている。一方、「就職」割合は、「ファミリーホーム+里親」が唯一半数を超えている。

Q3×Q2-1_退所後の進路×施設区分 (n=136)

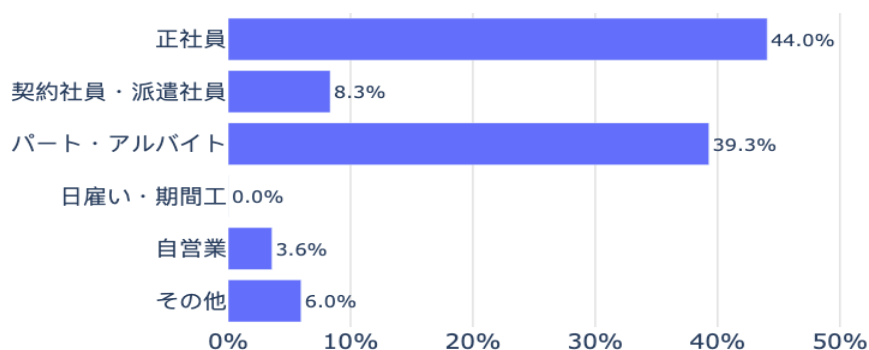


※グラフから「施設区分」の「その他」は除いた

■働き方

「現在働いている人の働き方」に関しては、「正社員」が 44.0%で最も多く、「パート・アルバイト」の 39.3%が続く。「契約社員・派遣社員」と「パート・アルバイト」を合わせた「非正規雇用」は 47.6%で、正規雇用の「正社員」より 3.6 ポイント多い。

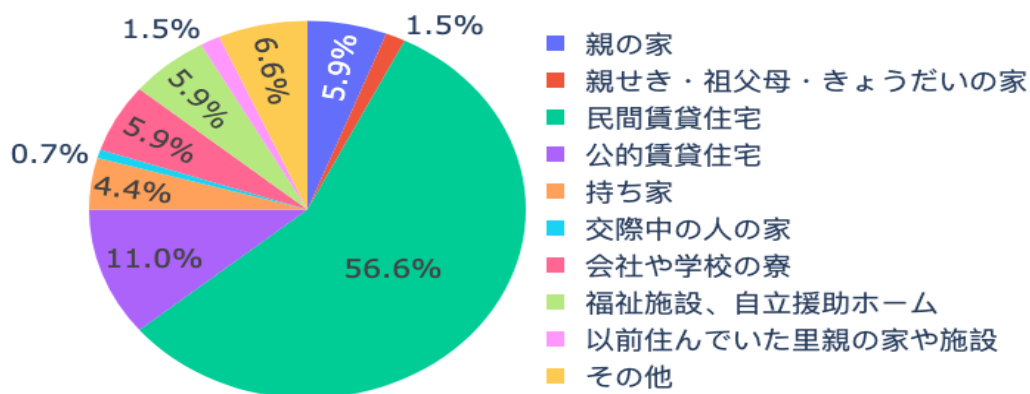
Q5-1_現在、働いている人にお聞きします。現在、どのような働き方をしていますか
(あてはまるもの全て) (n=84)



■現在の住まい

「現在の住まい」は、「民間賃貸」が 56.6%で最も多く、「公的賃貸住宅」の 11.0%が続く。民間・公的を合わせた「賃貸住宅」は、67.6%となっており、退所後は「賃貸住宅」で暮らすケースが多いことが分かる。

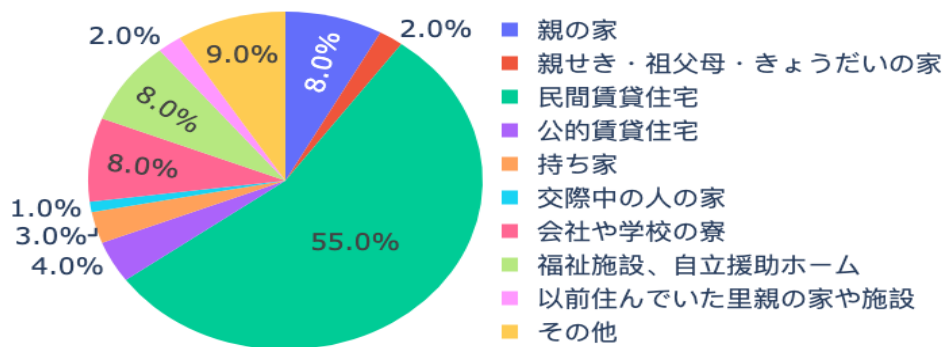
Q7_現在、どのようなところに住んでいますか (n=136)



==参考 児童のみ==

「現在の住まい」を児童のみで集計すると、「民間賃貸住宅」が 1 位なのは全体と変わらないが、全体の 2 位となっていた「公的賃貸住宅」が全体の 11.0%から 4.0%へ減少している。「公的賃貸住宅」の回答は、「母子生活支援施設の保護者」が多いようである。

Q7_現在、どのようなところに住んでいますか (児童のみ n=100)



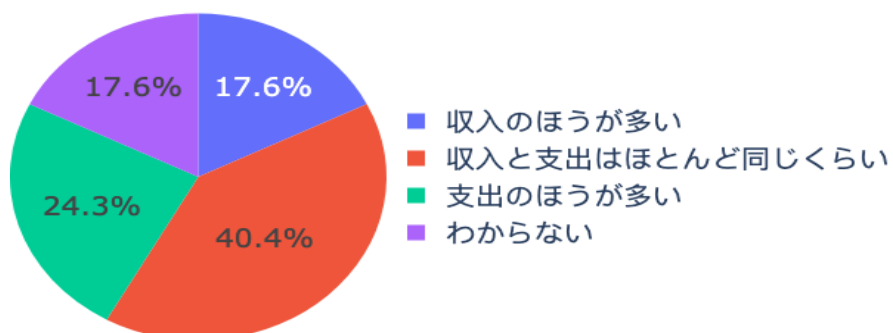
(3) 退所後の経済状況について

続いて、退所者の退所後の経済状況（家計収支・貯金の有無・ローンや借金の有無とその理由）についてまとめる。

■家計収支

「家計の収支」で最も多いのは、「収入と支出はほとんど同じくらい」の 40.4%で、次いで「支出のほうが多い」の 24.3%が続く。「収入のほうが多い」は 17.6%で、「わからない」と同率で最も少ない状況となっている。黒字化できているのは 2 割を切っており、赤字の人が 4 人に 1 人という結果となる。

Q8-1_現在、月々の収入（給料、年金、奨学金など）と支出（生活費、学費など）はどちらが多いと感じますか (n=136)



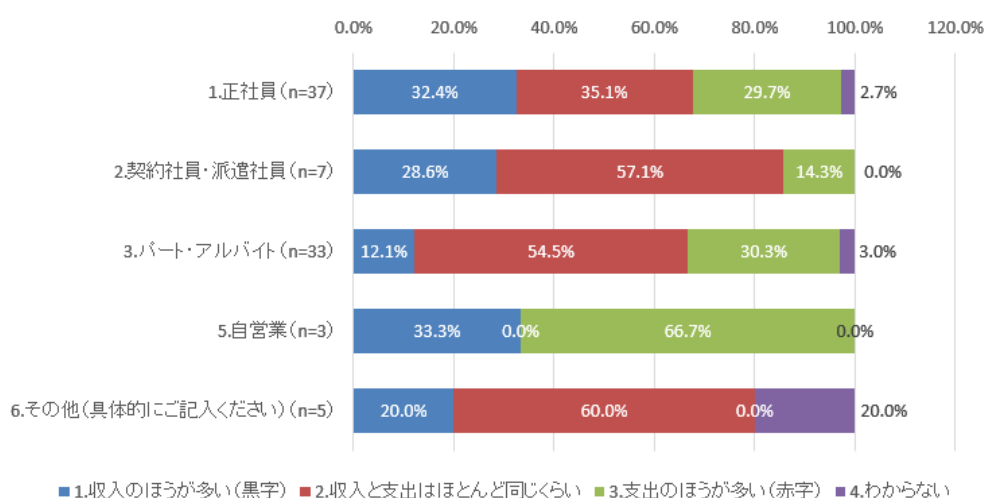
【クロス】家計収支×現在の働き方 (Q8-1×Q5-1) (n=85)

働き方によって「家計収支」がどのように変化するか、「家計収支」と「現在の働き方」

のクロス集計の結果を示す。

「正社員」および「契約社員・派遣社員」は、3割前後が黒字と回答しているのに対し、「パート・アルバイト」の黒字回答は12.1%となり、「正社員」・「契約社員・派遣社員」の半分以下となる。一方、「赤字」の割合は、「正社員（29.7%）」と「パート・アルバイト（30.3%）」は同等で、「契約社員・派遣社員（14.3%）」が最も低くなっている。「パート・アルバイト」だから「赤字」が多いという訳ではないことも分かる。

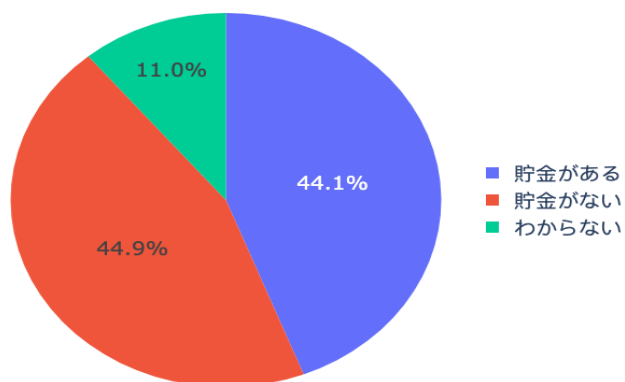
Q8-1×Q5-1_家計収支×現在の働き方（n=136）



■貯金の有無

「貯金の有無」に関しては、「貯金がない（44.9%）」と「貯金がある（44.1%）」で同程度である。

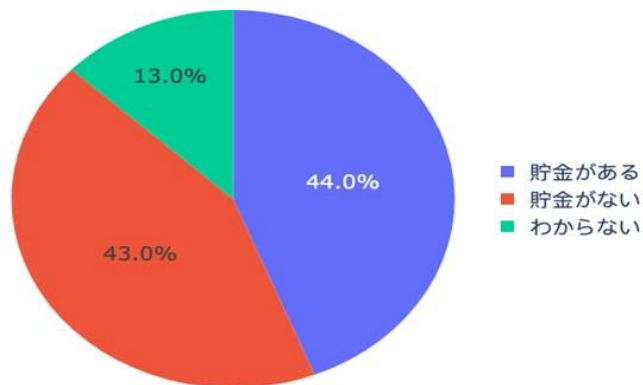
Q8-2_現在、月々の収入（給料、年金、奨学金など）以外に貯金がありますか（n=136）



==参考① 児童のみ==

「貯金の有無」を児童のみで集計すると、「貯金がない（43.0%）」が全体と比較して 1.9 ポイント少ない結果となっている。

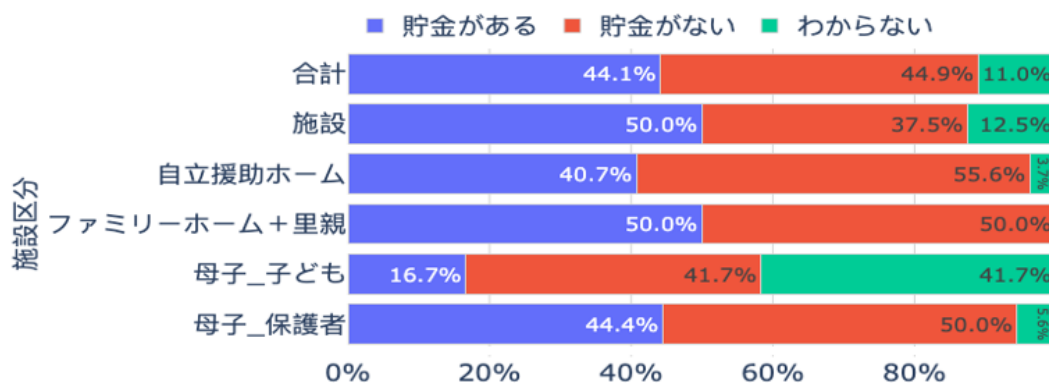
Q8-2_現在、月々の収入（給料、年金、奨学金など）以外に貯金がありますか
(児童のみ n=100)



==参考② 施設区分別の貯金の有無==

「貯金の有無」を施設区分でクロス集計すると、「母子生活支援施設の児童のみ」だけが「貯金がある」の割合が低いことが分かる。他の施設では「貯金がある」が 40%～50%程度であるのに対し、「母子生活支援施設の児童のみ」だけが 16.7%となっている。また、「母子生活支援施設の児童のみ」は、「わからない（41.7%）」が他施設の 1 割程度以下と比較して大きな割合を示している。

Q8-2×Q2-1_貯金の有無×施設区分 (n=136)



※グラフから「施設区分」の「その他」は除いた

【クロス】貯金の有無×現在の働き方（Q8-2×Q5-1）（n=85）

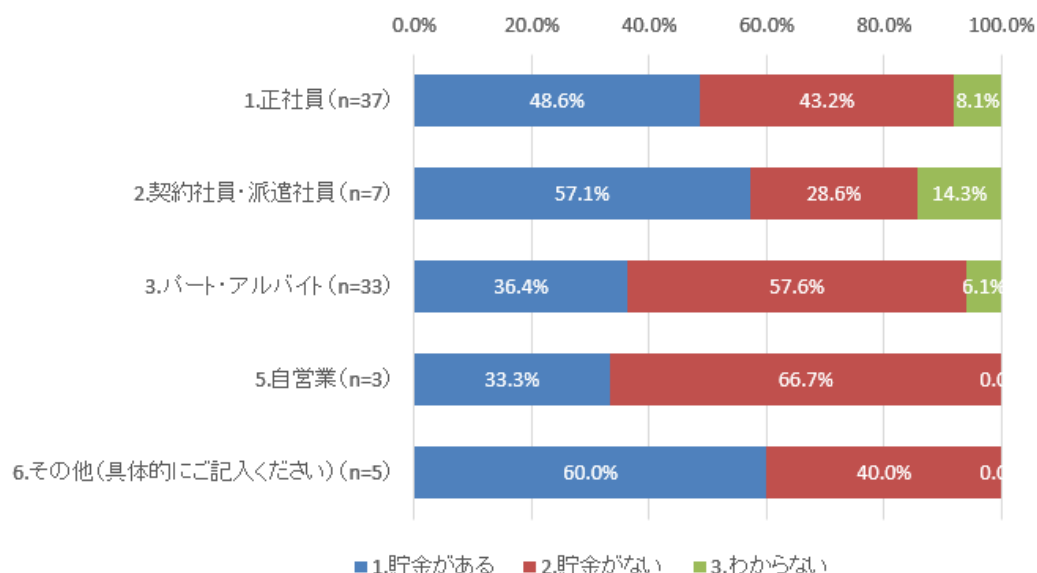
では、「貯金の有無」は「現在の働き方」によって、どのような差異が生じるのだろうか。

「貯金の有無」と「現在の働き方」とのクロス集計を示す。

「貯金がある」と回答した割合は、その他を除くと「契約社員・派遣社員（57.1%）」が最も多く、次いで「正社員（48.6%）」、「パート・アルバイト（36.4%）」が続く。

前述の「パート・アルバイト」の「黒字」率は12.1%であったのに対し、「貯金あり」の割合は36.4%となっている。しかし、必ずしも収入が貯蓄にまわっている訳でもなく、施設入所者に支給される児童手当が貯金に充てられていることも考えられる。

貯金の有無×現在の働き方（Q8-2×Q5-1）

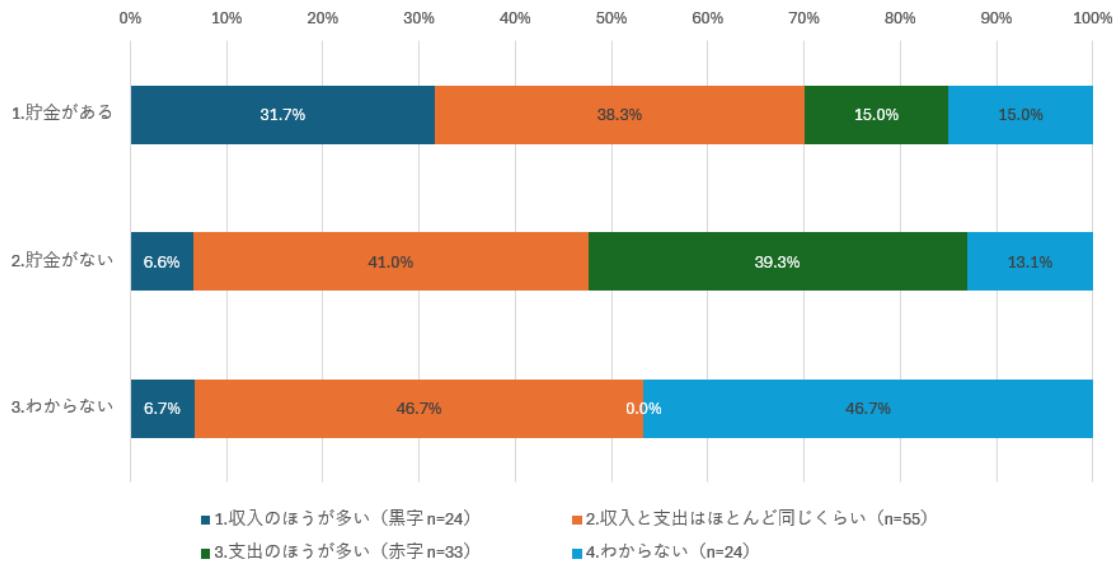


【クロス】貯金の有無×家計収支（Q8-2×Q8-1）

続いて「貯金の有無」と「家計収支」のクロス集計を示す。

「貯金がある」退所者の中で「収入のほうが多い」のは31.7%となり、「家計収支が黒字で更に貯金できている」という退所者層は3割程度となる。また、「貯金がない」と回答した退所者の中で、「支出のほうが多い」と回答した割合は39.3%となり、「貯金がない上に家計収支は赤字」という退所者が約4割おり、厳しい経済環境が見えてくる。

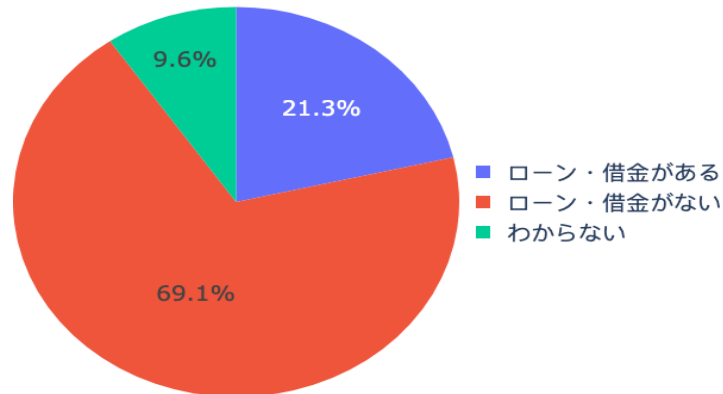
貯金の有無×家計収支（Q8-2×Q8-1）



■ローンや借金の有無とその理由

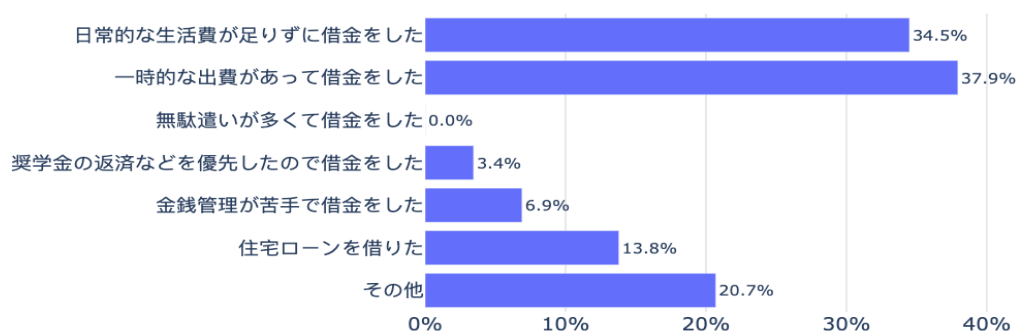
「ローンや借金の有無」に関しては、「ない」が 69.1%、「ある」が 21.3%となった。

Q8-4_現在、ローンや借金がありますか（奨学金は除く）（n=136）



「ローンや借金がある」の回答者に対して、「ローンや借金の理由」について質問すると、「一時的な出費があって借金をした（37.9%）」と「日常的な生活費が足りずに借金をした（34.5%）」が二つの大きな理由となっている。

Q8-5_ローンや借金の理由について、当てはまるもの全てを選んでください (n=29)

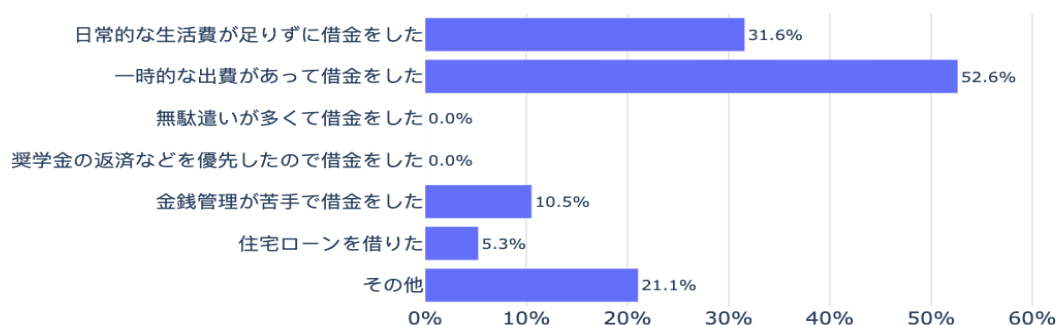


==参考 児童のみ==

「ローンや借金の理由」を児童のみで集計すると、二つの大きな理由は変わらないものの、1位の「一時的な出費があつて借金をした」は全体の37.9%から52.6%へ増加し、2位の「日常的な生活費が足りずに借金をした」は全体の34.5%から31.6%へ減少している。また、「住宅ローンを借りた」が、全体の13.8%から5.3%へ減少している。

「一時的な出費があつて借金をした」が半数を超えており、貯金から工面することが難しい状況が見えてくる。

Q8-5_ローンや借金の理由について、当てはまるもの全てを選んでください (児童のみ n=19)



(4) 退所後の健康状態について

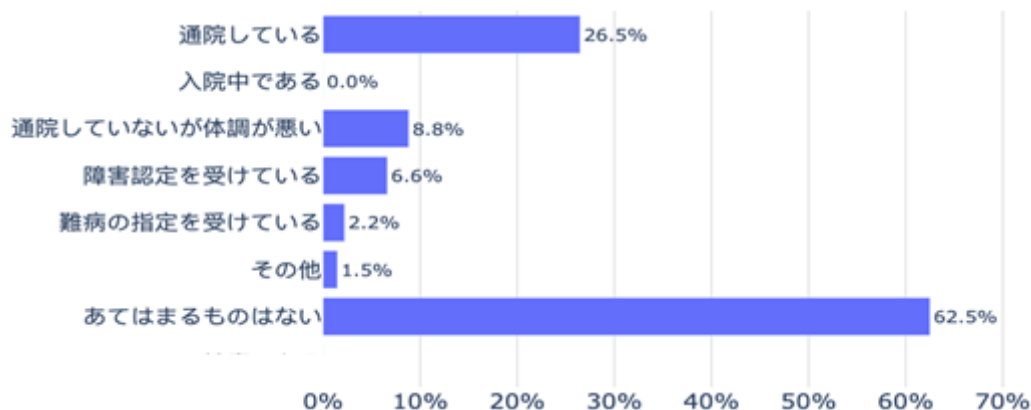
退所後の身体・精神に関する健康状態についてたずねた。

■身体の健康状態

現在の「身体の健康状態」に関しては、62.5%が通院や入院等に「あてはまるものはない」としている。

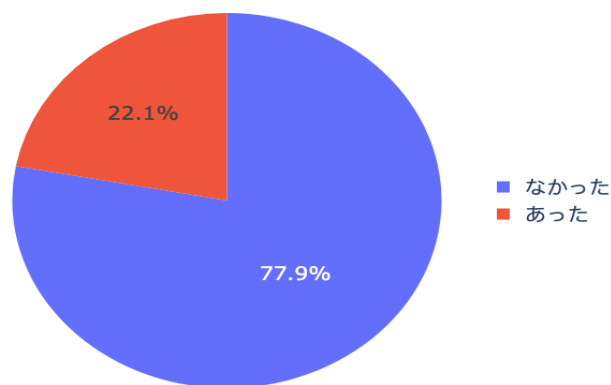
一方、26.5%の退所者は「通院している」と回答しており、「通院していないが体調が悪い(8.8%)」も合わせると、35.3%が身体的な不調を感じている状況となる。

Q9-1_現在の身体の状態として、あてはまるものを選んでください
(あてはまるもの全て) (n=136)



また、「過去1年間に、病院や歯医者に行きたいのに、行けなかった経験」を確認すると、22.1%が「あった」と回答している。

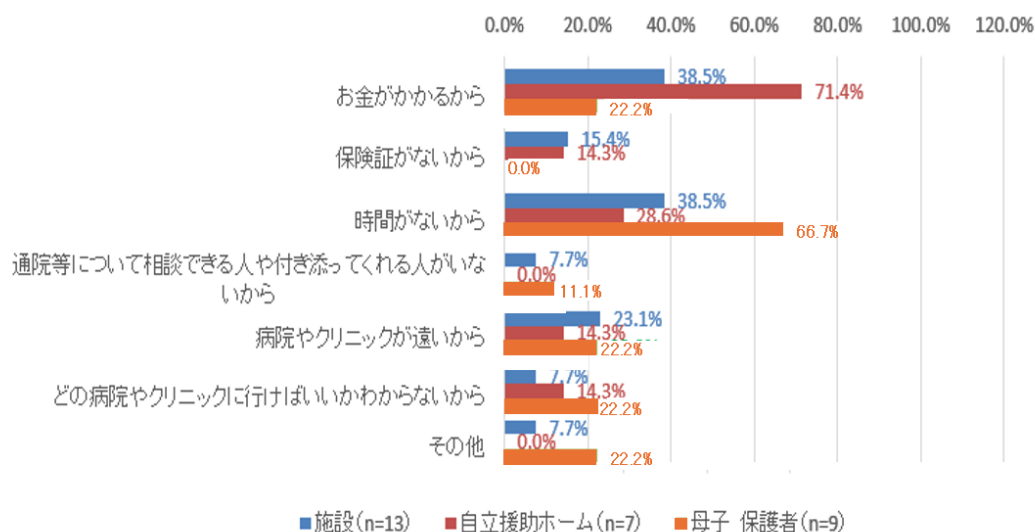
Q10-1_過去1年間に、病院や歯医者に行きたいのに、行けなかったことがありますか
(n=136)



==参考 施設区分別の通院できなかった理由==

調査では、上記設問で「通院できなかった」と回答した退所者へ、「通院できなかった理由」を質問している。施設区分別のその理由を見ると、「自立援助ホーム」では71.4%が「お金がかかるから」と、経済的な理由から通院をあきらめている状況が分かる。「お金がかかるから」は、他に「施設」で38.5%、「母子生活支援施設の保護者」で22.2%となっている。また、「保険証がないから」も「施設」で15.4%、「自立援助ホーム」で14.3%を確認できる。

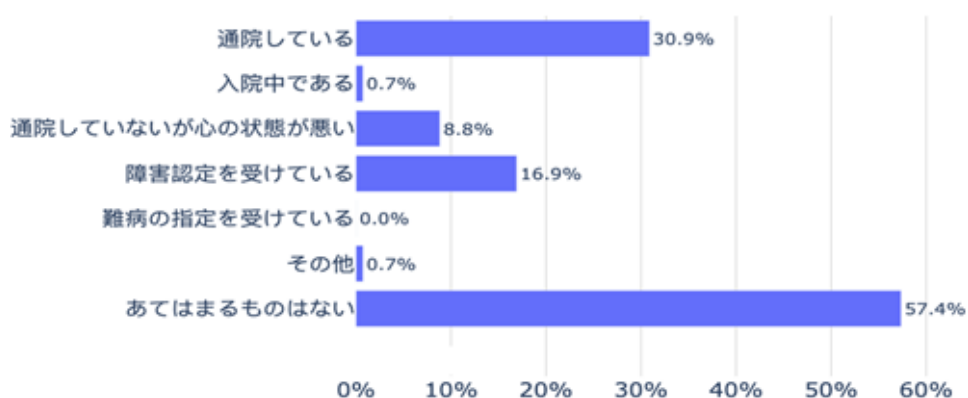
Q10-2×Q2-1_通院できなかった理由×施設区分 (n=30)



■精神の健康状態

現在の「精神の健康状態」としては、30.9%が「通院している」と回答しており、「入院中である」の0.7%と、「通院していないが心の状態が悪い」の8.8%を加えると、40.4%の退所者が、精神的な状態が悪いことを示している。

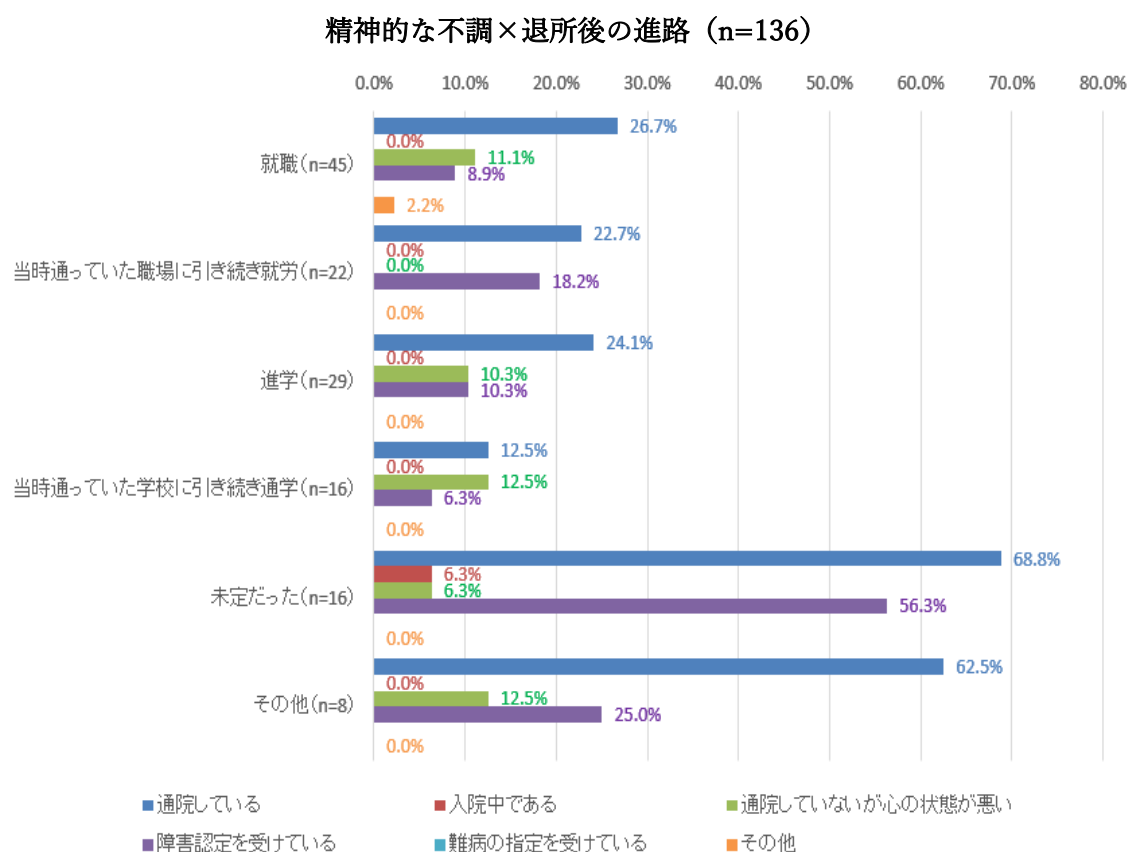
Q9-2_現在の心（精神）の状態として、あてはまるものを選んでください
(あてはまるもの全て) (n=136)



【クロス】精神の健康状態×退所直後の進路 (Q9-2×Q3)

精神的な不調と退所後の進路に関係があるかを見るために、「精神的な不調」と「退所後の進路」のクロス集計を示す。

「精神的不調での通院」をしている退所者の「退所後の進路」を見ると、「(進路が) 未定だった」が 68.8%で最も多くなっている。一方、進路が決まった退所者での「精神的不調での通院」は 12.5%～26.7%となっており、「(進路が) 未定だった」退所者の割合が高いことが分かる。



(5) 退所前の不安や自立準備について

退所者が、退所前に感じていた不安や自立準備の状況についてたずねた。

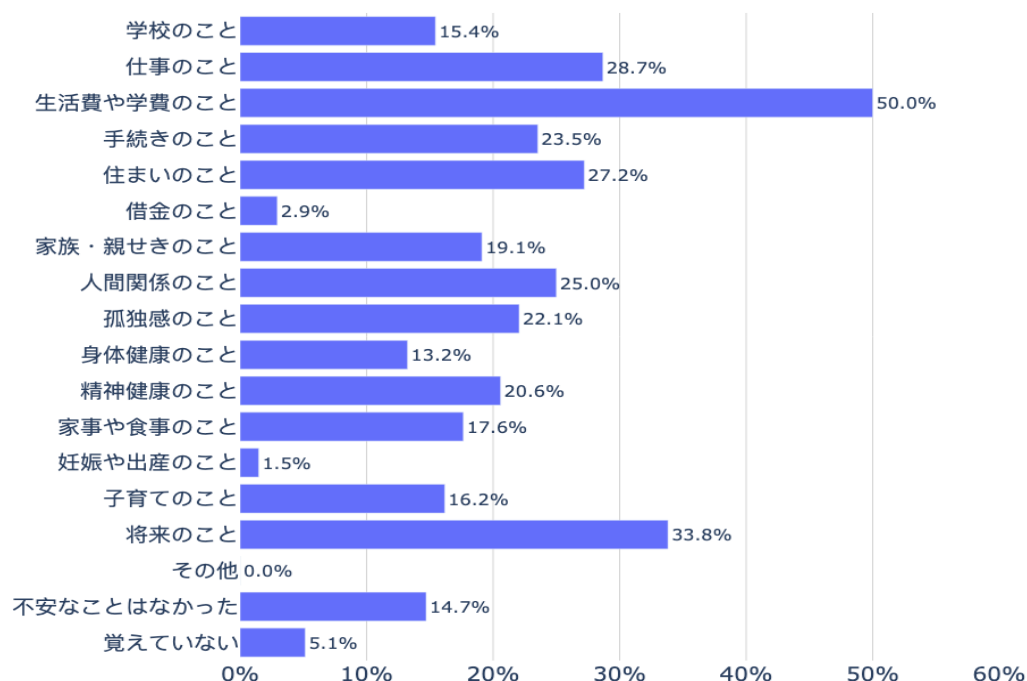
■退所に関する不安内容

「退所に関する不安要素」で最も多いのは「生活費や学費のこと」で、半数の 50.0%となる。次いで「将来のこと (33.8%)」、「仕事のこと (28.7%)」、「住まいのこと (27.2%)」が続く。退所後のお金のことや、仕事・住まいに関する不安要素が高い傾向となる。

また「人間関係のこと (25.0%)」、「孤独感のこと (22.1%)」、「精神健康のこと (20.6%)」も 2 割を超え、精神的な不安を抱える層が一定数いることが分かる。

「不安なことはなかった」は14.7%となった。

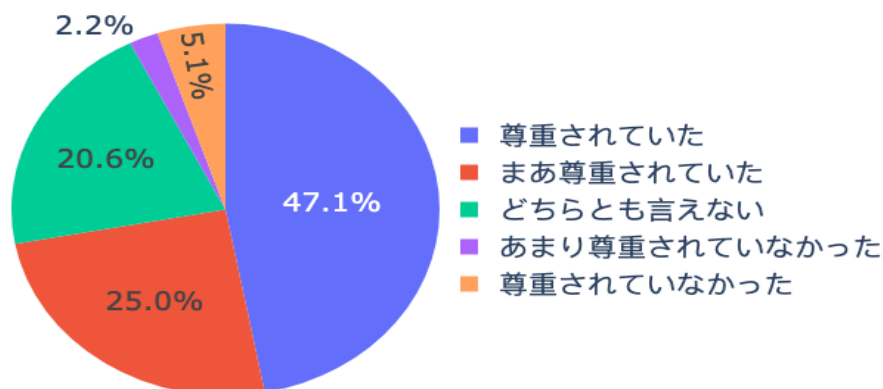
Q11_施設等を出る前後で、不安なことはありましたか（複数回答）（n=136）



■尊重されていた感覚

入所中の生活の中で、「自分の意向や意見が尊重されていたと感じるか」は、72.1%が尊重されていた（「尊重されていた（47.1%）」＋「まあ尊重されていた(25.0%)」）と回答している。「尊重されていなかった」と感じていたのは7.3%（「尊重されていなかった（5.1%）」＋「まあ尊重されていなかった(2.2%)」）にとどまった。

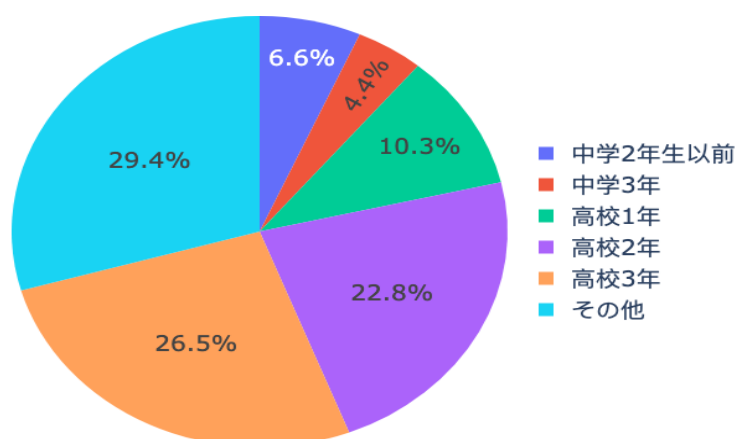
Q13_施設等で生活している時、あなたの意向や意見などは、施設職員や里親、児相の担当者から、尊重されていたと感じますか (n=136)



■就職や進学準備期間

「就職や進学準備時期」は「その他」を除き、「高校3年」が26.5%で最も多く、「高校2年（22.8%）」、「高校1年（10.3%）」が続く。概ね高校生の段階で自立準備を開始するものの、2年生と3年生の割合に関しては数ポイントの差にとどまっている。

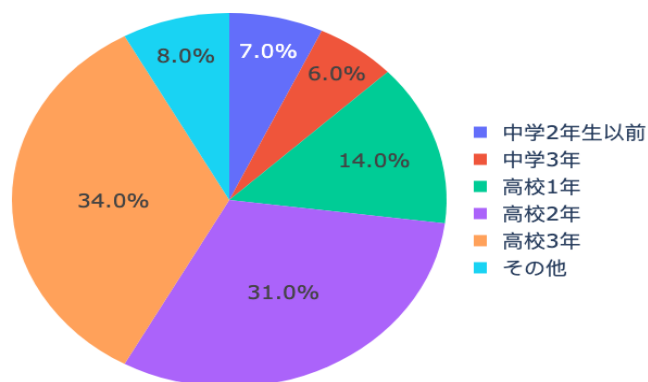
Q15_施設等で生活している時、将来の就職や進学に向けて、準備を始めたのは、いつ頃でしたか (n=136)



==参考 児童のみ==

「就職や進学準備開始時期」を児童のみで集計すると、1位の「高校3年」が34.0%と、全体よりも7.5ポイント高くなっており、2位の「高校2年」も31.0%で全体より8.2ポイント高くなっている。準備の開始時期が、やや遅く認識されているようである。

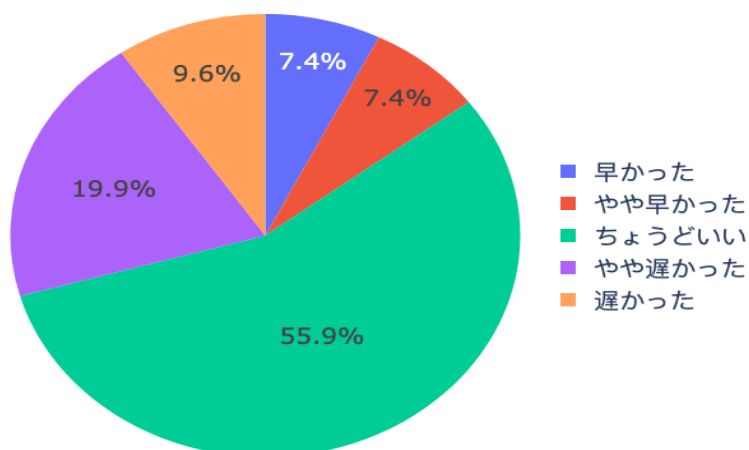
Q15_施設等で生活している時、将来の就職や進学に向けて、準備を始めたのは、
いつ頃でしたか (児童のみ n=100)



■自立準備の開始時期の評価

「自立準備の開始時期の評価」に関しては、55.9%が「ちょうどいい」と回答しており、「遅かった」と回答したのは29.5%（「遅かった（9.6%）」＋「やや遅かった（19.9%）」）となった。

Q16_施設等で生活している時、自立の準備を始めた時期について、
どのように思いますか (n=136)

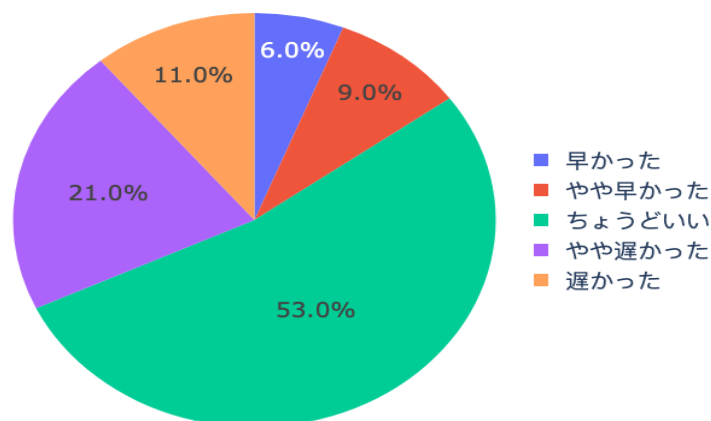


==参考 児童のみ==

「自立準備の開始時期の評価」を児童のみで集計すると、1位の「ちょうどいい」が全体より2.9ポイント低い53.0%、2位の「やや遅かった」が全体より1.1ポイント多い21.0%、

3位の「遅かった」が全体より 1.4 ポイント多い 11.0%となった。「遅かった層（「遅かった」＋「やや遅かった」）」は、全体では 29.5%であったが、児童のみは 32.0%となる。児童のみのほうが、自立準備の開始時期はやや遅めに感じていたようである。

Q16_施設等で生活している時、自立の準備を始めた時期について、
どのように思いますか（児童のみ n=100）



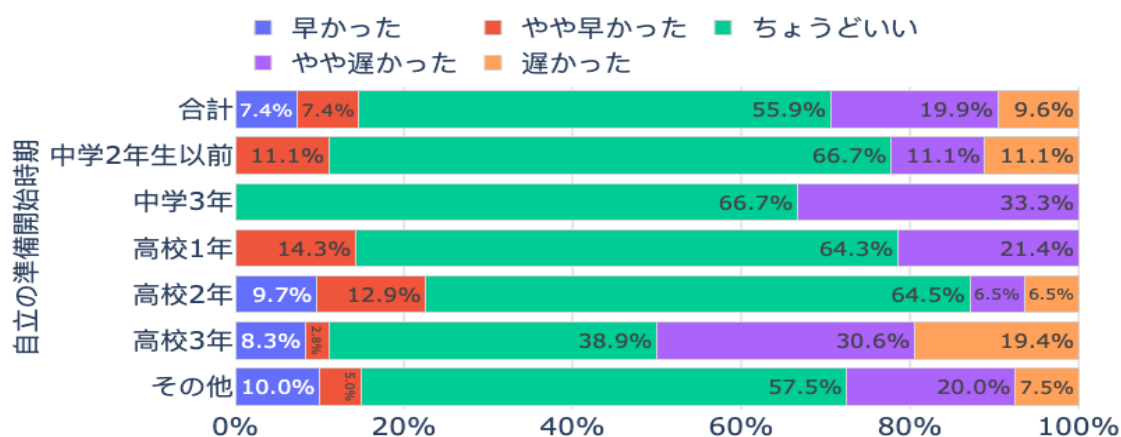
【クロス】自立準備の開始時期×評価（Q15×Q16）

では、どの時期に自立準備を開始したら適切と感じているのだろうか。

「自立準備の開始時期」と「自立準備の開始時期の評価」のクロス集計を示す。

準備開始期間が遅かったと感じているのは「高校3年」が最も多い 50.0%（「遅かった（19.4%）」＋「やや遅かった（30.6%）」）となっていることが分かる。「中学2年生以前」から「高校2年」までは、「ちょうどいい」が 65%前後となっており、あまり「早い」と感じる傾向が強くないことが分かる。

自立準備の開始時期×評価（n=136）



(6) 入所中のサポートについて

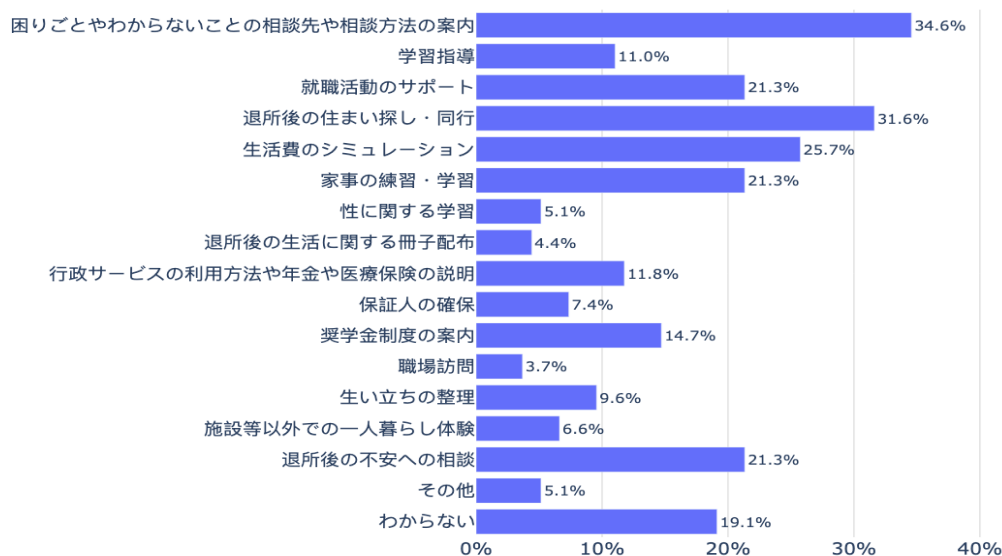
退所者が、入所中に経験したサポートについてたずねた。

■入所中、役に立ったサポート

入所中に「役に立った」と感じたサポートは、「困りごとやわからないことの相談先や相談方法の案内（34.6%）」が最も多く、次いで「退所後の住まい探し・同行（31.6%）」、「生活費のシミュレーション（25.7%）」が続く。また「家事の練習・学習（21.3%）」、「就職活動のサポート（21.3%）」や「退所後の不安への相談（21.3%）」も、2割を超えている。

「誰にどう相談すればいいかを知りたい」というニーズは高く、「退所後の住まい探し」をはじめとする「就職して一人で暮らす」ことへの対策のニーズも高いことが分かる。

Q17_施設を出る前に受けたサポートで「役に立った」と思うものをお答えください (あてはまるもの全て) (n=136)



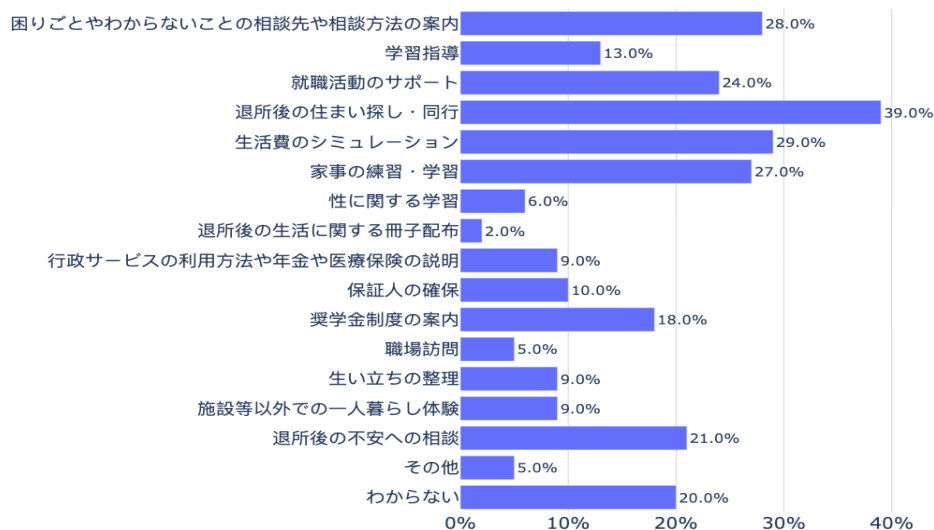
==参考① 児童のみ==

「役に立ったサポート」を児童のみで集計すると、1位は「退所後の住まい探し・同行（39.0%）」となった。全体の1位であった「困りごとやわからないことの相談先や相談方法の案内」は28.0%で2位になっている。

児童に限定すると、「困ったときのサポート」よりも、現実的に大人の助けが必要となる

「住まい探し」のほうに役立ったと感じていることが分かる。

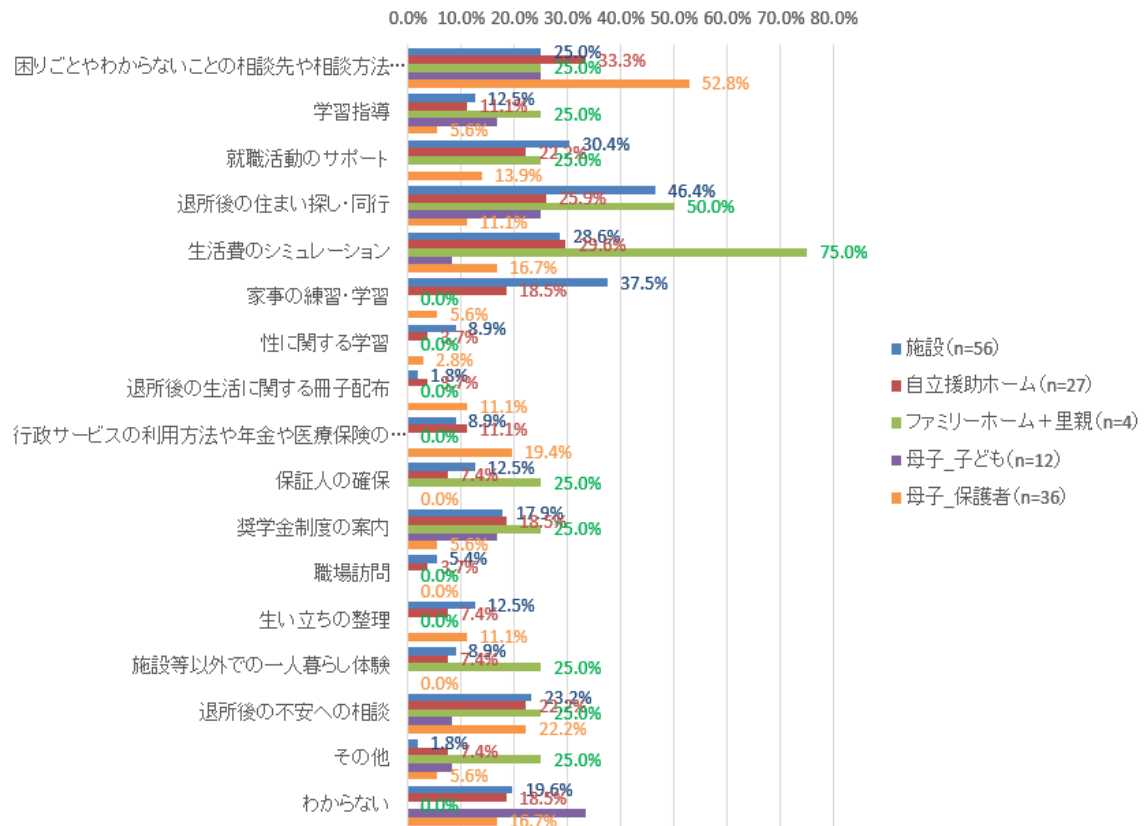
Q17_施設を出る前に受けたサポートで「役に立った」と思うものをお答えください
(あてはまるもの全て) (児童のみ n=100)



==参考② 施設区分別の役に立ったサポート==

「役に立ったサポート」を施設区分でクロス集計すると、「ファミリーホーム+里親」で「生活費のシミュレーション」が75.0%、「退所後の住まい探し・同行」が50.0%と、他のサポートよりも高い評価を得ていることが分かる。「母子生活支援施設の保護者」においても、「困りごとや分からないことの相談や相談方法の案内」が52.8%で半数を超えた。

Q17×Q2-1_役に立ったサポート×施設区分(n=136)



【クロス】役に立ったサポート×退所前の不安内容 (Q17×Q11)

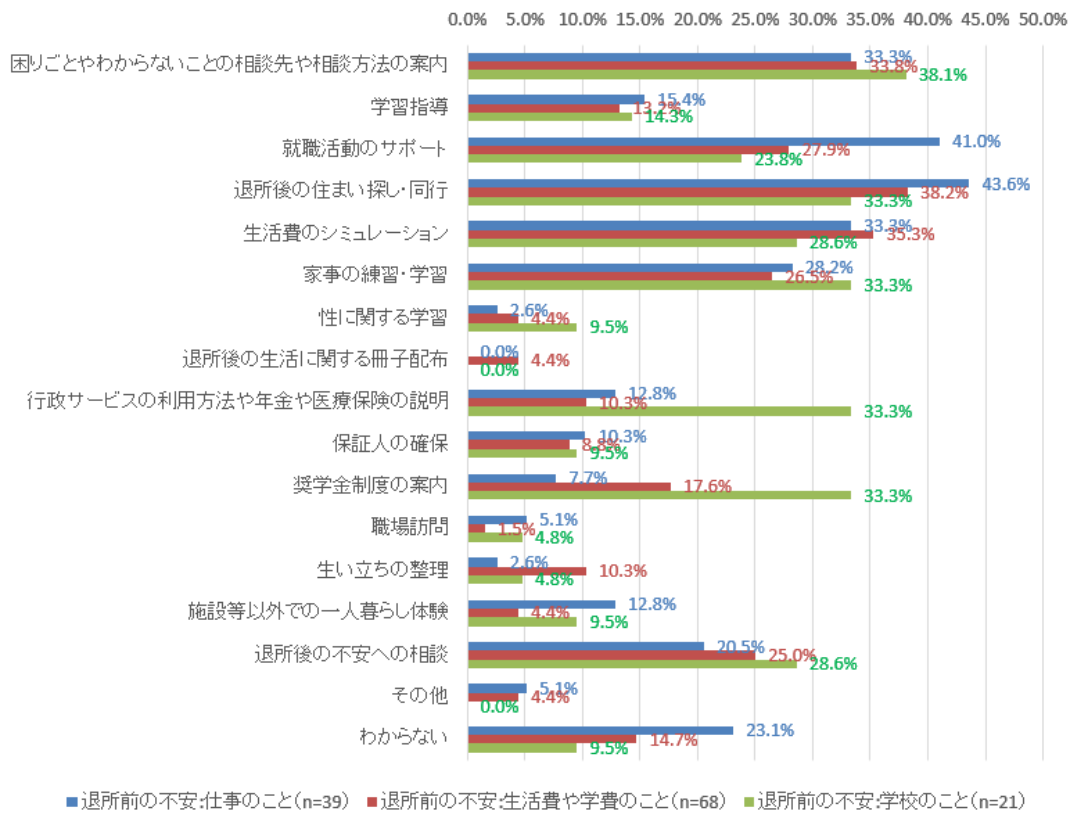
退所前の不安内容と、役に立ったサポートをクロス集計してみる。

「退所前に“仕事”に不安を持っていた層」は、「就職活動のサポート (41.0%)」、「住まい探し (43.6%)」や「施設等以外での一人暮らし体験 (12.8%)」と、就職して一人暮らしをするためのサポートの割合が他より高くなっている。

「退所前に“学校”に不安を持っていた層」は、「奨学金制度の案内 (33.3%)」や「行政サービスの利用方法 (33.3%)」と、進学先での奨学金申請に関するサポートの割合が他より高くなっている。

「退所前に“生活費や学費”に不安を持っていた層」は、「生活費シミュレーション (35.3%)」の割合が高く、「退所後の生活の冊子 (4.4%)」も唯一役に立ったと回答している。

役に立ったサポート×退所前の不安内容 (n=136)

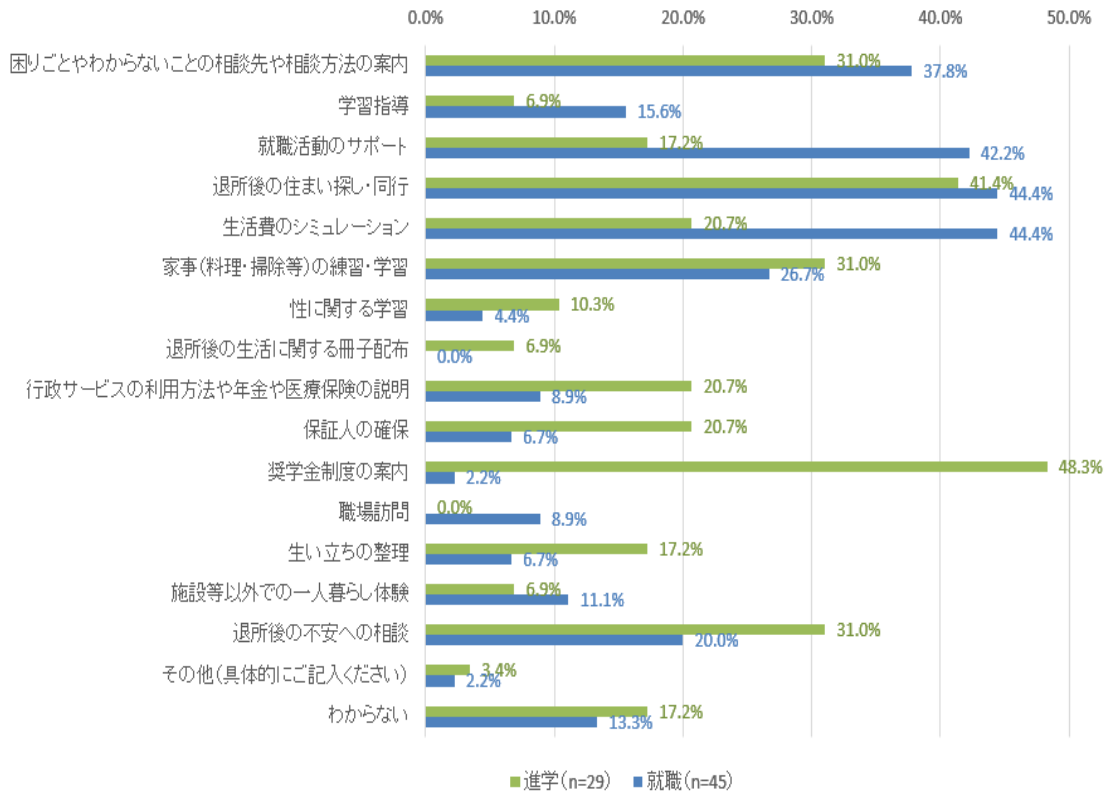


【クロス】役に立ったサポート×退所後の進路 (Q17×Q3)

退所後の「就職者」と「進学者」に関する、「役に立ったサポート」のクロス集計を示す。就職者が役に立ったと回答したサポートは、進学者と比較して「就職活動のサポート (42.2%)」と「生活費のシミュレーション (44.4%)」の割合が高くなっている。一方、進学者は、「奨学金の案内 (48.3%)」、「行政サービスの利用方法 (20.7%)」や「保証人の確保 (20.7%)」の割合が、就職者と比較して高くなっている。

就職者・進学者ともに高い割合となったのは「住まい探しの同行」で、就職者が 44.4%、進学者が 41.4%となった。両者に差が出たのが「生活費のシミュレーション」で、就職者が 44.4%だったのに対して、進学者は 20.7%と 23 ポイント以上の差となった。

役に立ったサポート×退所後の進路 (n=136)

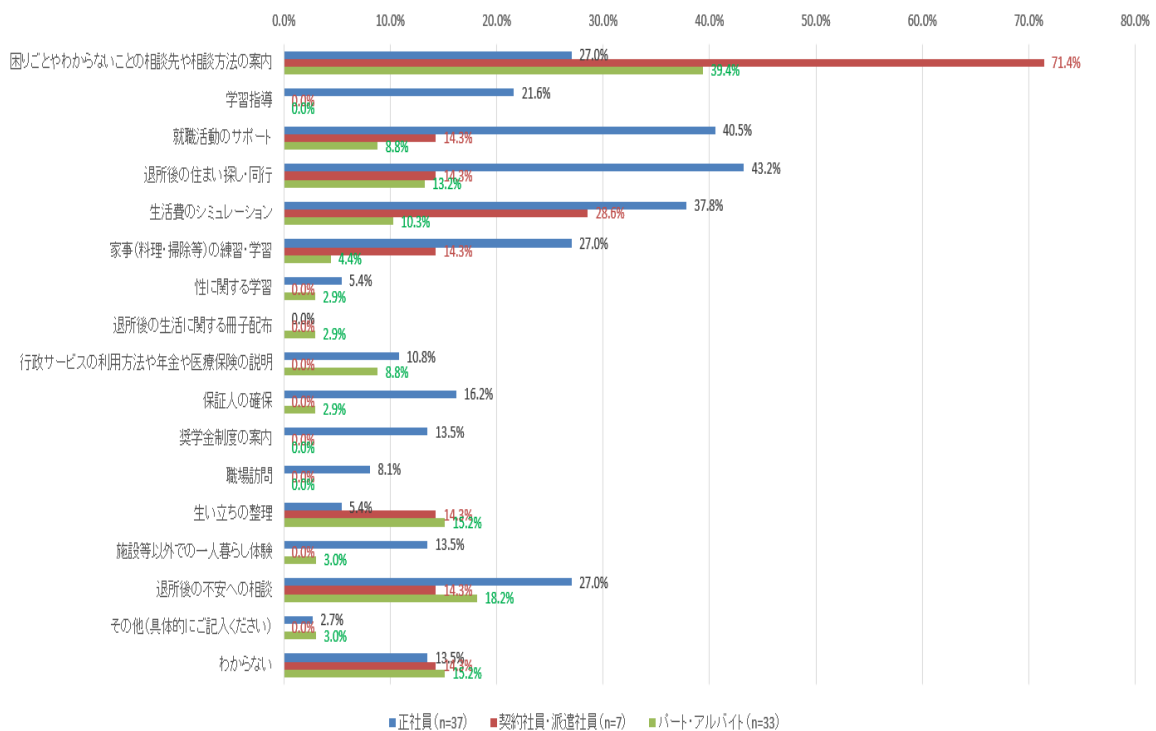


【クロス】役に立ったサポート×現在の働き方 (Q17×Q5-1)

現在の働き方で「正社員」・「契約社員・派遣社員」・「パート・アルバイト」に関する、「役に立ったサポート」のクロス集計を示す。

「正社員」は、「退所後の住まい探し (43.2%)」、「就職活動のサポート (40.5%)」や「生活費のシミュレーション (37.8%)」などが高くなっている。一方、「契約社員・派遣社員」は、「困りごとやわからないことの相談先や相談方法の案内」が 71.4%と最も多く、「パート・アルバイト」でも同項目が 39.4%と高い数値となった。

役に立ったサポート×現在の働き方 (n=136)

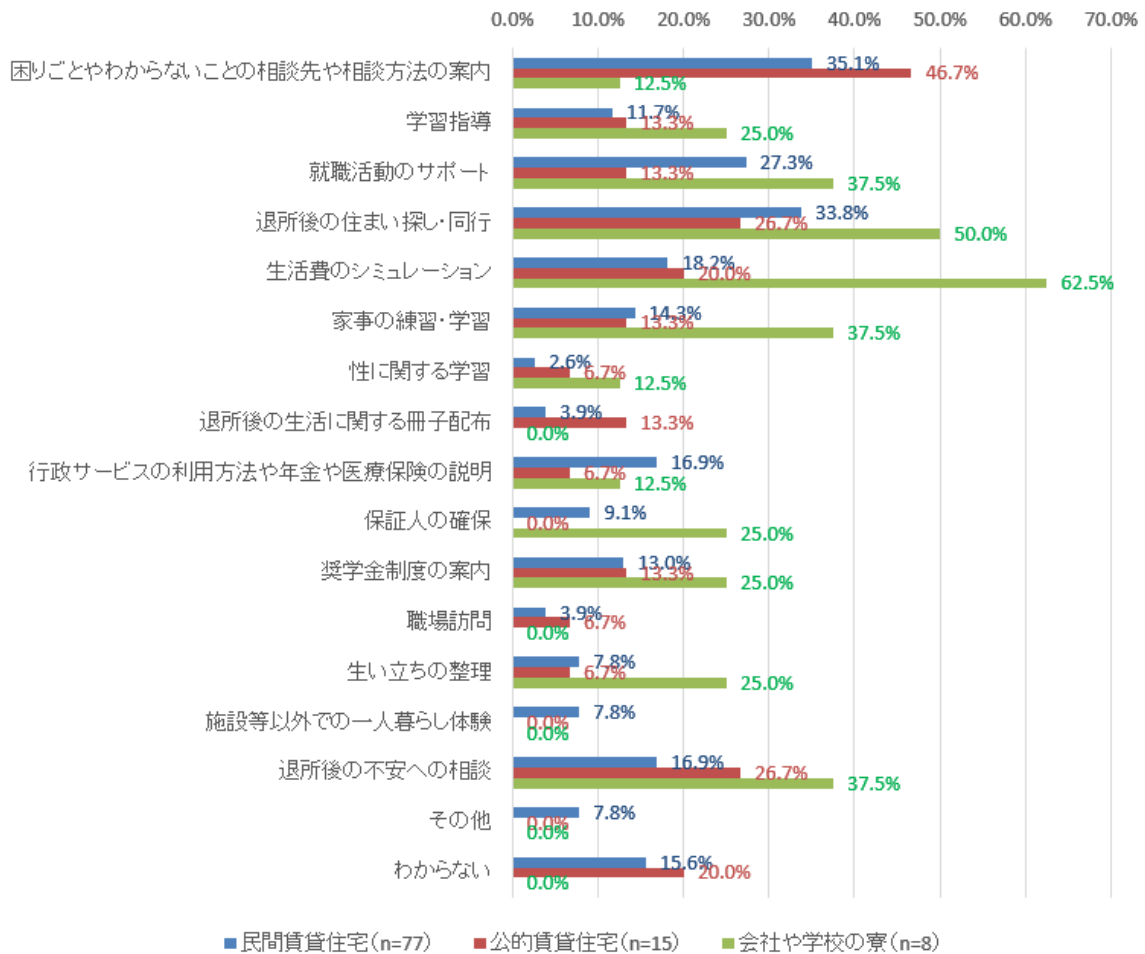


【クロス】役に立ったサポート×現在の住まい (Q17×Q7)

さらに、「役に立ったサポート」と「現在の住まい」でクロス集計を示す。

民間賃貸・公的賃貸の「賃貸住宅」で暮らす層に対して、会社や学校の「寮」で暮らす層では、「生活費のシミュレーション」、「退所後の住まい探し」、「家事の練習・学習」、「保証人の確保」や「奨学金制度の案内」などが高い割合となっている。

役に立ったサポート×現在の住まい (n=136)



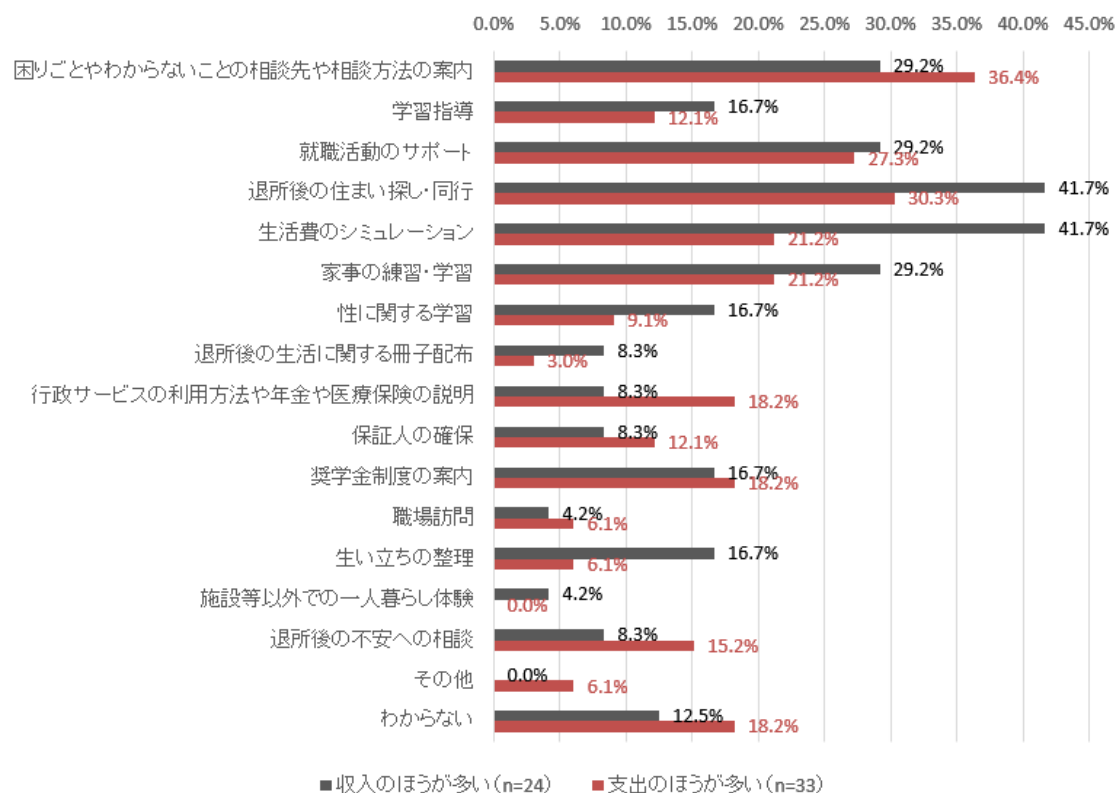
【クロス】役に立ったサポート×お金の収支 (Q17×Q8-1)

「お金の収支」と「役に立ったサポート」でクロス集計を行い、「収入のほうが多い（黒字）」と「支出のほうが多い（赤字）」の役に立ったサポートの比較を示す。

「赤字」の人は、「困りごとやわからないことの相談先や相談方法の案内」、「行政サービスの利用方法や年金や医療保険の説明」や「退所後の不安への相談」の割合が「黒字」の人よりも高い。一方、「黒字」の人は、「退所後の住まい探し・同行」、「生活費のシミュレーション」、「家事の練習・学習」や「生い立ちの整理」などが「赤字」の人より高くなっていることが分かる。

「赤字」の退所者は、目の前の課題や不安へ対処するサポートを、「黒字」の退所者は、暮らしを良くするための家事や収支といったサポートを役に立ったと感じているようである。

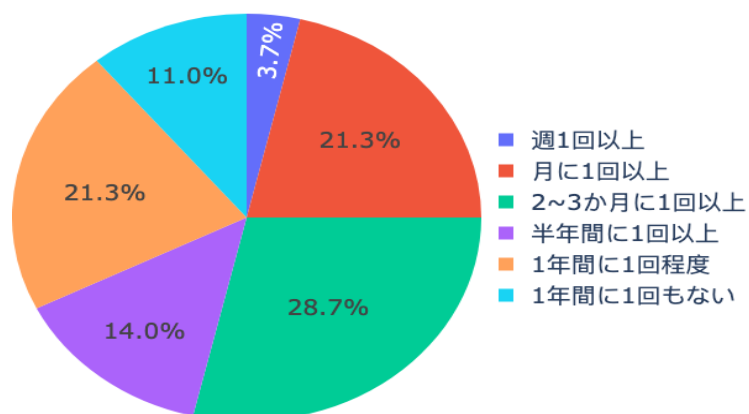
役に立ったサポート×お金の収支 (n=136)



■施設からの連絡頻度

この1年間での「施設からの連絡頻度」は、「2～3 か月に1回以上」が28.7%で最も多く、次いで「月に1回以上」と「1年間に1回程度」が21.3%で並ぶ。「月に1回以上」と「2～3 か月に1回以上」を合わせると、50.0%で半数となっている。

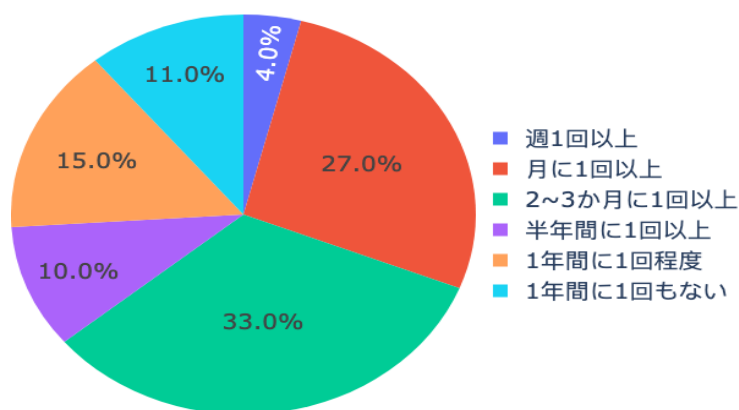
Q20-1_この1年間で、施設等から、どのくらい連絡がありましたか (n=136)



==参考① 児童のみ==

この1年間での「施設からの連絡頻度」を児童のみで集計すると、1位は全体と変わらず「2～3か月に1回以上（33.0%）」であるが、2位は単独で「月に1回以上」の27.0%となり、3位が「1年間に1回程度（15.0%）」となる。「月に1回以上」と「2～3か月に1回以上」を合わせると、全体では50.0%となっていたが、60.0%と10ポイント増加している。

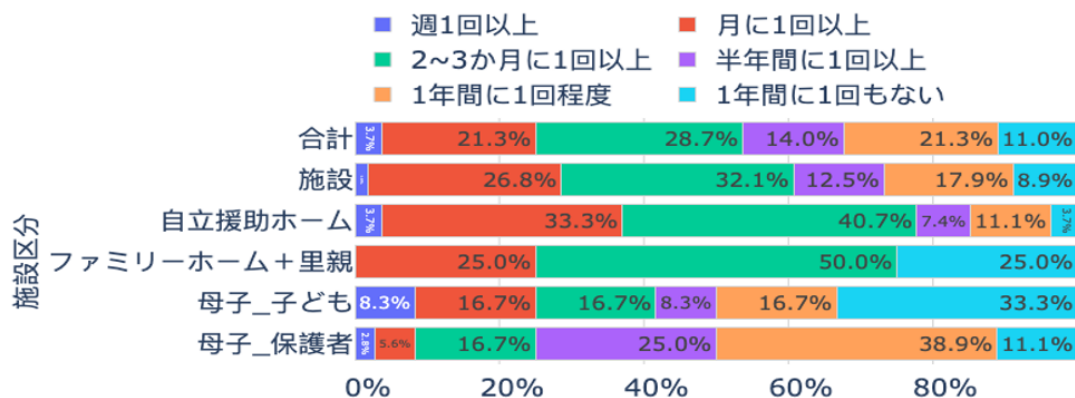
Q20-1_この1年間で、施設等から、どのくらい連絡がありましたか（児童のみ n=100）



==参考② 施設区分別の施設からの連絡頻度==

この1年間での「施設からの連絡頻度」を施設区分でクロス集計すると、「自立援助ホーム」の連絡頻度が他の施設よりもやや高いことが分かる。「週1回以上」と「月に1回以上」を足した割合は、他施設が30%未満なのに対し、「自立援助ホーム」は37.0%（「週1回以上（3.7%）」＋「月に1回以上（33.3%）」）となっている。

Q20-1×Q2-1_施設からの連絡頻度×施設区分（n=136）

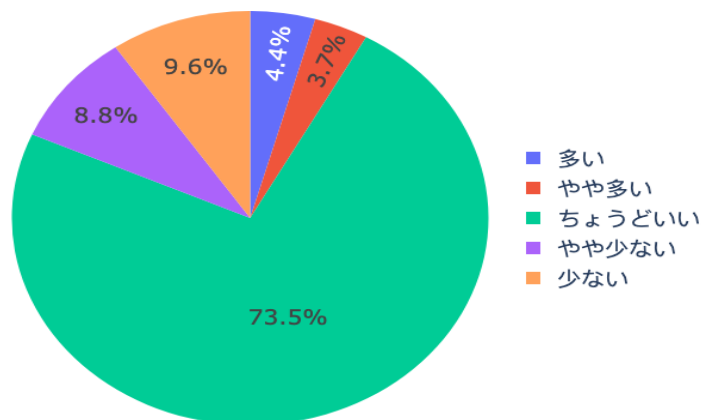


※グラフから「施設区分」の「その他」は除いた

■連絡頻度の満足度

「施設からの連絡頻度に対する満足度」は、73.5%が「ちょうどいい」と回答しており、多い（「多い（4.4%）」＋「やや多い（3.7%）」）と感じているのは8.1%で、少ない（「少ない（9.6%）」＋「やや少ない（8.8%）」）と感じているのは18.4%となっている。

Q20-2_施設等からの連絡の頻度について、どのように思いますか (n=136)



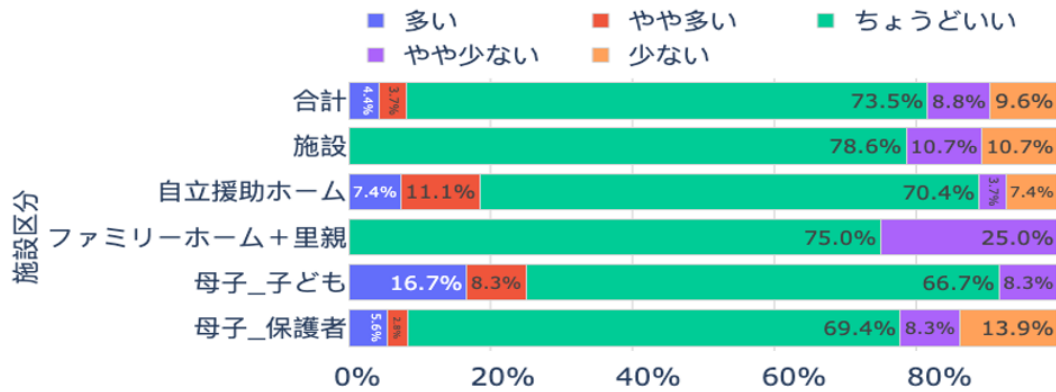
==参考 施設区分別の施設からの連絡頻度に対する満足度==

「施設からの連絡頻度に対する満足度」を施設区分でクロス集計すると、「多い・やや多い」と回答している「多い層」に施設ごとの差があることが分かる。

「施設」と「ファミリーホーム＋里親」では「多い層」の回答はなく、「自立援助ホーム」の18.5%、「母子生活支援施設の児童のみ」の25.0%が、他施設と比較して高い割合となっている。

一方、「少ない・やや少ない」の「少ない層」は、「自立援助ホーム」が11.1%、「母子生活支援施設の児童のみ」が8.3%で、他施設と比較して低い割合となっている。

Q20-2×Q2-1_施設からの連絡頻度に対する満足度×施設区分 (n=136)



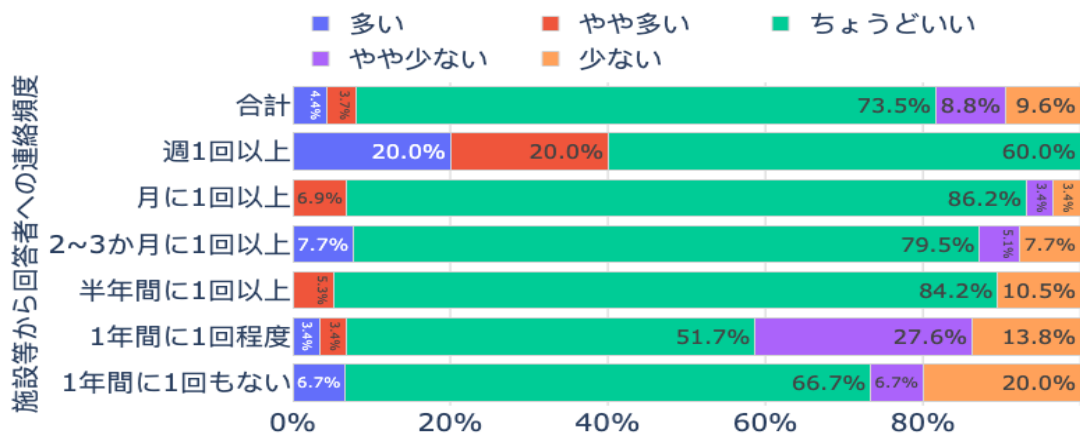
※グラフから「施設区分」の「その他」は除いた

【クロス】連絡頻度×満足度 (Q20-1×Q20-2)

「連絡頻度」と「満足度」をクロス集計してみる。

「週1回以上」の場合は、「多い」が 40.0%（「多い (20.0%)」+「やや多い (20.0%)」) となっており、「月に1回以上」の場合、「多い」は1割を切る状況となっている。概ね「ちょうどいい」と回答しているが、「週1回以上」に関しては、多く感じている層が4割いるようである。

連絡頻度×満足度 (n=136)



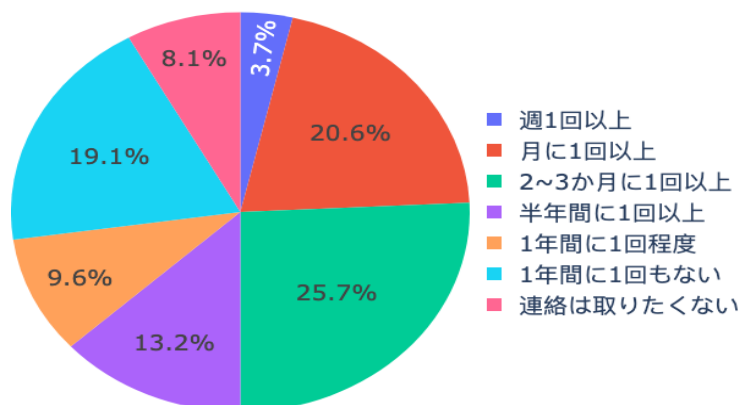
■回答者からの連絡頻度

一方、「回答者側から施設への連絡頻度」を確認すると、最も多いのは「2~3 か月に1回以上」の 25.7%で、「月に1回以上」の 20.6%が続く。半数の 50.0%は、「2~3 か月に1回」

か、それよりも頻繁に連絡していることが分かる。

また、「1年に1回もない（19.1%）」「連絡は取りたくない（8.1%）」を合わせると、27.2%がほとんど連絡をしていない状況も見えてくる。

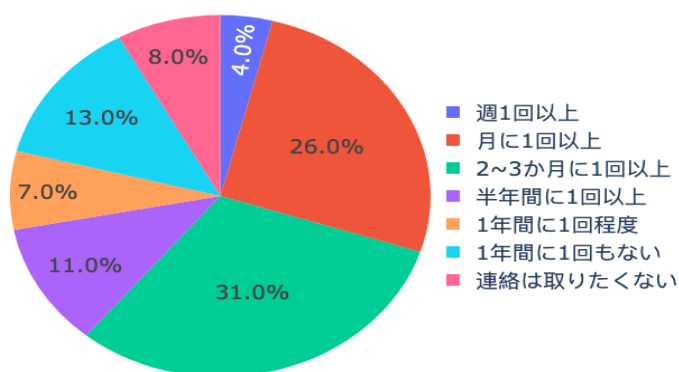
Q20-3_この1年間で、あなたから施設等へ、どのくらい連絡をしましたか (n=136)



==参考 児童のみ==

「回答者側から施設への連絡頻度」を児童のみで集計すると、全体と比べて頻繁に連絡している状況が見えてくる。最も多い「2~3 か月に1回以上」は、全体の25.7%から31.0%へ増加している。2番目に多い「月に1回以上」は26.0%で、「2~3 か月に1回」か、それよりも頻繁に連絡している層が増加し、全体の50.0%から61.0%となっている。

Q20-3_この1年間で、あなたから施設等へ、どのくらい連絡をしましたか
(児童のみ n=100)

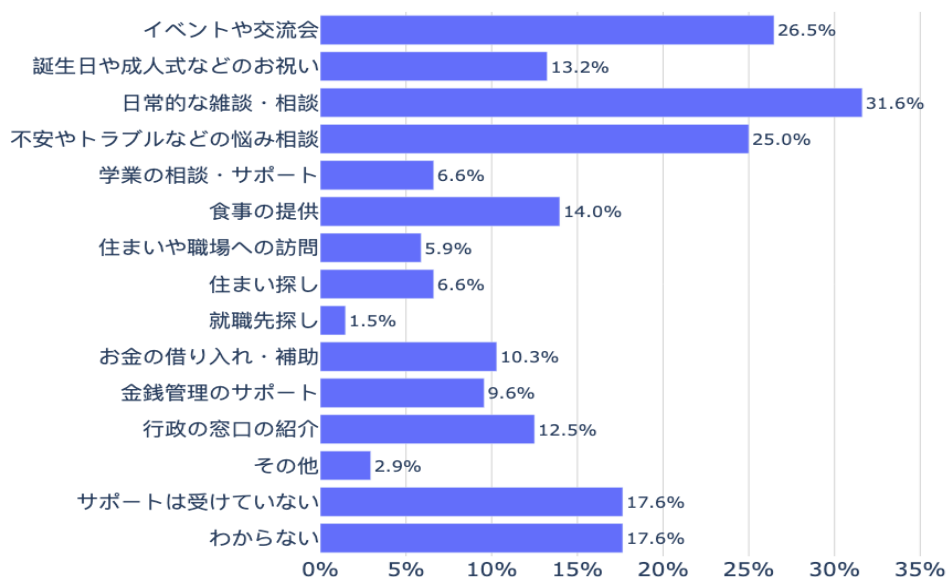


■退所後に役に立ったと思うサポート

「退所後に役に立ったと思うサポート」に関しては、「日常的な雑談・相談」が31.6%で最も多く、次いで「イベントや交流会」の26.5%、「不安やトラブルなどの悩み相談」の

25.0%が続く。

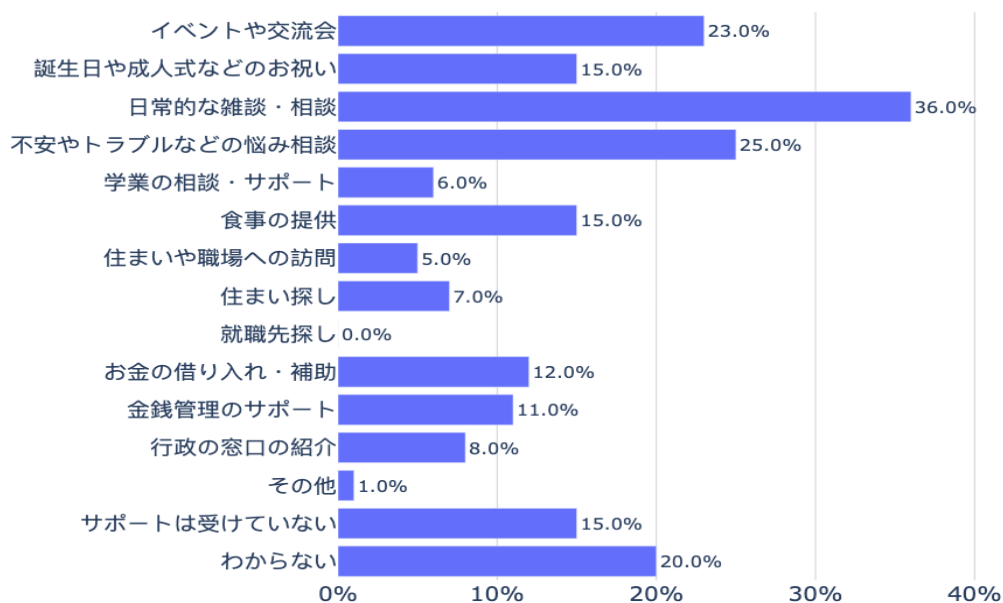
Q21_施設等を出た後に受けたサポートで「役に立った」と思うものをお答えください
(あてはまるもの全て) (n=136)



==参考① 児童のみ==

「退所後に役に立ったと思うサポート」を児童のみで集計すると、全体と順位が異なる。
1位の「日常的な雑談・相談 (36.0%)」は全体と同様であるが、2位と3位が全体の順位と入れ替わっている。2位が「不安やトラブルなどの悩み相談 (25.0%)」、3位が「イベントや交流会 (23.0%)」となっている。

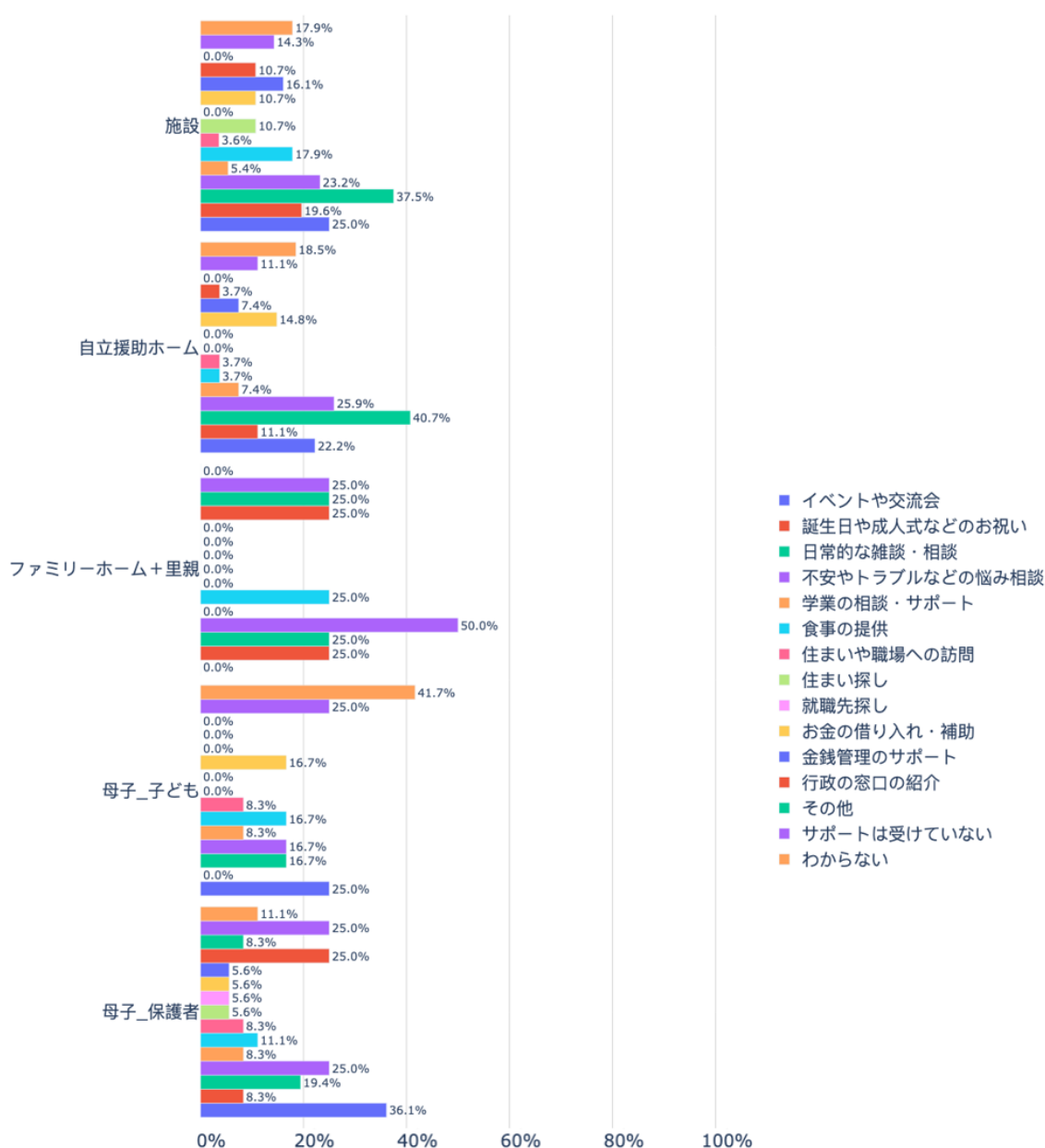
Q21_施設等を出た後に受けたサポートで「役に立った」と思うものをお答えください
(あてはまるもの全て) (児童のみ n=100)



==参考② 施設区分別の退所後に役に立ったと思うサポート==

「退所後に役に立ったと思うサポート」を施設区分でクロス集計すると、施設ごとの特色が見えてくる。「施設」と「自立援助ホーム」は似た傾向で、「日常的な雑談・相談」、「イベントや交流会」と「不安やトラブルなどの悩み相談」が高い傾向となる。一方、「ファミリーホーム+里親」では、「不安やトラブルなどの悩み相談」だけが 50.0%で、ほか 6 つのサポートは 25.0%となっている。

Q21×Q2-1_退所後に役に立ったと思うサポート×施設区分 (n=136)

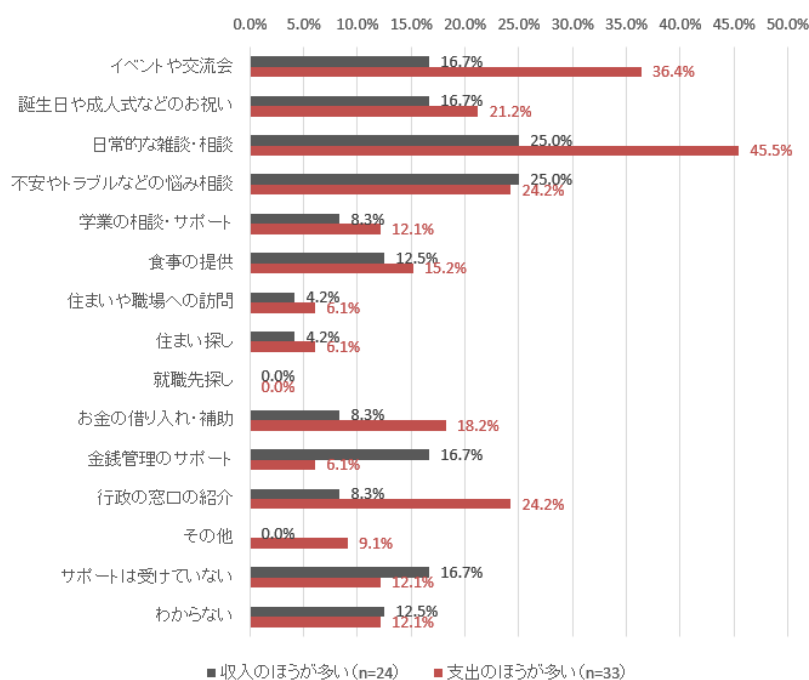


※グラフから「施設区分」の「その他」は除いた

【クロス】退所後に役に立ったと思うサポート×収支 (Q21×Q8-1)

「退所後に役に立ったと思うサポート」と月々の収支が「支出のほうが多い（赤字）」と「収入のほうが多い（黒字）」のクロス集計を示す。「赤字」の人は、「日常的な雑談・相談」、「イベントや交流会」や「行政の窓口の紹介」、「お金の借り入れ・補助」などが「黒字」の人よりも高くなっている。一方「黒字」の人は「金銭管理サポート」や「サポートは受けていない」が「赤字」の人よりも高くなっている。

退所後に役に立ったと思うサポート×収支 (n=136)

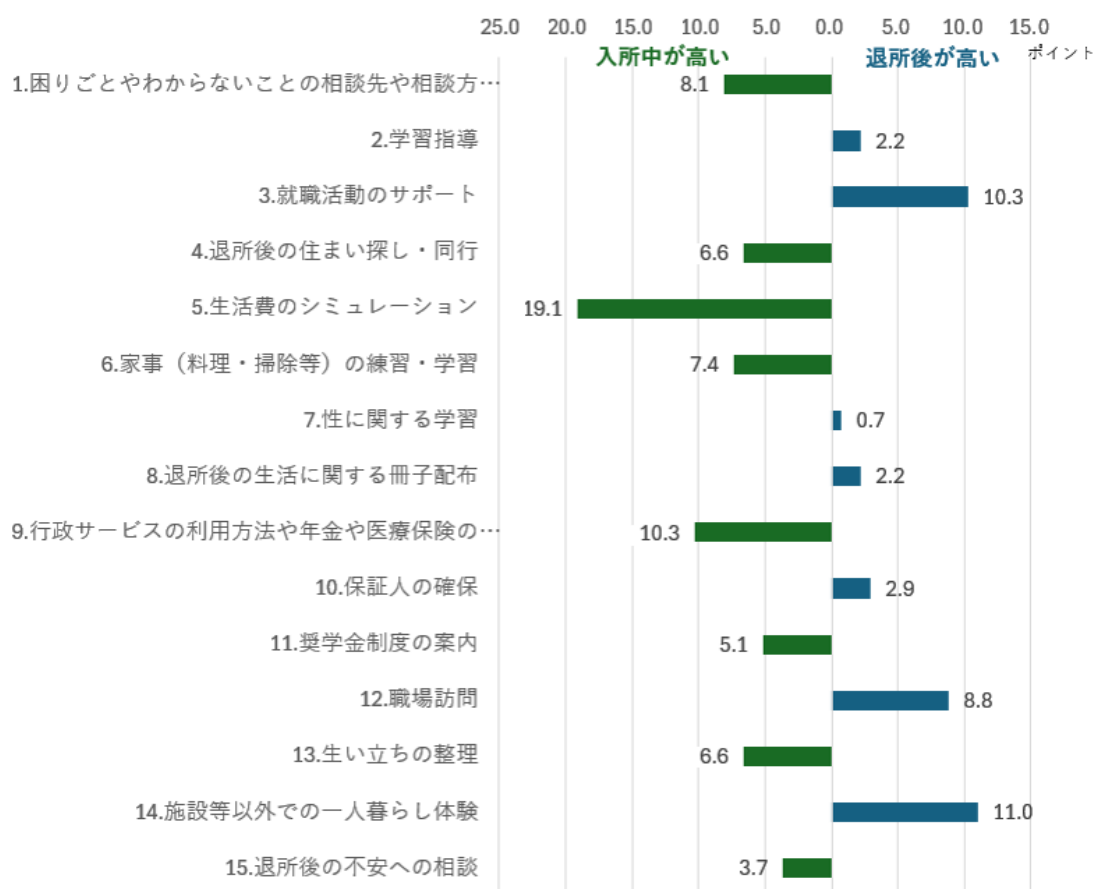


【比較】入所中に役に立ったサポートと退所後に役に立ったと思うサポート比較 (Q17・Q21)

「役に立ったサポート」に関して、“入所中”に役に立ったと感じていたことと“退所後”に役に立ったと感じた割合を比較した。

「退所後に役に立ったと思うサポート」の値から「入所中に役に立ったサポート」の値を減算し、その差のポイント数を算出する。すると、“退所後”に役に立ったと感じたサポートとして、「施設等以外での一人暮らし体験」、「就職活動のサポート」、「職場訪問」などがあげられる。一方、“入所中”に役に立ったと回答した割合が高かったものは、「生活費のシミュレーション」、「行政サービスの利用方法や年金や医療保険の説明」、「困りごとやわからないことの相談先や相談方法の案内」などがあげられる。

退所後に役に立ったと思うサポート - 入所中に役に立ったサポート比較



※ポイント数は、「退所後に役に立ったと思うサポート」の値から
「入所中に役に立ったサポート」の値を引いて算出した数値

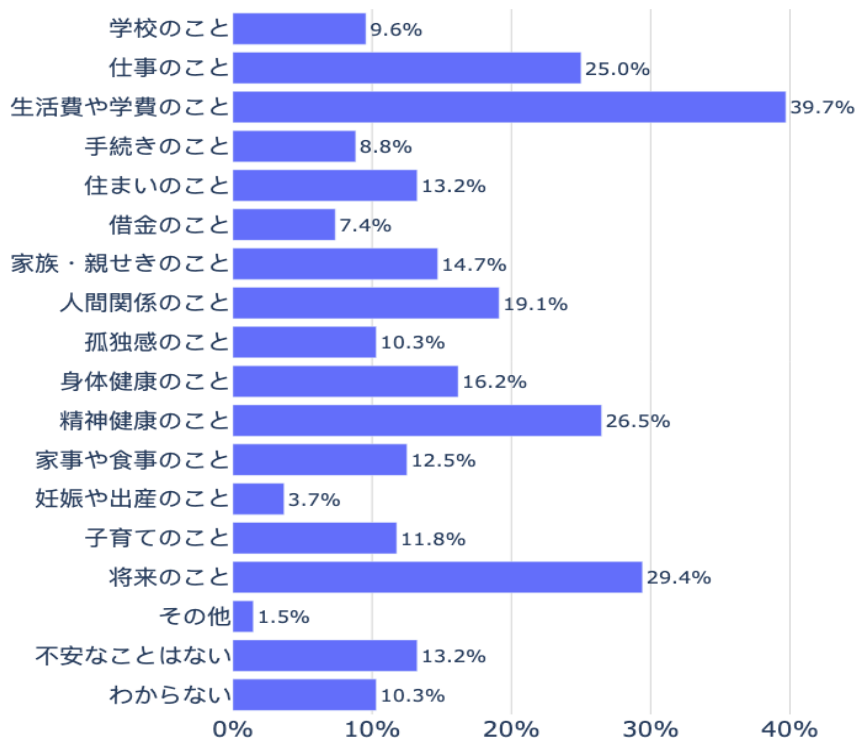
（７）退所後の課題について

退所者が、退所後に感じている課題についてたずねた。

■現在困っていること

「退所後の現在困っていること」は、「生活費や学費のこと」が 39.7%で最も多く、次いで「将来のこと（29.4%）」「精神健康のこと（26.5%）」が続く。「不安なことはない」は 13.2%となっている。

Q24_現在、困っていることや不安な事、心配なことがあれば、教えてください
(あてはまるもの全て) (n=136)



==参考 施設区分ごとの現在困っていること==

「現在困っていること」を施設区分でクロス集計すると、施設ごとに異なる傾向が見える。「施設」は、「生活費や学費のこと (32.1%)」と「将来のこと (30.4%)」が 30%を超え、「仕事のこと」と「精神的な健康のこと」が 23.2%で続く。

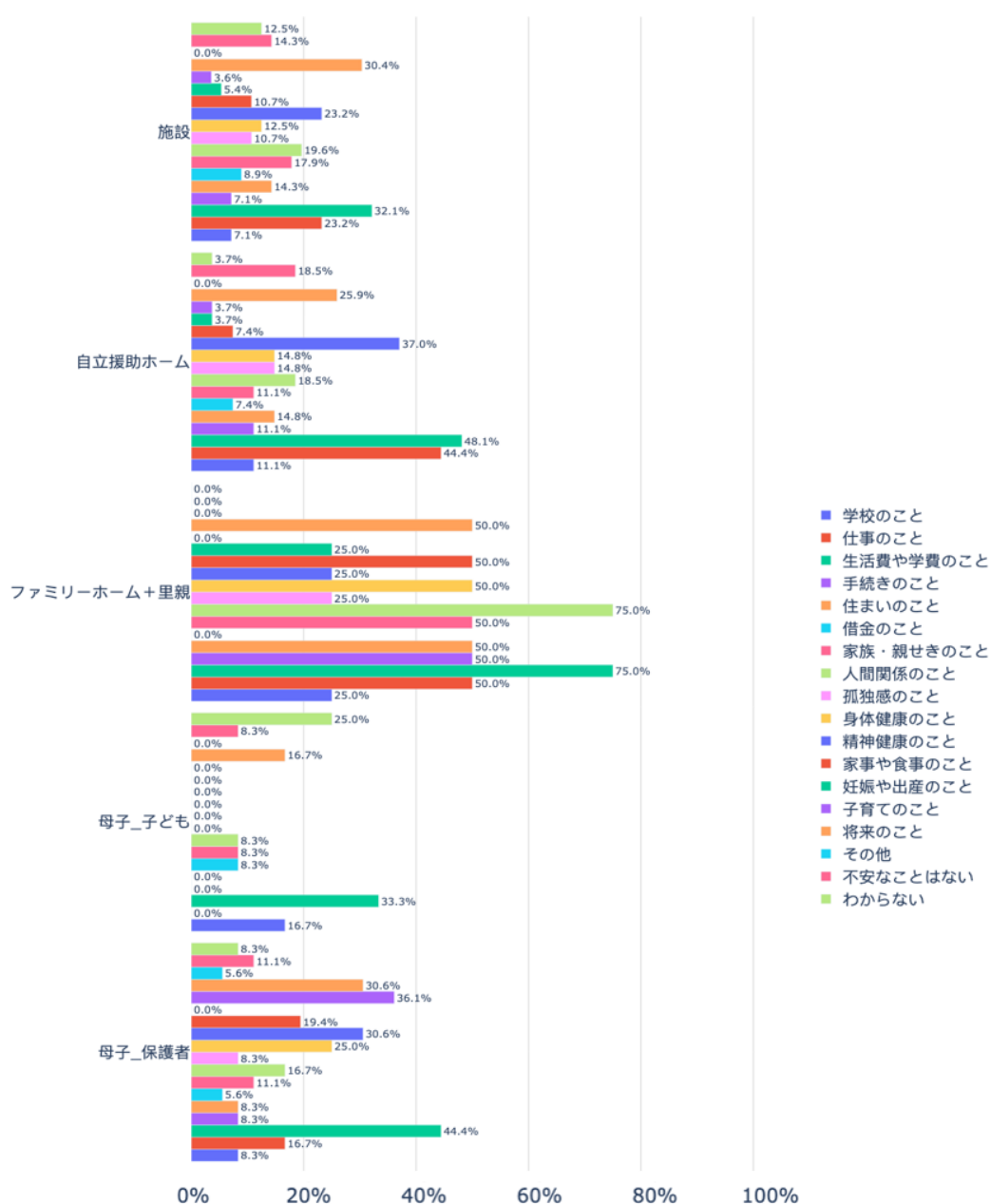
「自立援助ホーム」は、「生活費や学費のこと (48.1%)」と「仕事のこと (44.4%)」が 40%を超えており、「精神健康のこと (37.0%)」が続く。

「ファミリーホーム+里親」は、「生活費や学費のこと」「人間関係のこと」が 75.0%と高く、他 7 項目が 50.0%で並ぶ。他の施設と比較して、多くの項目で困っている割合が高い。

「母子生活支援施設の児童のみ」は、最も高い項目が「生活費や学費のこと (33.3%)」で、他の施設と比較して未回答項目が多い。

「生活費や学費のこと」や「仕事のこと」は、施設に関わらず高い傾向にある。

Q24×Q2-1_現在困っていること×施設区分 (n=136)



※グラフから「施設区分」の「その他」は除いた

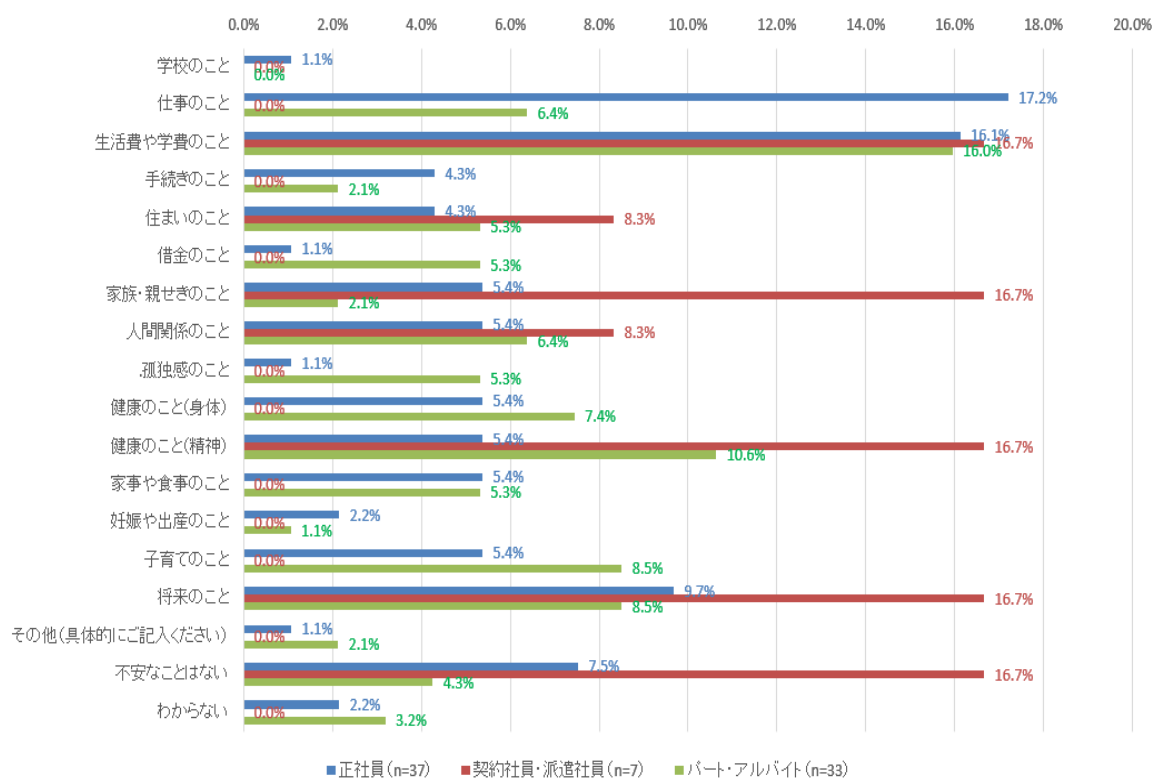
【クロス】現在困っていること×現在の働き方 (Q24×Q5-1)

「現在困っていること」と「現在の働き方（正社員/契約社員・派遣社員/パート・アルバイト）」のクロス集計で示す。

「正社員」が困っていることは、「仕事のこと（17.2%）」、「生活費や学費のこと（16.1%）」、「将来のこと（9.7%）」がトップ3となっている。「契約社員・派遣社員」は、

「生活費や学費のこと」、「家族・親せきのこと」、「健康のこと（精神）」、「将来のこと」と「不安なことはない」がいずれも 16.7%で並ぶ。「パート・アルバイト」は、「生活費や学費のこと（16.0%）」、「健康のこと（精神）（10.6%）」、「子育てのこと（8.5%）」や「将来のこと（8.5%）」が高い傾向となっている。

現在困っていること×現在の働き方 (n=136)

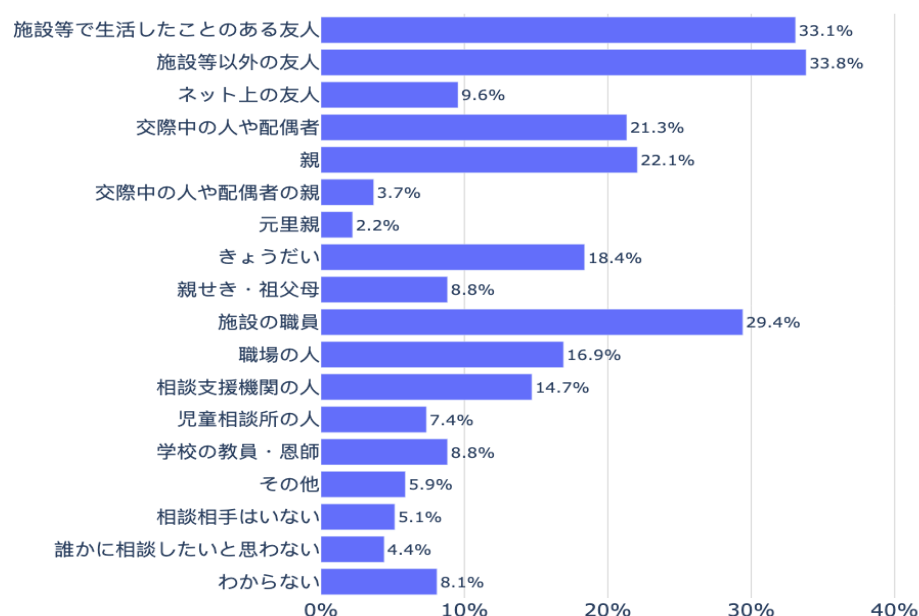


■現在の相談相手

「困った時の相談相手」は、どのように考えているのだろうか。
相談相手として最も多いのは「施設等以外の友人」で 33.8%となり、次いで「施設等で生活したことのある友人」の 33.1%が続く。「施設の職員」は3番目に多く 29.4%であり、「友人」と「施設の職員」の差は約3ポイントとなっている。

Q25_もし困ったことがあった時に、相談できる相手はいますか（あてはまるもの全て）

(n=136)



==参考 施設区分別の困った時の相談相手==

「困った時の相談相手」を施設区分でクロス集計すると、施設ごとの特徴が見える。

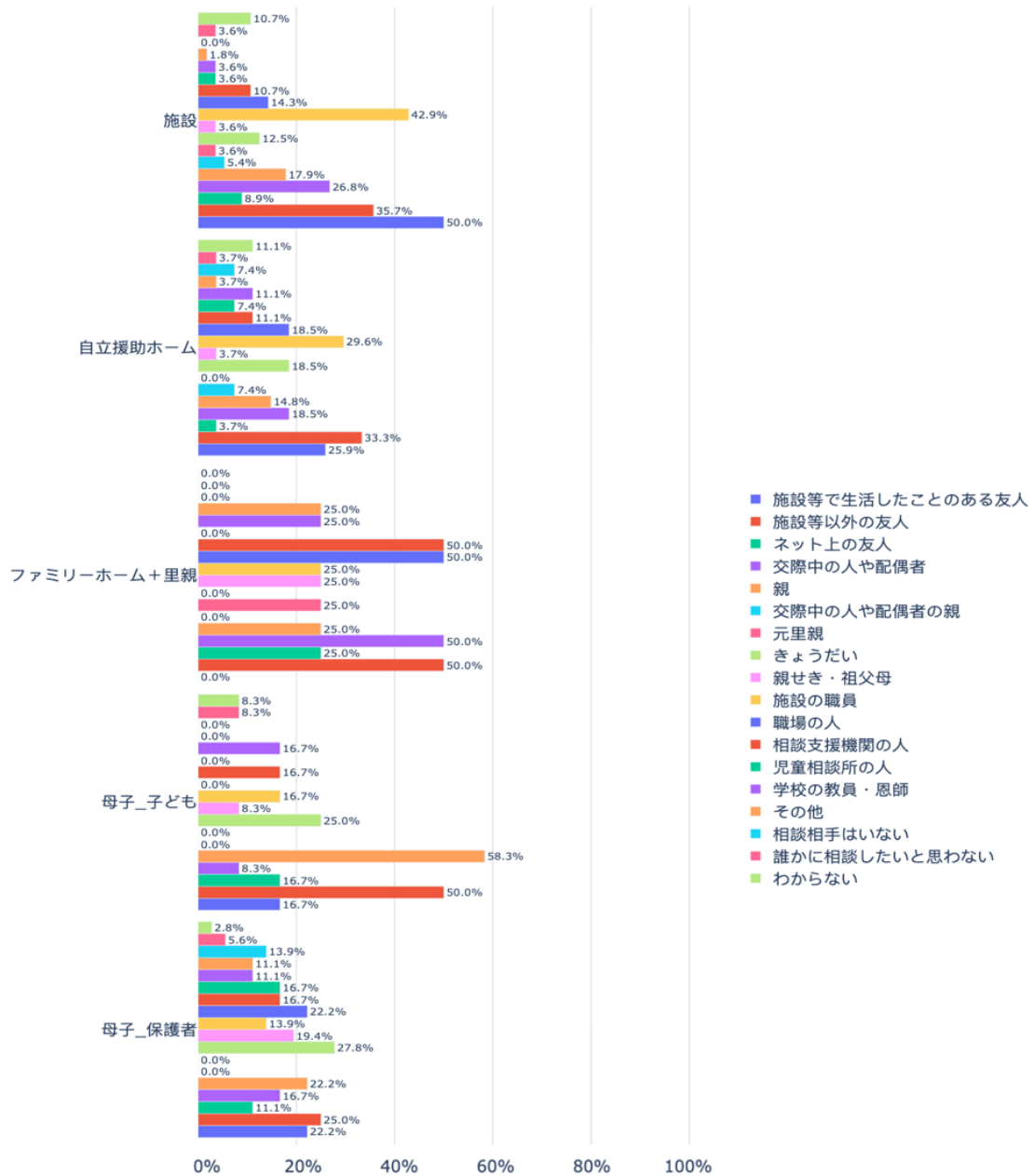
「施設」におけるトップ3は、「施設等で生活したことのある友人（50.0%）」、「施設の職員（42.9%）」、「施設等以外の友人（35.7%）」となる。

「自立援助ホーム」のトップ3は、「施設等以外の友人（33.3%）」、「施設の職員（29.5%）」、「施設等で生活したことのある友人（25.9%）」で、順位は異なるものの「施設」と同様の項目となる。

「ファミリーホーム＋里親」は、「施設等以外の友人」、「交際中の人や配偶者」、「職場の人」と「相談支援機関の人」が50.0%で並ぶ。

「母子生活支援施設の児童のみ」のトップ3は、「親（58.3%）」、「施設等以外の友人（50.0%）」、「きょうだい（25.0%）」となり、家族が上位にランクする。

Q25×Q2-1_困った時の相談相手×施設区分 (n=136)



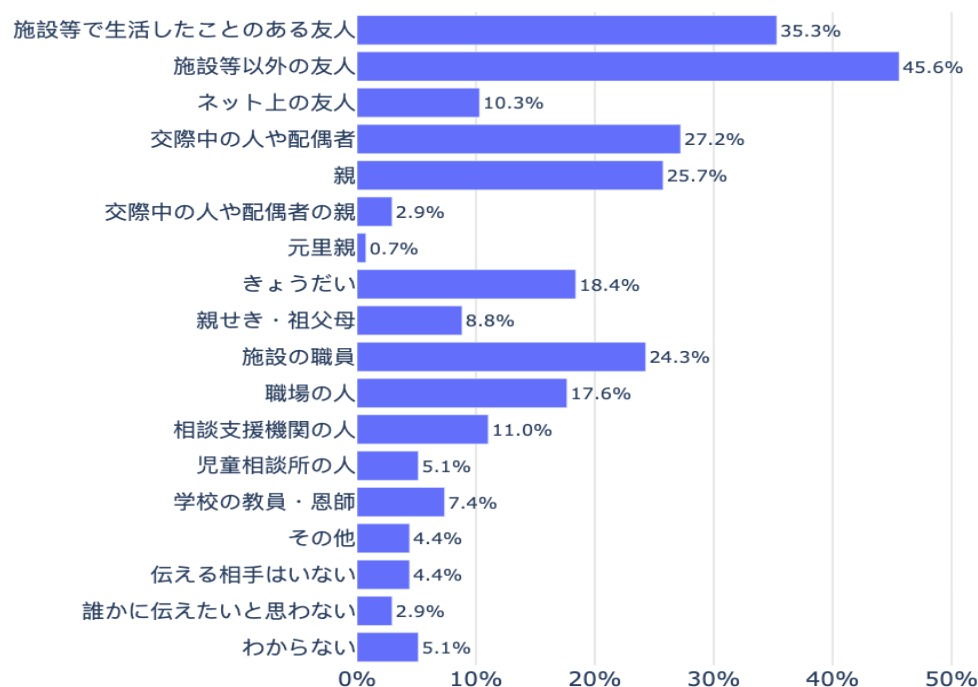
※グラフから「施設区分」の「その他」は除いた

■良かったこと、嬉しかったことを伝える相手

「良かったこと、嬉しかったことを伝える相手」としては、「施設等以外の友人（45.6%）」が最も多く、「施設等で生活したことのある友人（35.3%）」、「交際中の相手・配偶者

(27.2%)」、「親 (25.7%)」が続く。「施設の職員」は 24.3%となっている。

Q26_良かったこと、嬉しかったことを伝える相手はいますか (あてはまるもの全て)
(n=136)



==参考 施設区分別の嬉しかったことを伝える相手==

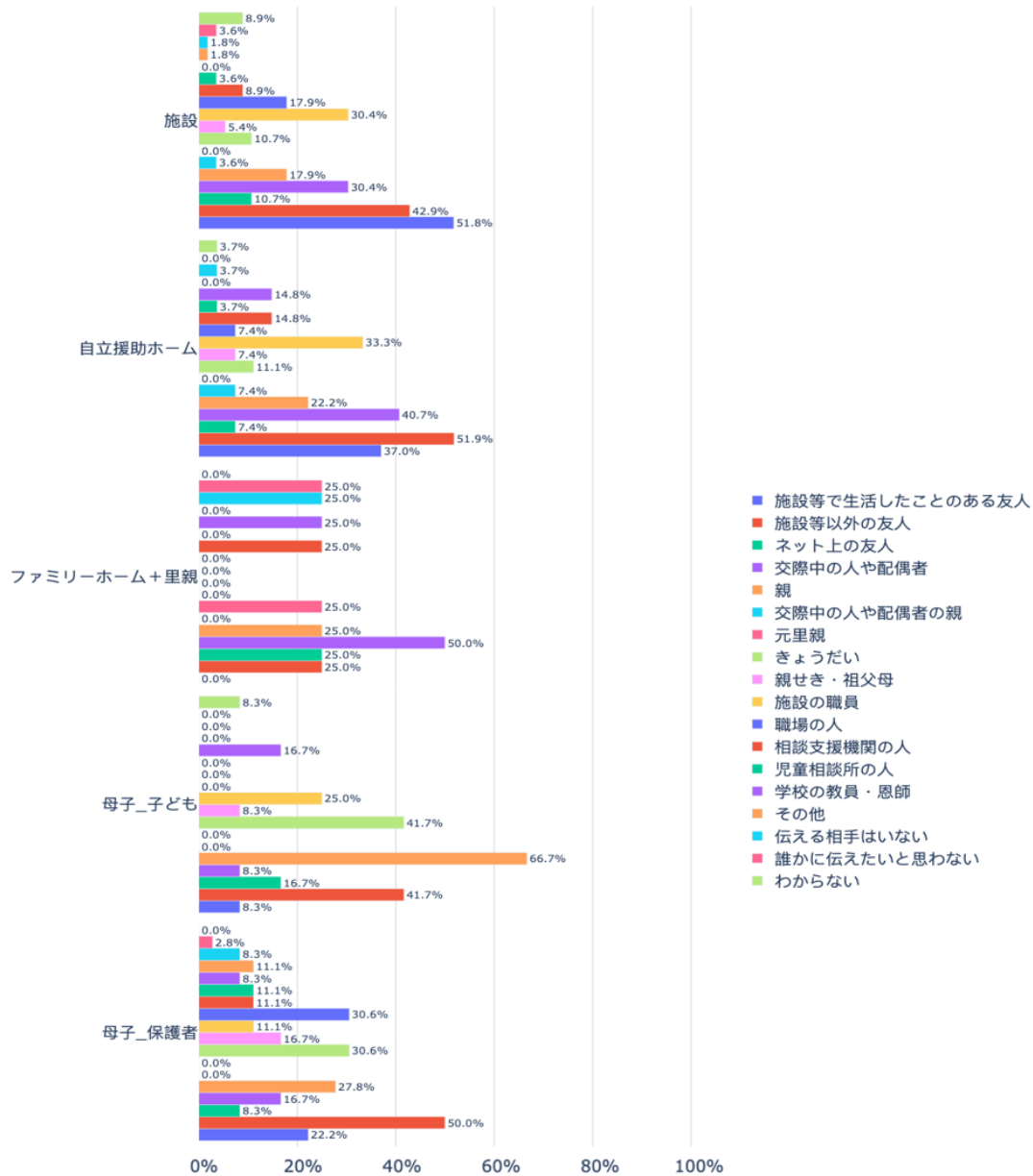
「嬉しかったことを伝える相手」を施設区分でクロス集計すると、施設ごとの特徴が見える。「施設」におけるトップ3は、「施設等で生活したことのある友人 (51.8%)」、「施設等以外の友人 (42.9%)」、「交際中の人や配偶者 (30.4%)」・「施設の職員 (30.4%)」となる。

「自立援助ホーム」のトップ3は、「施設等以外の友人 (51.9%)」、「交際中の人や配偶者 (40.7%)」、「施設等で生活したことのある友人 (37.0%)」で、「施設の職員」は 33.3%となる。

「ファミリーホーム+里親」は、「交際中の人や配偶者」が 50.0%で最も高く、その他8項目が 25.0%で並ぶ。

「母子生活支援施設の児童のみ」のトップ3は、「親 (66.7%)」、「施設等以外の友人 (41.7%)」・「きょうだい (41.7%)」となり、困ったとき同様に家族が上位にランクする。

Q26×Q2-1_良かったこと、嬉しかったことを伝える相手×施設区分(n=136)

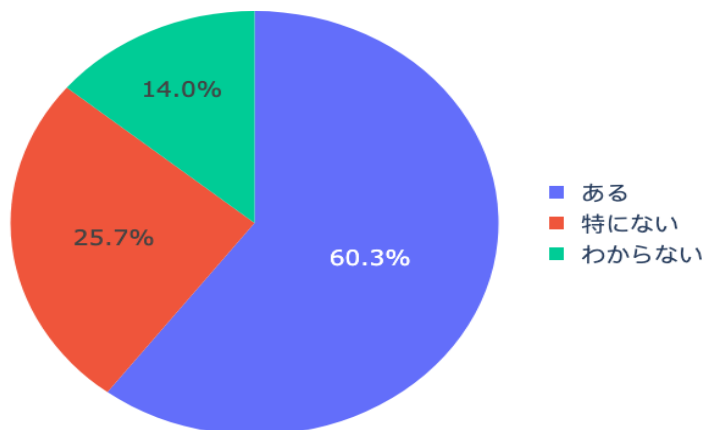


※グラフから「施設区分」の「その他」は除いた

■安心安全な居場所

最後に、退所後の現在、「気持ちが安らぐ場所や趣味、活動があるか」をたずねると、60.3%が「ある」と答えている。自由記入欄では、「ゲームやアニメ・マンガ」「スポーツや音楽」「友達といるとき」「家にいるとき」などの回答が多い傾向となった。

Q27-1_気持ちが安らぐ場所や趣味、活動はありますか (n=136)



退所者調査のまとめ

以上の退所者調査から分かったことを抜粋する。

【退所後の進路と生活】

- ・「退所後の進路」は、「仕事」に就く割合が「通学」よりも 16.2 ポイント高い。
- ・「退所後の進路」を児童のみで集計すると、3 位が全体の「当時働いていた職場に引き続き就労」から「当時通っていた学校に引き続き通学」へ変わっている。
- ・「退所後の進路」において、「施設」では「進学」割合が、他施設と比較して高い。
- ・現在働いている人の 44.0%が、「正社員」として働いている
- ・「契約社員・派遣社員」と「パート・アルバイト」を合わせた「非正規雇用」が、47.6%となる。
- ・「現在の住まい」は、「民間賃貸」が最も多く、次いで「公的賃貸住宅」が続く。

【退所後の経済状況】

- ・現在の「家計収支」は 17.6%が「黒字」、24.3%が「赤字」、40.4%が「収入と支出は同じくらい」となる。
- ・「正社員」および「契約社員・派遣社員」は、3 割前後が「黒字」と回答している。「パート・アルバイト」の「黒字」回答は 12.1%にとどまる。
- ・「赤字」の割合は、「正社員 (29.7%)」と「パート・アルバイト(30.3%)」は同等となる。
- ・「貯金の有無」に関しては、「貯金がない (44.9%)」と「貯金がある (44.1%)」は同程度である。

- ・「貯金がない」と回答した退所者の中で、「収支が赤字」と回答した割合は 39.3%となる。
- ・「ローンや借金の有無」に関しては、「ない」が 69.1%、「ある」が 21.3%となった。

【退所後の健康状態】

- ・40.4%の退所者が、精神的な状態が悪いことを示している。
- ・「自立援助ホーム」では 71.4%が「お金がかかるから」と、経済的な理由から通院をあきらめている。
- ・「退所後の進路」において「進路未定」だった退所者の 68.8%が、「精神的不調での通院」をしている。

【退所前の不安や自立準備】

- ・「退所に関する不安要素」は、半数が「生活費や学費のこと」と回答している。次いで「将来のこと」「仕事のこと」「住まいのこと」が3割程度で続く。
- ・「人間関係のこと」、「孤独感のこと」と「精神健康のこと」も2割を超える。
- ・「就職や進学準備開始時期」については、概ね高校生の段階で自立準備を開始している。
- ・「就職や進学準備開始時期」は、高校2年生と3年生の割合が数ポイントの差にとどまっている。
- ・「自立準備開始時期の評価」に関しては、55.9%が「ちょうどいい」と回答している。
- ・自立準備開始時期が遅かった層（遅かった＋やや遅かった）は、29.5%であった。
- ・「高校3年」から自立準備を開始した半数は、「遅かった」と感じている。

【入所中のサポート】

- ・入所中に「役に立ったサポート」は、約3割が「困りごとやわからないことの相談先や相談方法の案内」、「退所後の住まい探し・同行」や「生活費のシミュレーション」と回答している。「家事の練習・学習」、「就職活動のサポート」と「退所後の不安の相談」も、2割を超える。
- ・就職者が役に立ったサポートは、進学者と比較して「就職活動のサポート」と「生活費のシミュレーション」の割合が高い。
- ・進学者は、「奨学金の案内」、「行政サービスの利用方法」と「保証人の確保」の割合が、就職者と比較して高い。
- ・就職者・進学者ともに高い割合となったのは「住まい探しの同行」で、就職者が 44.4%、進学者が 41.4%となった。
- ・就職者と進学者の両者に差が出たのが「生活費のシミュレーション」で、就職者が 44.4%だったのに対して、進学者は 20.7%と 23 ポイント以上の差となった。
- ・「退所後に役に立ったと思うサポート」は、「日常的な雑談・相談」が最も多く、次いで「イベントや交流会」、「不安やトラブルなどの悩み相談」が続く。

【退所後の課題】

・「退所後の現在困っていること」は、「生活費や学費のこと」が最も多く、次いで「将来のこと」、「精神に関する健康のこと」が続く。

・「正社員」が困っていることは、「仕事のこと」、「生活費や学費のこと」、「将来のこと」がトップ3となっている。「パート・アルバイト」は、「生活費や学費のこと」、「精神の健康のこと」、「子育てのこと」や「将来のこと」が高い傾向となっている。

・「困ったときの相談相手」は「施設等以外の友人」が最も多く、次いで「施設等で生活したことのある友人」、「施設の職員」が続く。

・「嬉しかったことを伝える相手」としては、「施設等以外の友人」が最も多く、「施設等で生活したことのある友人」、「交際中の相手・配偶者」、「親」が続く。

入所者調査

調査概要

(1) 調査の目的

社会的養護の施設等に措置（委託）中の児童の自立支援に対するニーズの把握を行い、彼らが直面する課題や困難に対して効果的な自立支援が提供されるための環境整備を行い、将来的な支援につなげる。

(2) 調査対象

横浜市管轄の措置（委託）中の児童・保護者のうち、以下の条件を全て満たす者

①15 歳以上の義務教育を終了

② 以下の施設等に措置（委託）中

児童養護施設、児童自立支援施設、児童心理治療施設、自立援助ホーム

母子生活支援施設（保護者を含む）、里親家庭、ファミリーホーム

(3) 調査方法

入所者本人を回答者とする web アンケート調査

(4) 実施期間

令和 6 年（2024 年）10 月 13 日～11 月 3 日

(5) 回答件数

・調査対象者（母子生活支援施設措置中の者を除く⁵⁾）：234 件

・回答数

措置施設が母子生活支援施設の者を含む：180 件

措置施設が母子生活支援施設の者を除く：123 件（回答率 52.5%）

(6) 調査項目

設問種別と設問内容については次ページ図表のとおり。調査項目一覧は、末尾の参考資料に掲載。

⁵⁾母子生活支援施設措置中の調査対象者は非公開のため、回答率算出の母数からは除いた

設問種別	設問内容	
(1)基本属性	①生年月 ③社会的養護経験期間	②現在生活している施設等の種類
(2)現状（進学、進路、心身）	①身体健康状態 ③現在の就学先と卒業までの年数	②心・精神の健康状態 ④卒業後の進路
(3)将来についてと自立の準備	①将来（退所後）の不安 ③施設等で受けた自立支援の内容とその有効性	②自立準備開始時期とその評価 ④自立支援への意見
(4)施設との関わり	①入所中の意思表示 ③信頼関係 ⑤退所後の回答者から施設等への連絡頻度の希望	②入所中の意思の尊重 ④退所後の施設等からの連絡頻度の希望
(5)相談相手、今後の支援ニーズ	①退所後の支援ニーズ	②現在の相談相手
(6)心のよりどころ	①嬉しかったことを伝える相手	②安心安全な居場所とその内容

（１）基本属性

基本的な属性として、生年月、現在生活している施設の種類の社会的養護経験期間についてたずねた。

今回の調査では、「母子生活支援施設」において「保護者」と想定される回答が含まれる。そのため、下記条件の方を除いた「児童のみ」の数値が、全体数値と大きく異なる場合には、「児童のみ」の数値を参考値として記載する。

※児童のみの抽出条件：（Q2:現在生活してる施設＝母子生活支援施設 & Q1:11/1 現在の年齢＝21 歳未満）＋（Q2:現在生活してる施設＝母子生活支援施設以外全て）

また、調査結果において、施設区分別の比較を実施しているケースがあるが、その際の「施設区分」を、以下の５分類で定義した。

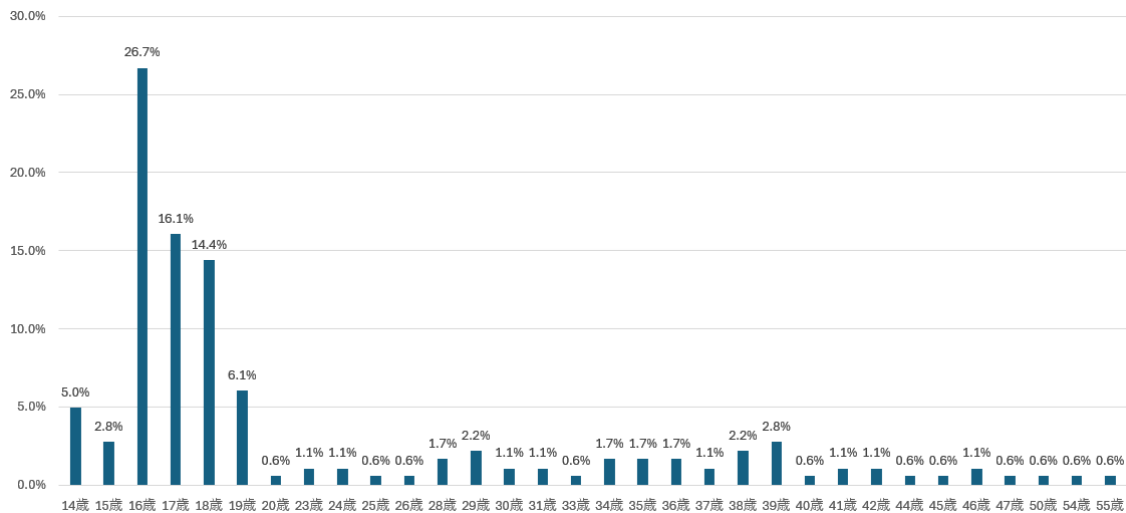
【施設区分の定義】

1. 施設（児童養護施設、児童自立支援施設、児童心理治療施設）
2. 自立援助ホーム
3. ファミリーホーム＋里親
- 4-1. 母子生活支援施設の児童
- 4-2. 母子生活支援施設の保護者

■年齢

令和 6 年（2024 年）4 月 1 日時点の年齢は、「16 歳」が 26.7%で最も多く、「17 歳」の 16.1%、「18 歳」の 14.4%が続く。16～18 歳が全体の 57.2%となり、16 歳未満も含めた 18 歳以下は 65.0%となる。

Q1_令和 6 年（2024 年）4 月 1 日時点の年齢*（全体 n=180）

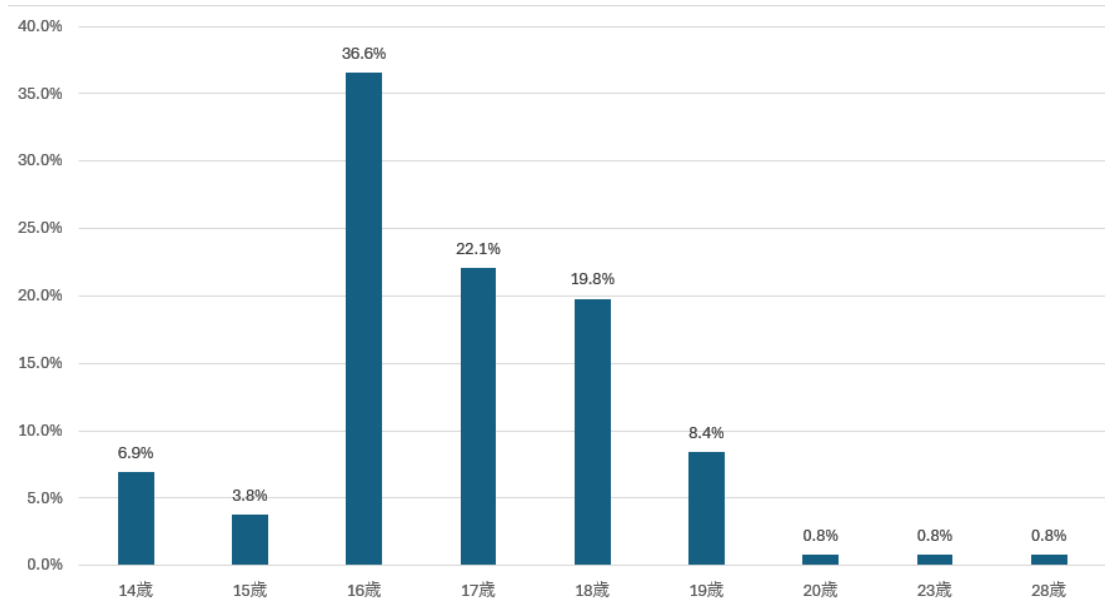


*誕生年月から算出

==参考 児童のみ==

「年齢」を児童のみで集計すると、上位となる 16 歳～18 歳の年齢の順位に変化はないものの、割合に違いが生じる。1 位の「16 歳」は、全体の 26.7%から 36.6%へ、2 位の「17 歳」は、全体の 16.1%から 22.1%へ、3 位の「18 歳」は、全体の 14.4%から 19.8%へ増加している。

Q1_令和 6 年（2024 年）4 月 1 日時点の年齢（児童のみ n=131）

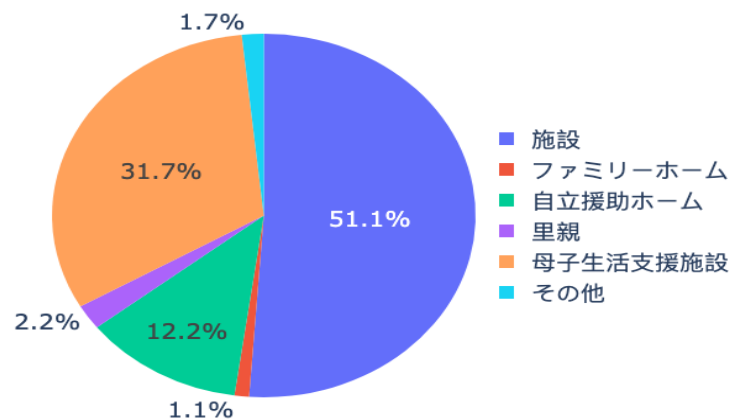


*誕生年月から算出

■現在生活している施設等

現在の生活施設等は、「施設」が 51.1%と半数を超え、次いで「母子生活支援施設」の 31.7%、「自立援助ホーム」の 12.2%が続く。

Q2_現在生活している施設等を教えてください（全体 n=180）

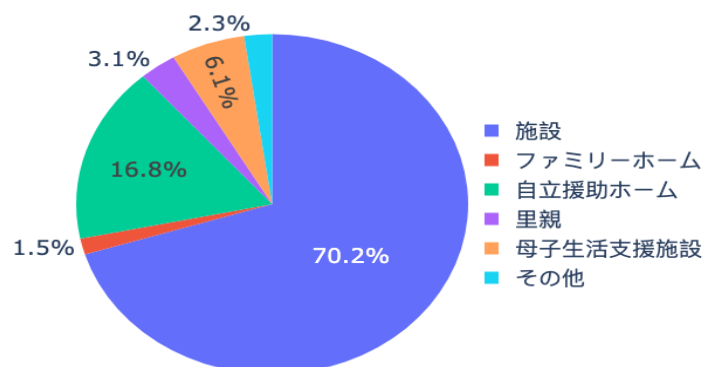


==参考 児童のみ==

「現在生活している施設等」に関しては、「母子生活支援施設」にて保護者が回答していると想定されるケースがあるため、児童のみの集計では「母子生活支援施設」が全体と比較して割合が小さくなっている。全体では 31.7%で 2 番目に多かったが、児童のみにすると

6.1%で3番目となる。

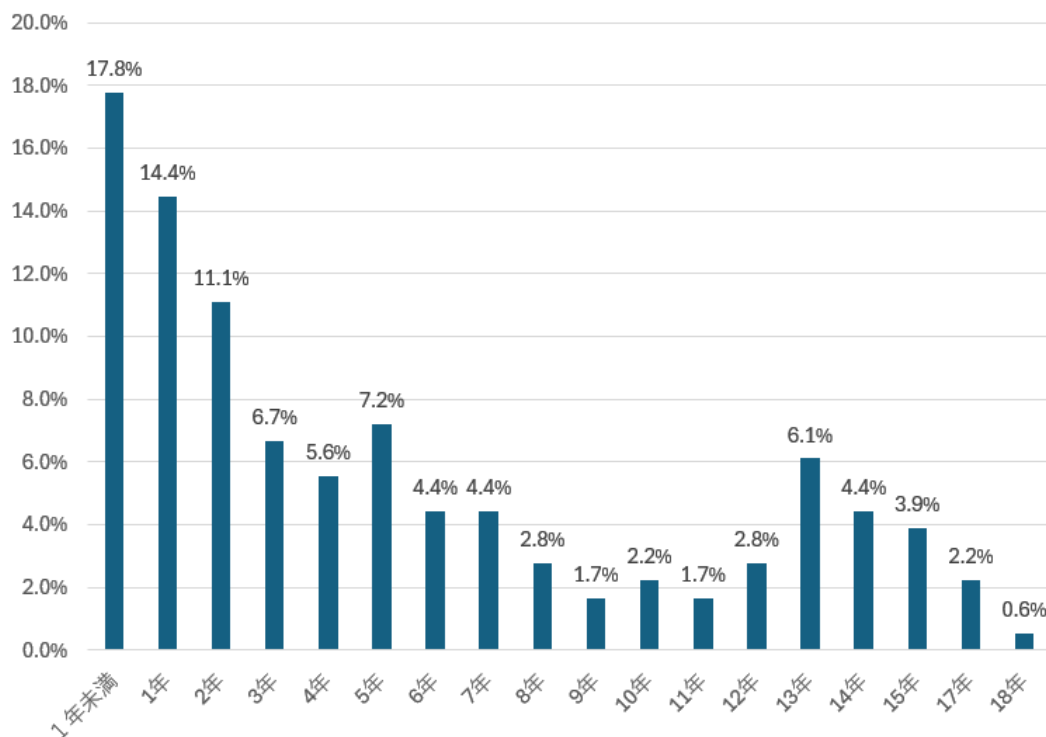
Q2_現在生活している施設等を教えてください（児童のみ n=131）



■施設等で生活している期間

施設等で生活している期間（今の施設等とは別の施設等での生活も全て含む）は、「1年未満」が17.8%で最も多く、「1年」の14.4%、「2年」の11.1%が続く。「3年」までを加えた「3年以下」は、全体の50.0%で半数となる。

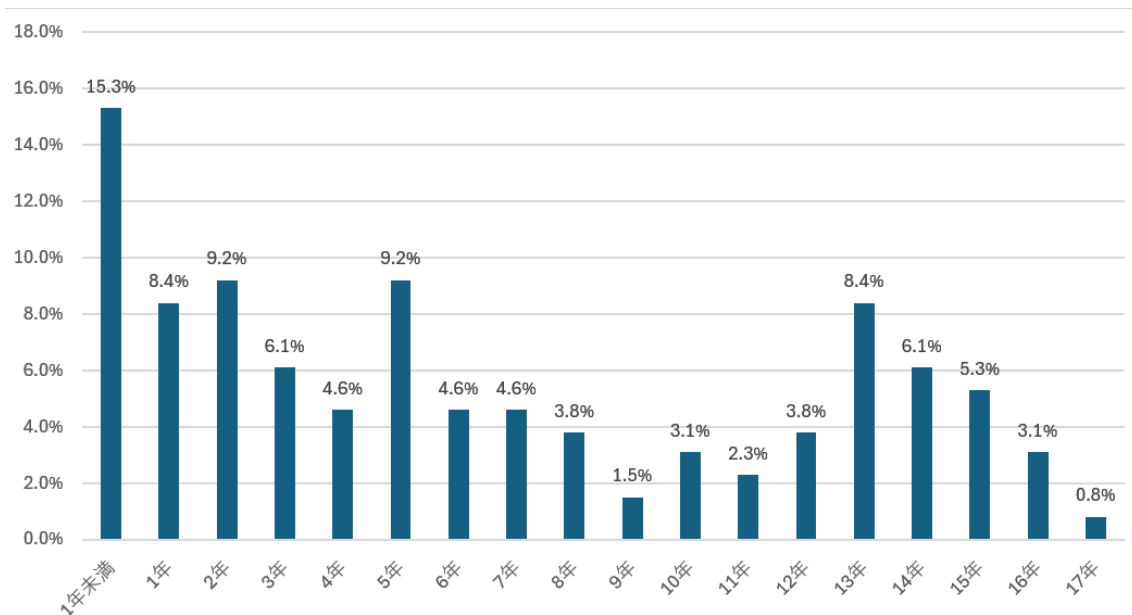
Q3_施設等で生活している期間は、どのぐらいになりますか（年）（全体 n=180）



==参考 児童のみ==

「施設等で生活している期間」を児童のみで集計すると、全体と若干の順位の変動が確認できる。1位の「1年未満」は全体の順位と同じだが、割合は全体の17.8%から15.3%へ減少している。2位は「5年」と「2年」の9.2%（全体では「1年（14.4%）」が2位）となり、3位は「13年」の8.4%（全体では「2年（11.1%）」が3位）となっている。

Q3_施設等で生活している期間は、どのぐらいになりますか(年)(児童のみ n=131)



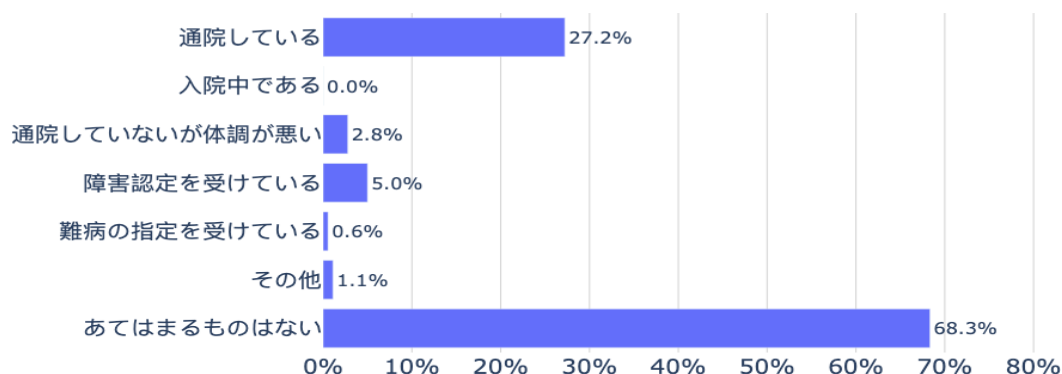
(2) 入所者の健康状態について

入所者の健康状態についてたずねた。

■現在の「身体」の状態

現在の「身体」の状態は、68.3%が通院や入院等に「あてはまるものはない」としているが、27.2%が「通院している」と回答している。「通院していないが体調が悪い」の2.8%を加えると、30.0%が「体調が悪い」と感じているようである。

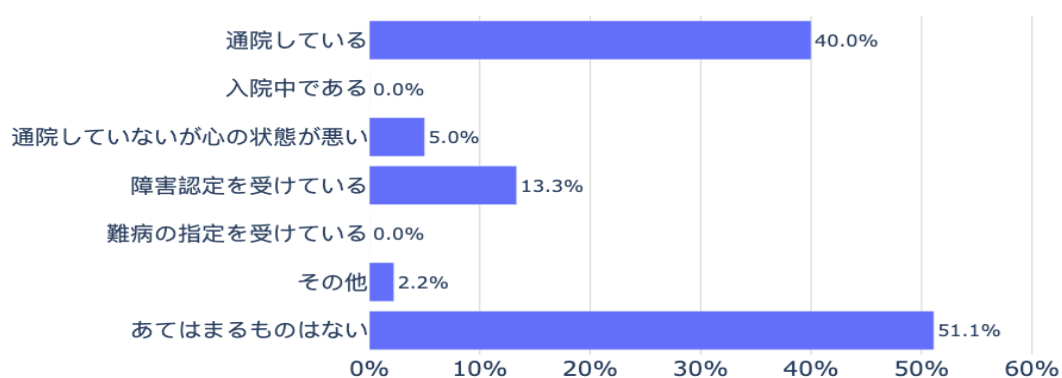
Q4-1_現在の「身体」の状態として、あてはまるものを選んでください（複数回答）
(n=180)



■現在の「精神」の状態

一方で、現在の「心（精神）」の状態は、40.0%が「通院している」と回答しており、「通院していないが心の状態が悪い」の 5.0%を加えると 45.0%が精神的な不調を示している。

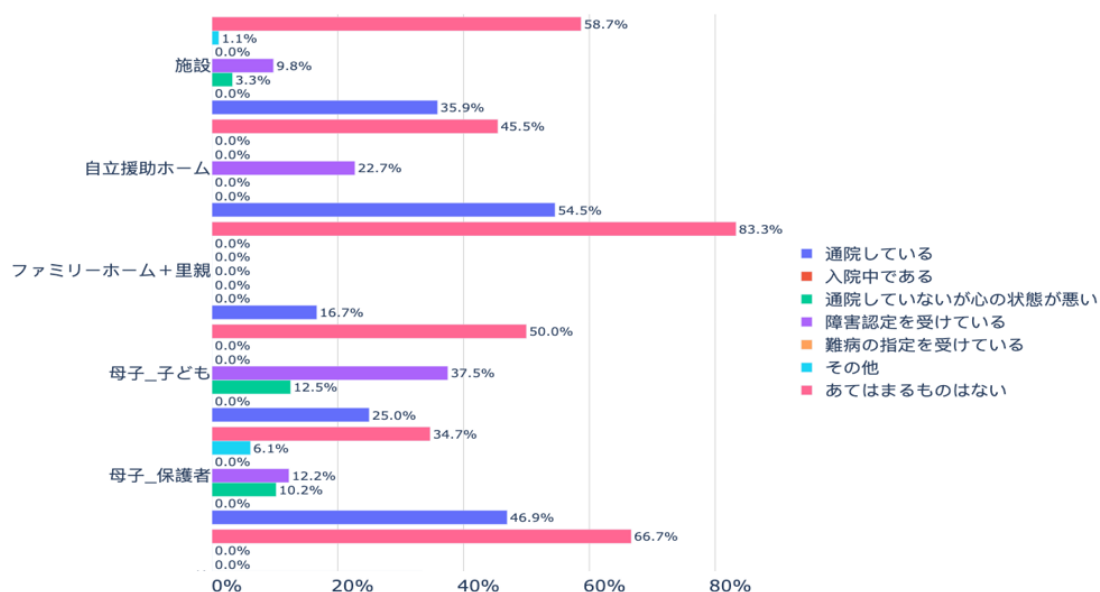
Q4-2_現在の「心（精神）」の状態として、あてはまるものを選んでください
(あてはまるもの全て) (n=180)



==参考 施設区分別の精神の健康状態==

「精神の健康状態」を施設区分でクロス集計すると、通院割合が高いのは「自立援助ホーム（54.5%）」、「母子生活支援施設の保護者（46.9%）」、「施設（35.9%）」となっている。

Q4-2×Q2_精神の健康状態×施設区分 (n=180)



※グラフから「施設区分」の「その他」は除いた

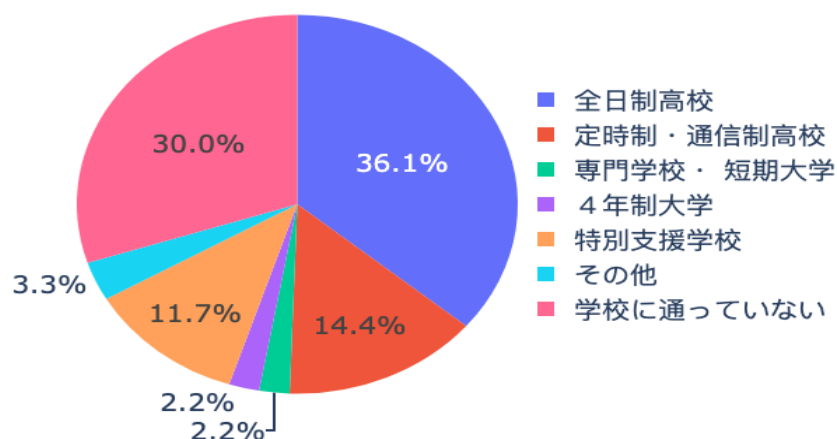
(3) 入所者の生活状態について

入所者が、どのような生活状態にあるかをたずねた。

■通っている学校

現在の通学先は、「全日制高校」が 36.1%で最も多く、「学校に通っていない」が 30.0%で続く。また、「定時制・通信制高校」は 14.4%、「特別支援学校」は 11.7%となっている。

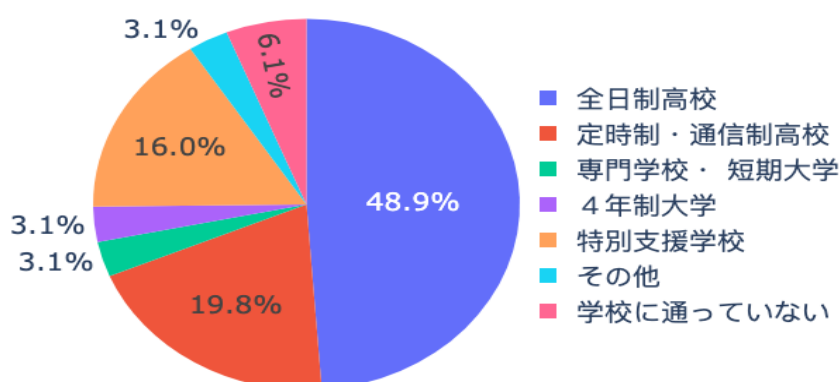
Q5-1_どんな学校に通っていますか (n=180)



==参考① 児童のみ==

「現在通っている学校」に関しては、児童のみで集計すると、「全日制高校」の割合が高くなり、「学校に通っていない」の割合が減少する。「全日制高校」は、全体が 36.1%であったのに対し、児童のみでは 48.9%となっている。「学校に通っていない」は、全体が 30.0%なのに対し、児童のみが 6.1%となっている。その他、「定時制・通信制高校」は、全体の 14.4%が児童のみでは 19.8%となっている。

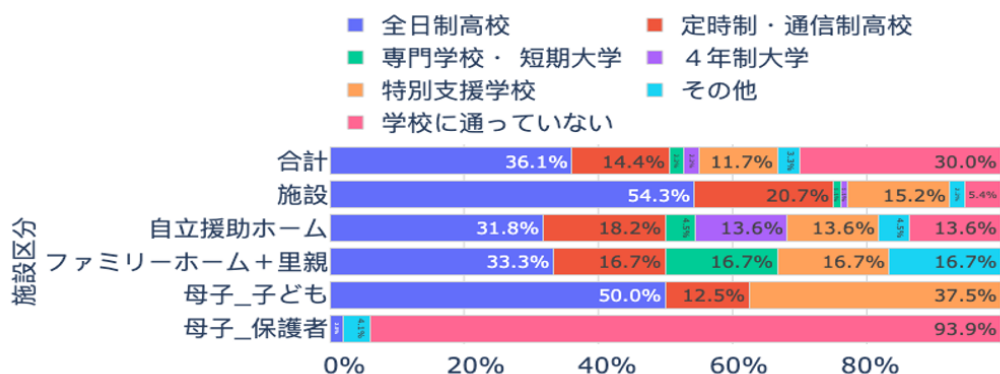
Q5-1_どんな学校に通っていますか (児童のみ n=131)



==参考② 施設区分別の現在通っている学校==

「現在通っている学校」を施設区分でクロス集計すると、「施設」と「母子生活支援施設の児童のみ」は、「全日制高校」が 50%以上の高い割合となっている。また「4年制大学」は「自立援助ホーム」では 13.6%となっている。

Q5-1×Q2_現在通っている学校×施設区分 (n=180)



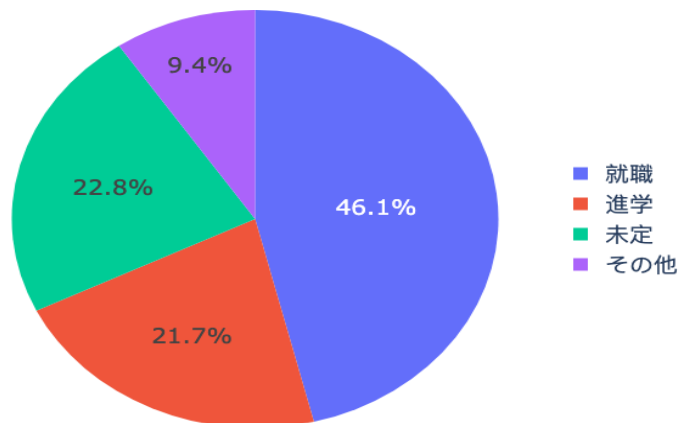
※グラフから「施設区分」の「その他」は除いた

■卒業後の進路

「卒業後の進路」は、「就職」が 46.1%で最も多く、次いで「未定」の 22.8%、「進学」の 21.7%が続く。文部科学省発表の令和 5 年における四年制大学進学率は 57.7%で、短大の 3.4%、専門学校 of 21.9%を加えた進学率は 83.0%となっており⁶、今回の調査結果とは 61.3 ポイントの差となっている。加えて、横浜市の令和 4 年における四年制大学進学率は 67.5%、短大の 0.6%、専門学校 of 8.7%を加えた進学率は 76.8%となっており⁷、今回の調査とは 55.1 ポイントの差となっている。

Q6_今後（現在通っている学校を卒業した後）の進路を教えてください。

※現在学校に通っていない人は、今後の予定を教えてください (n=180)



==参考 施設区分別の卒業後の進路==

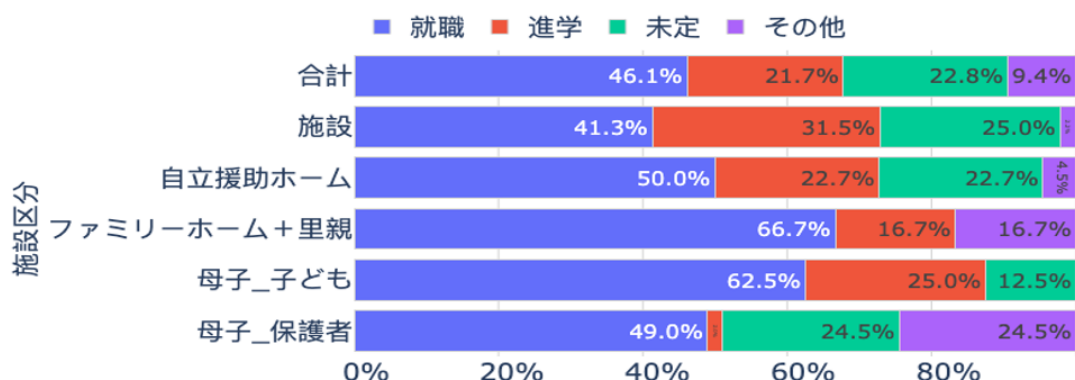
「卒業後の進路」を施設区分でクロス集計すると、「施設」の進学が 31.5%に対し、「自立援助ホーム」は 22.7%となっている。

⁶ 出典：https://www.mext.go.jp/content/20230823-mxt_chousa01-000031377_001.pdf

⁷ 出典：令和 4 年度市立高等学校等卒業生の進路状況調査

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kosodate-kyoiku/kyoiku/toukeichosa/kyoiku-toukei/r05kyoikutoukei.files/05p35-39.pdf>

Q6×Q2_卒業後の進路×施設区分 (n=180)

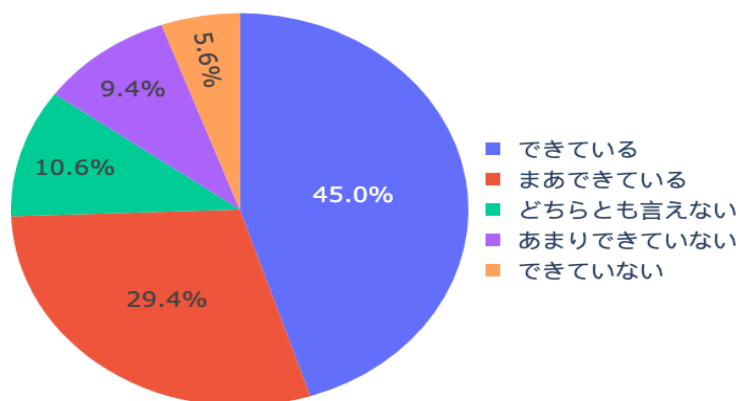


※グラフから「施設区分」の「その他」は除いた

■自身の保有するお金の金額把握

「自身の保有するお金の金額把握」に関しては、74.4%が「できている (45.0%)」または「まあできている (29.4%)」と回答している。

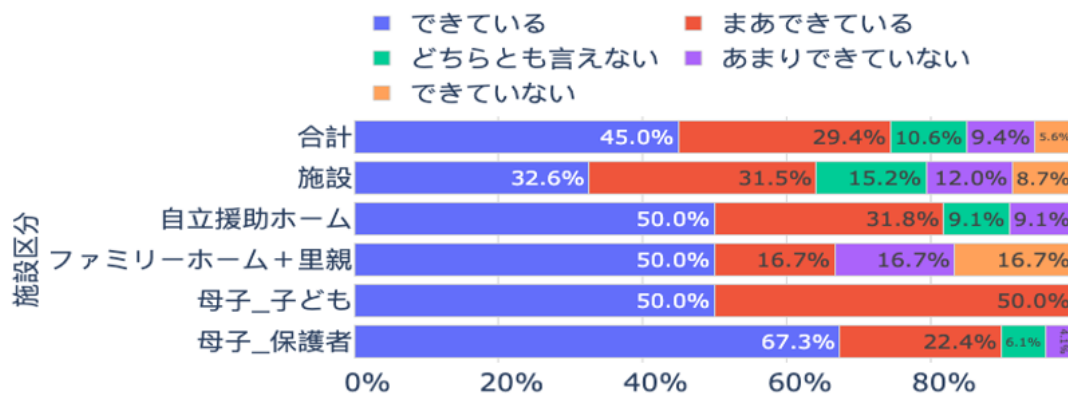
Q8-1_自分がどのくらいお金を持っているか、把握できていますか (n=180)



==参考 施設区分別の自身の保有するお金の金額把握==

「自身の保有するお金の金額把握」を施設区分でクロス集計すると、「施設」の「金額把握ができている」の割合が低いことが分かる。他の施設が 50%以上であるのに対し、「施設」のみ 32.6%にとどまる。また「できていない」・「あまりできていない」のできていない層は、「ファミリーホーム+里親」が 33.4%と他の施設と比較して高くなっている。

Q8-1 × Q2_自身の保有するお金の金額把握×施設区分 (n=180)



※グラフから「施設区分」の「その他」は除いた

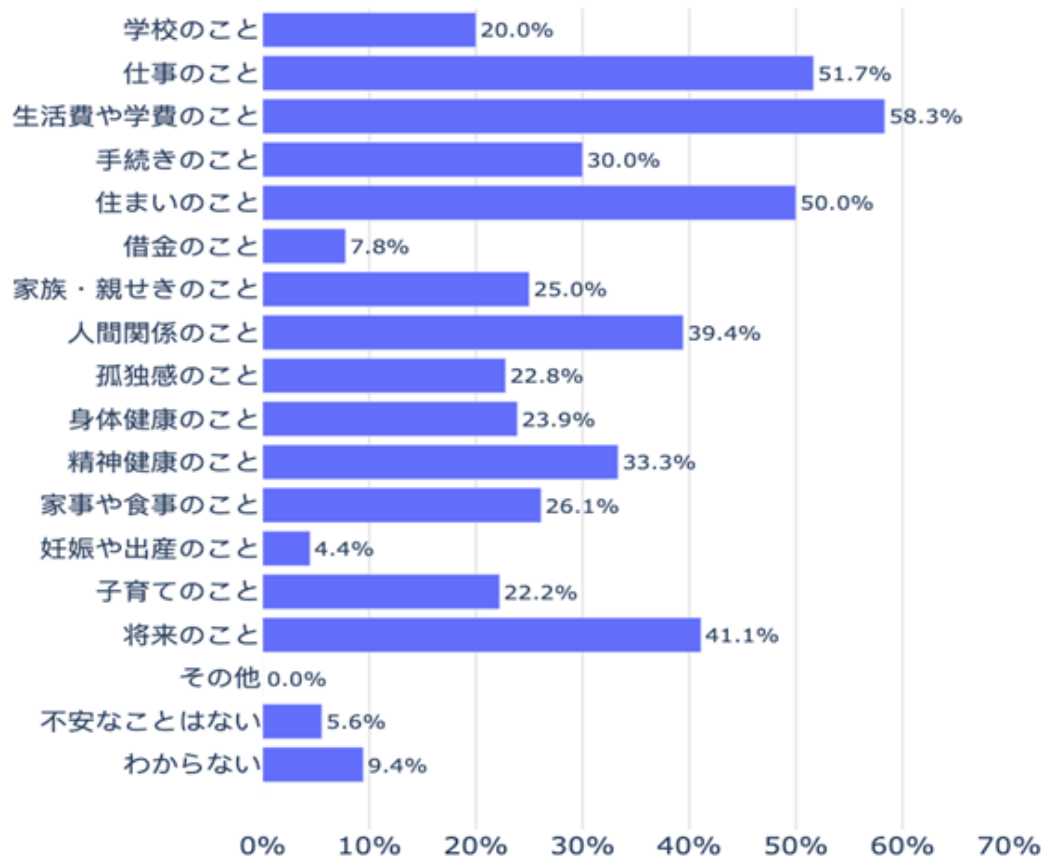
(4) 不安や将来のイメージについて

入所者が感じている不安や、将来のイメージについてたずねた。

■将来の不安

「将来の不安」に関しては、「生活費や学費のこと (58.3%)」、「仕事のこと (51.7%)」と「住まいのこと (50.0%)」が 3 大不安要素で、どの要素も半数以上である。一方、「将来のこと (41.1%)」と「人間関係のこと (39.4%)」が約 4 割、「精神健康のこと (33.3%)」が約 3 割で続いている。

Q7_将来（施設等を離れるにあたって）不安なことはありますか
（あてはまるもの全て）（n=180）



==参考 施設区分別の将来の不安==

「将来の不安」を施設区分でクロス集計すると、施設ごとに特徴が見える。

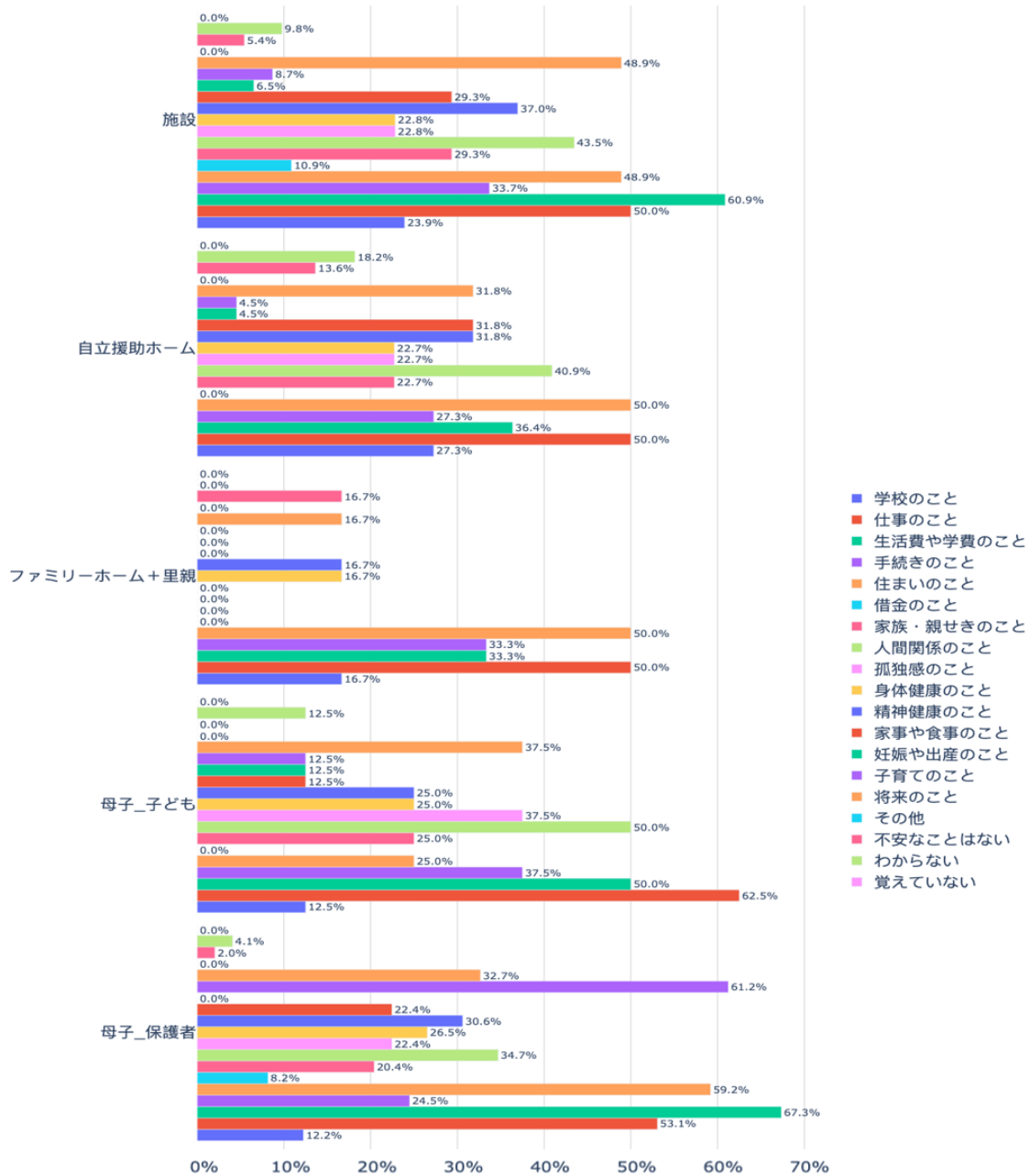
「施設」は、「生活費や学費のこと（60.9%）」が最も高く、「仕事のこと（50.0%）」、「住まいのこと（48.9%）」、「将来のこと（48.9%）」が続く。

「自立援助ホーム」は、「仕事のこと」と「住まいのこと」がどちらも 50.0%で最も高く、「人間関係のこと（40.9%）」が続く。

「ファミリーホーム+里親」は、「仕事のこと」と「住まいのこと」がどちらも 50.0%で最も高く、「生活費や学費のこと」と「手続きのこと」が 33.3%で続く。

「母子生活支援施設の児童のみ」は、「仕事のこと（62.5%）」、「生活費や学費のこと（50.0%）」、「人間関係のこと（50.0%）」が続く。

Q7×Q2_将来の不安×施設区分 (n=180)



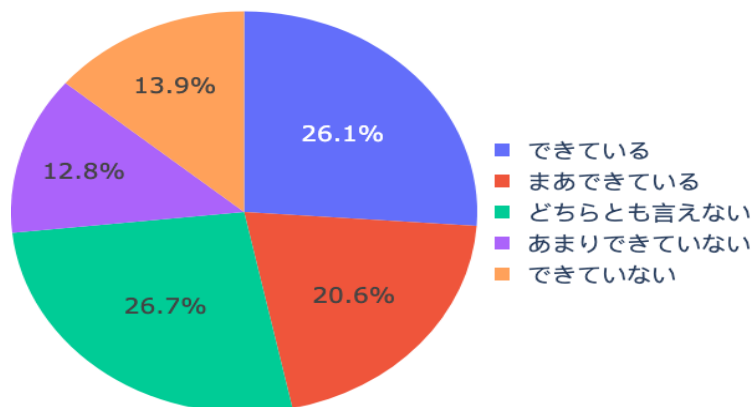
※グラフから「施設区分」の「その他」は除いた

■将来の働くイメージ

「将来の働くイメージ」に関しては、46.7%が「できている (26.1%)」または「まあできている (20.6%)」と回答している。最も多いのは 26.7%の「どちらとも言えない」で、

「できていない (13.9%)」と「あまりできていない (12.8%)」を合わせた「できていない層」と同率となっている。

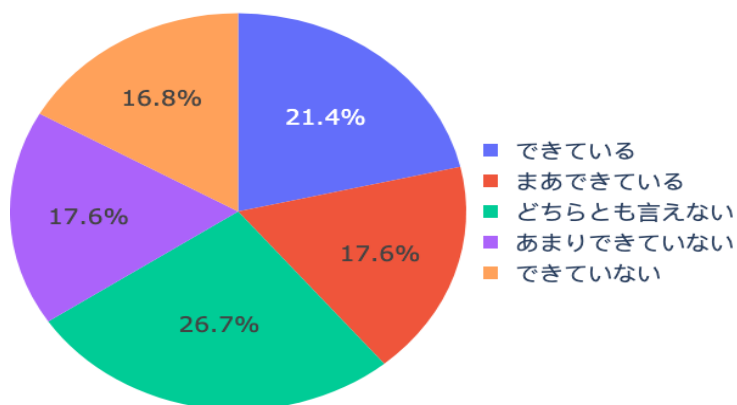
Q8-2_将来、自分が働いているイメージができますか (n=180)



==参考 児童のみ==

「将来、自分が働いているイメージ」に関しては、児童のみで集計すると「できる」の割合が減少している。「できている」は、全体で26.1%だったが、児童のみでは21.4%となった。「まあできている」も、全体で20.6%だったが、児童のみでは17.6%となっている。

Q8-2_将来、自分が働いているイメージができますか (児童のみ n=131)



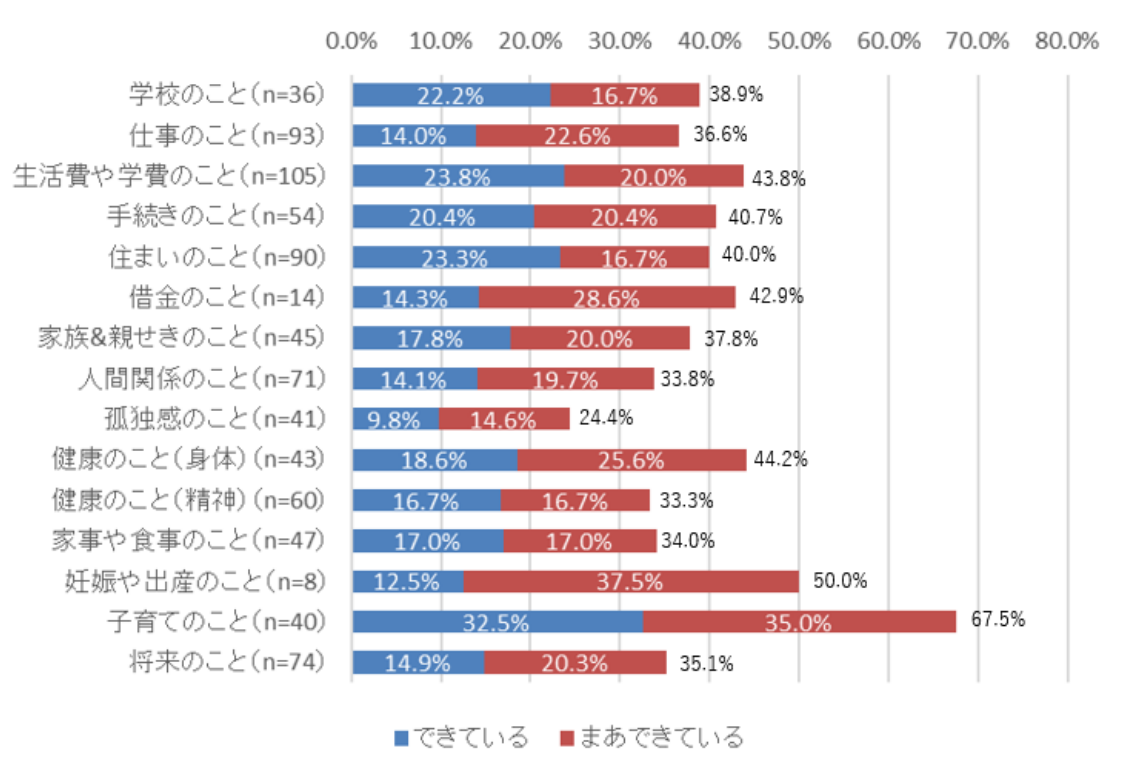
【クロス集計】将来の不安内容×将来働いているイメージ (Q7-1×Q8-2) (n=131)

「将来、自分が働くイメージ」ができていない層には、どのような特徴があるのだろうか。

「将来の不安内容」と「将来働いているイメージ」のクロス集計を示す。

働くイメージができていないと回答する割合が高い層（「できていない」＋「まあできていない」）は、将来の不安内容で「妊娠出産」や「子育て」と回答している層で、どちらも 50.0%以上である。一方、働くイメージができていない層の割合が低いのは「孤独感」、「人間関係」や「健康（精神）」といった不安を持っている層であり、いずれも 35%を切っている。

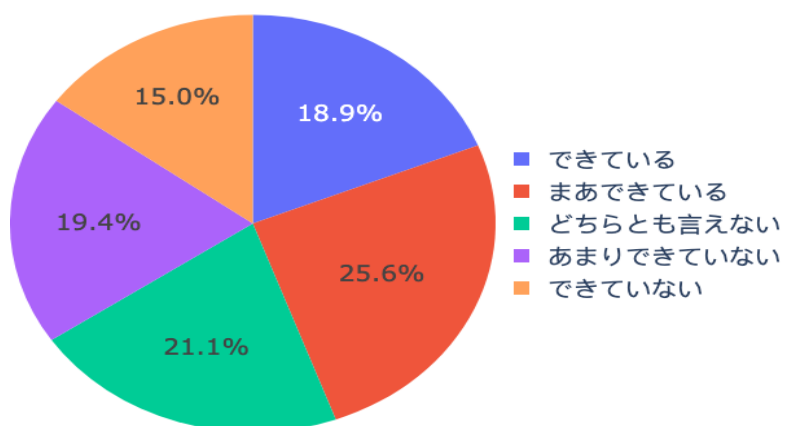
将来の不安内容×将来働いているイメージ (n=180)



■生活・生計を立てていくイメージ

「生活・生計を立てていくイメージ」も、働くイメージと似た結果となり、44.5%が「できていない (18.9%)」または「まあできていない (25.6%)」と回答している。「できていない (15.0%)」と「あまりできていない (19.4%)」を合わせた「できていない層」は 34.4%となっている。

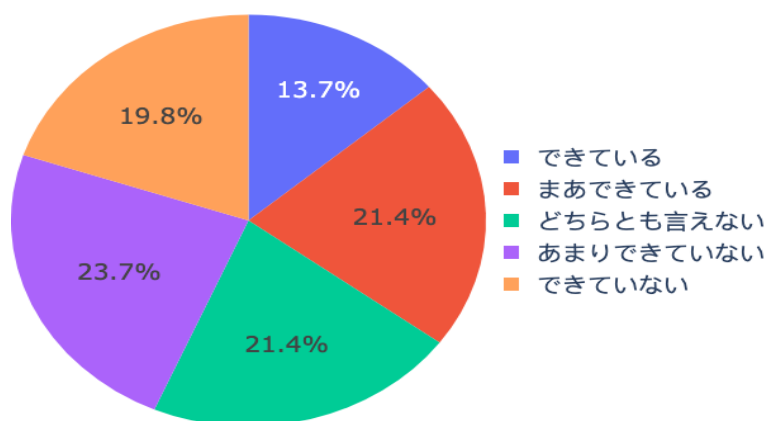
Q8-3_自分自身で生活・生計を立てていくイメージができますか (n=180)



==参考 児童のみ==

「自分自身で生活・生計を立てていくイメージ」を児童だけで集計すると、「できていない」と「あまりできていない」を合計した「できていない層」の割合が増加している。全体の 34.4% (「できていない (15.0%)」+「あまりできていない (19.4%)」) から 43.5% (「できていない (19.8%)」+「あまりできていない (23.7%)」) となった。

Q8-3_自分自身で生活・生計を立てていくイメージができますか (児童のみ n=131)

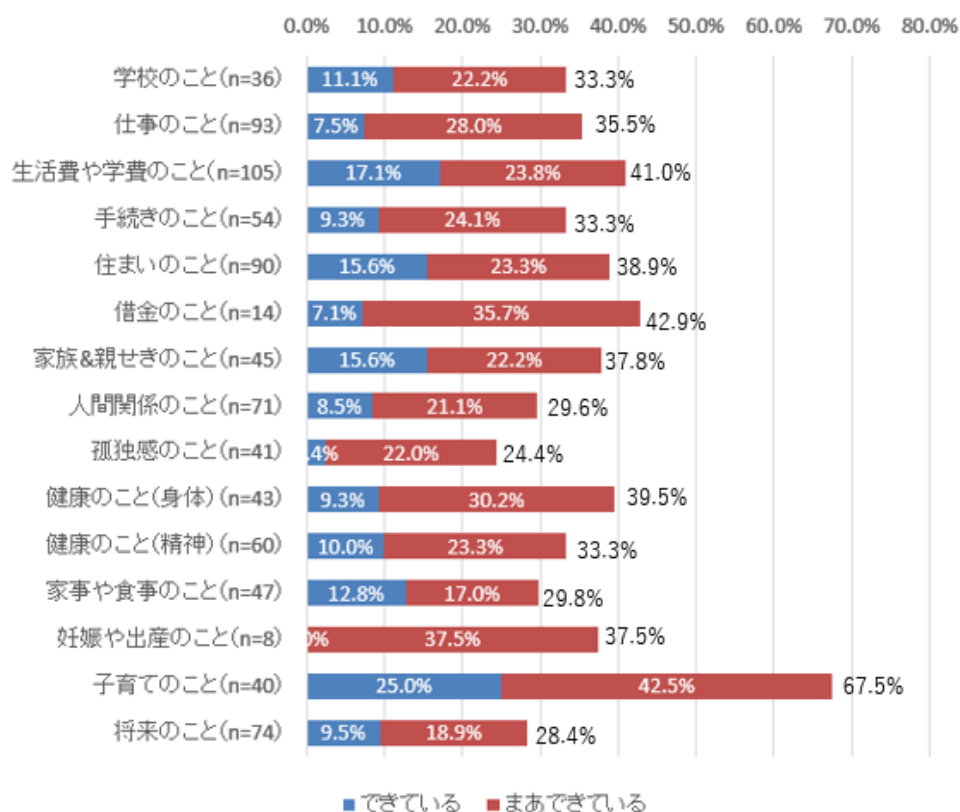


【クロス集計】将来の不安内容×生計を立てていくイメージ (Q7-1×Q8-3) (n=131)

「将来、自分が生計を立てていくイメージ」ができている層には、どのような特徴があるのだろうか。「将来の不安内容」と「生計を立てていくイメージ」のクロス集計を示す。生計を立てていくイメージができていると回答する割合が高い層は、将来の不安内容で「子育て」と回答している層で、50%を超えて 67.5%となる。また、「生活費や学費」や「借金」と金銭関係を気にしている層も 40%を超えて高い割合を示している。一方、数値

が低いのは「孤独感」や「人間関係」といった不安を持っている層と「家事・食事」や「将来のこと」に不安を持っている層であり、どの層においても、30%未満となっている。

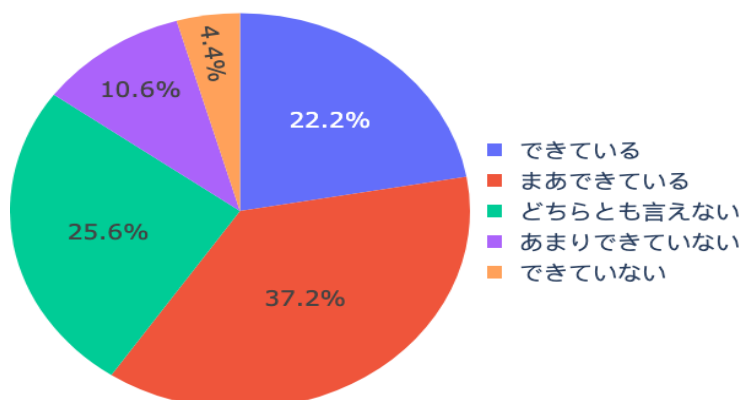
将来の不安内容×生計を立てていくイメージ (n=131)



■社会人マナー

「社会人マナー」に関しては、59.4%が「できている (22.2%)」または「まあできている (37.2%)」と回答している。「できていない (4.4%)」と「あまりできていない (10.6%)」を合わせた「できていない層」は 15.0%となっている。

Q8-4_社会人としてのマナーは身につけていると思いますか (n=180)

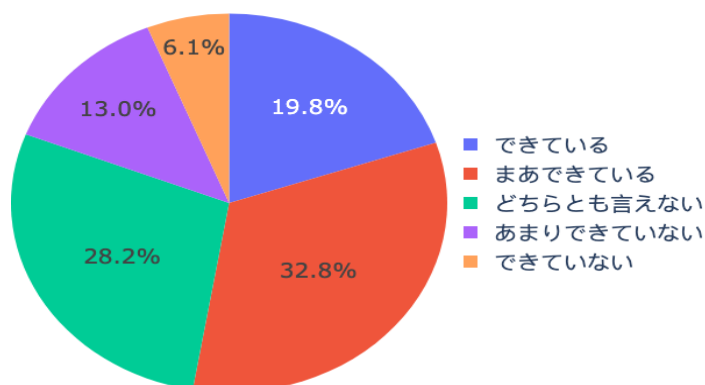


==参考① 児童のみ==

「社会人マナー」を児童のみで集計すると、やや「できている層」が減少し、「できていない層」が増加する。

「できている」は全体の 22.2%に対して 19.8%へ減少し、「まあできている」も全体の 37.2%から 32.8%へ減少している。「できていない」は全体の 4.4%に対して 6.1%へ増加し、「あまりできていない」も全体の 10.6%から 13.0%へ増加している。

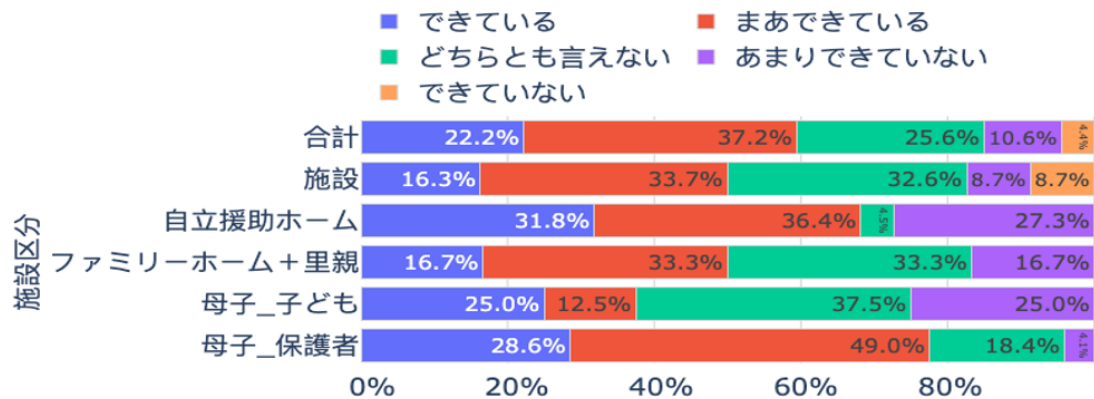
Q8-4_社会人としてのマナーは身につけていると思いますか (児童のみ n=131)



==参考② 施設区分ごとの社会人マナー==

「社会人マナー」を施設区分でクロス集計すると、「自立援助ホーム」と「母子生活支援施設の児童のみ」で、できていない層（「できていない」＋「あまりできていない」）が高い傾向となり、自信が無いと考えていることが分かる。他の施設が 10%台なのに対し、「自立援助ホーム」は 27.3%、「母子生活支援施設の児童のみ」が 25.0%と 20%台となっている。

Q8-4×Q2_社会人マナー×施設区分 (n=180)

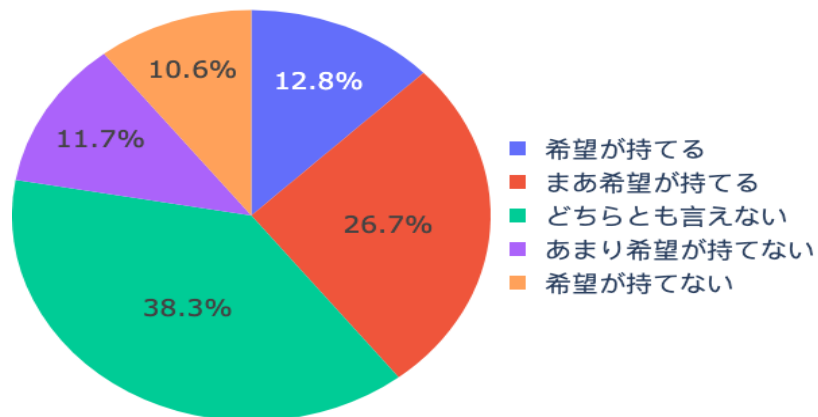


※グラフから「施設区分」の「その他」は除いた

■将来についての希望

「将来についての希望」が持てるかに関しては、「どちらとも言えない (38.3%)」が最も多くなっている。「希望が持てる (12.8%)」と「まあ希望が持てる (26.7%)」と合わせた「希望が持てる層」は 39.5%となった。一方、「希望が持てない (10.6%)」と「あまり希望が持てない (11.7%)」を合わせた「希望が持てない層」は 22.3%となっている。

Q8-6_自分の将来について、希望が持てますか (n=180)



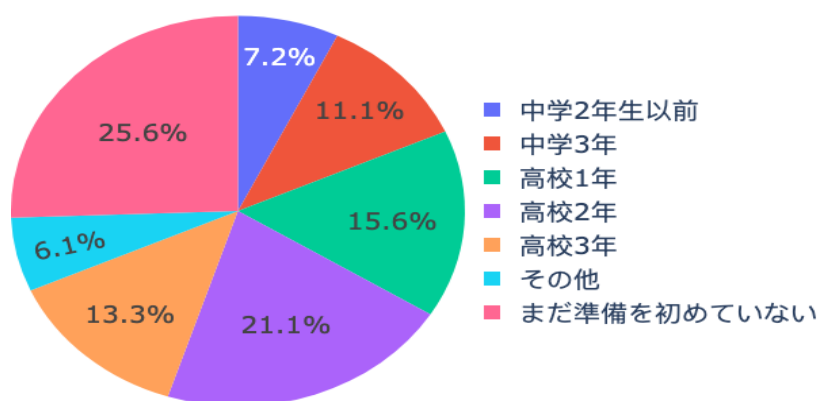
(5) 将来の自立準備について

入所者の自立準備状況についてたずねた。

■進学準備時期

「就職や進学準備開始時期」は、「まだ準備をはじめていない (25.6%)」を除くと、「高校2年生」が最も多く 21.1%で、次いで「高校1年生」の 15.6%、「高校3年生」の 13.3%が続く。

Q9-1_将来の就職や大学等への進学に向けて、準備を始めたのは、いつ頃ですか (n=180)

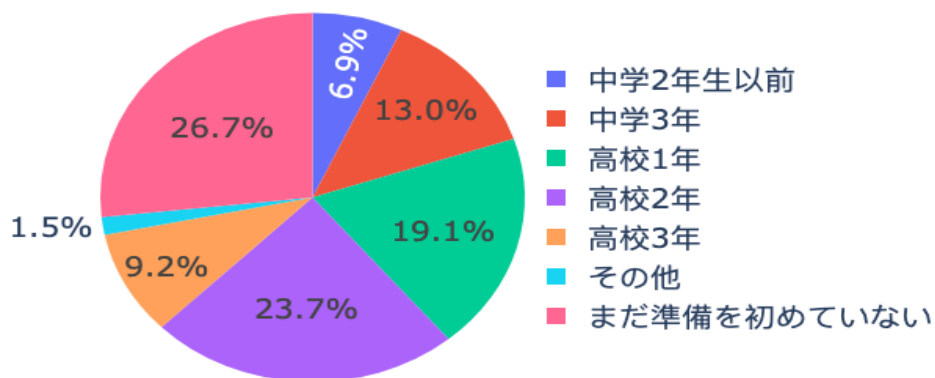


==参考 児童のみ==

「就職や進学準備開始時期」は、児童のみで集計すると、やや早期化している。

「中学2年以前」は、全体の 7.2%から 6.9%へ減少しているものの、「中学3年」は全体の 11.1%から 13.0%へ、「高校1年」は全体の 15.6%から 19.1%へ、「高校2年」は全体の 21.1%から 23.7%へ増加している。「高校1年以前」に準備を始めた割合は、全体の 33.9%から 39.0%へ増加している。

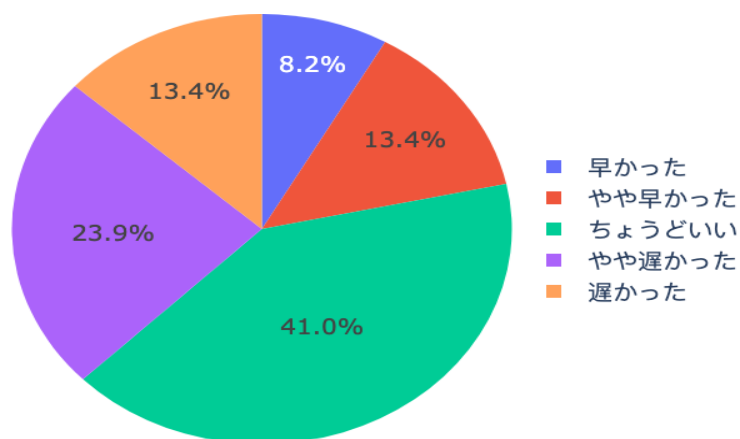
Q9-1_将来の就職や大学等への進学に向けて、準備を始めたのは、いつ頃ですか
(児童のみ n=131)



■自立準備の開始時期の評価

「自立準備の開始時期の評価」に関しては、41.0%が「ちょうどいい」と回答している。遅かったと回答したのは 37.3%（「やや遅かった（23.9%）」＋「遅かった（13.4%）」）で、「早かった」の 21.6%（「やや早かった（13.4%）」＋「早かった（8.2%）」）よりも 15.7 ポイント高くなっている。

Q9-2_自立の準備を始めた時期について、どのように思いますか (n=134)



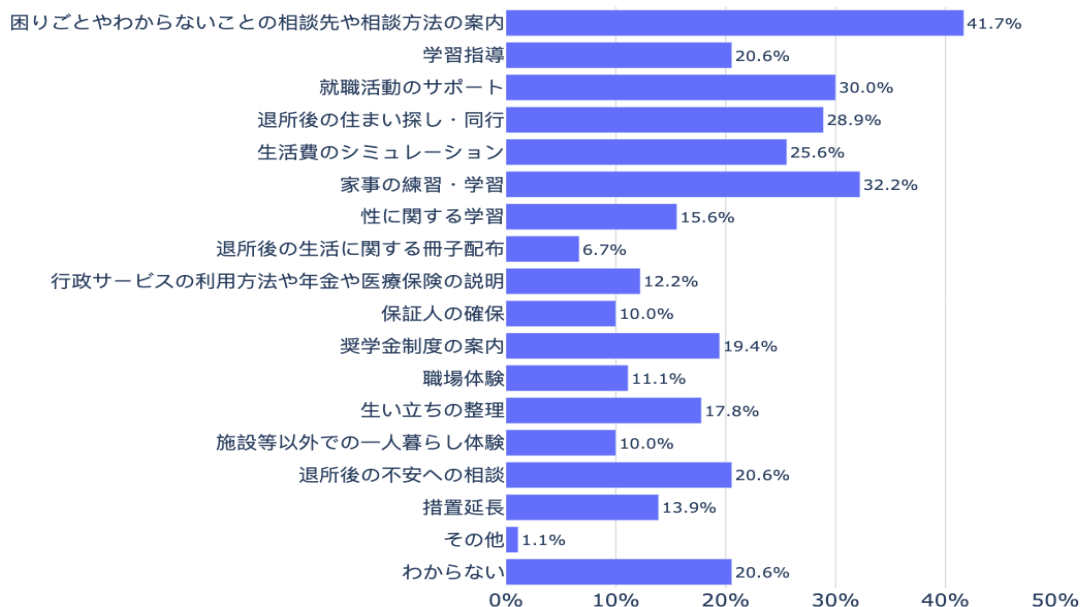
（６）入所中のサポートについて

入所して感じているサポートについてたずねた。

■施設等のサポートで「将来に向けて役に立つ」と思うもの

「施設等のサポートで「将来に向けて役に立つ」と思うもの」は、「困りごとやわからないことの相談先や相談方法の案内」が最も多く 41.7%となっている。次いで「家事の練習・学習」の 32.2%、「就職活動のサポート」の 30.0%、「退所後の住まい探し・同行」の 28.9%、「生活費のシミュレーション」の 25.6%が続く。

Q10_施設等で受けている説明やサポートで、将来に向けて「役に立つ」と思うものを
お答えください（あてはまるもの全て）（n=180）



==参考 施設区分ごとの施設のサポートで「将来に向けて役に立つ」と思うもの==

「施設等のサポートで「将来に向けて役に立つ」と思うもの」を施設区分でクロス集計すると、施設ごとの違いが見られた。

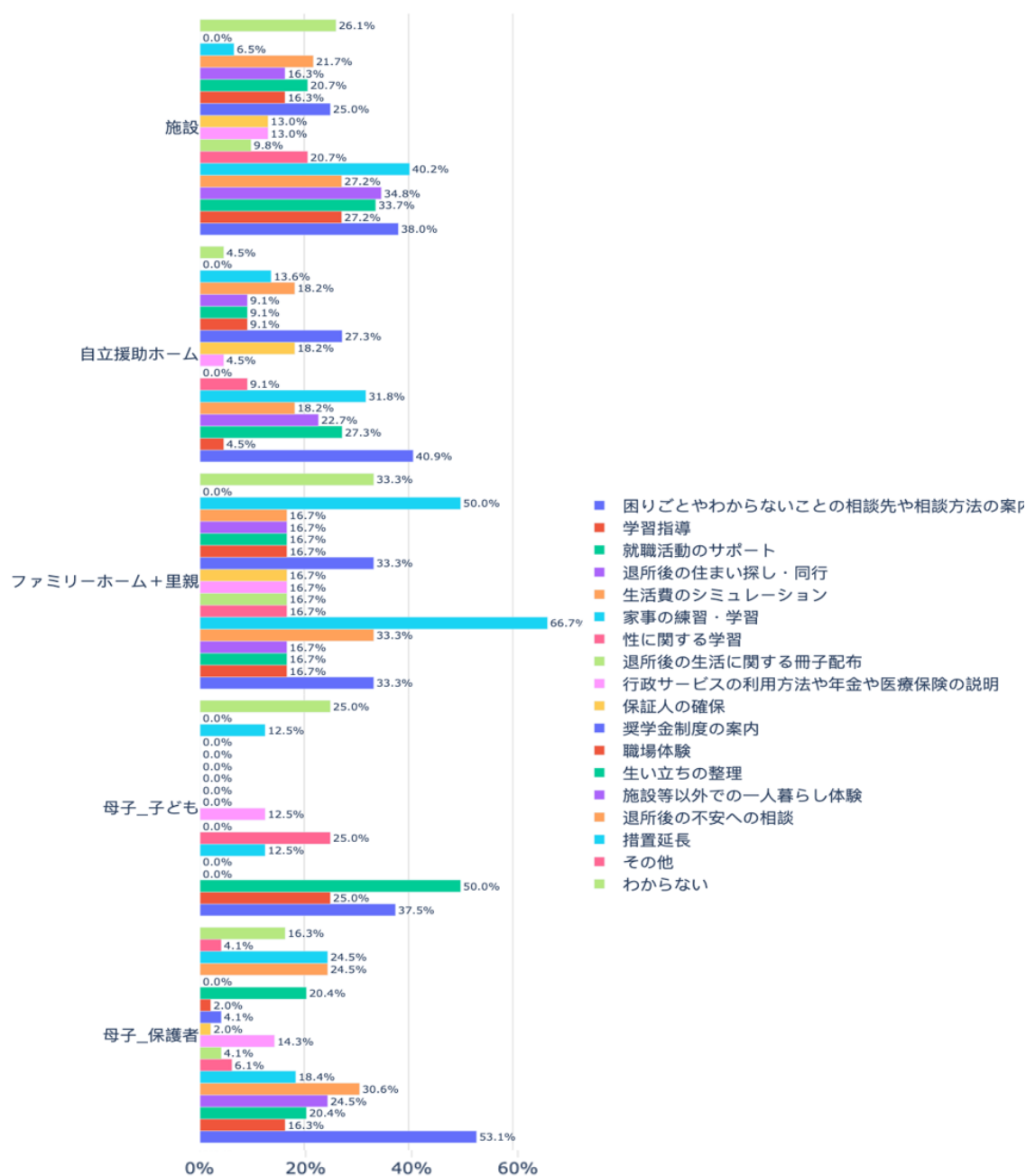
「施設」は、「家事の練習・学習（40.2%）」が最も多く、「困りごとやわからないことの相談先や相談方法の案内（38.0%）」、「退所後の住まい探し・同行（34.8%）」が続く。

「自立援助ホーム」は、「困りごとやわからないことの相談先や相談方法の案内（40.9%）」が最も多く、「家事の練習・学習（31.8%）」、「就職活動のサポート（27.3%）」、「奨学金制度の案内（27.3%）」が続く。

「ファミリーホーム＋里親」は、「家事の練習・学習（66.7%）」が最も多く、「措置延長（50.0%）」、「困りごとやわからないことの相談先や相談方法の案内（33.3%）」、「生活費のシミュレーション（33.3%）」、「奨学金制度の案内（33.3%）」が続く。

「母子生活支援施設の児童のみ」は、「就職活動のサポート（50.0%）」が最も多く、「困りごとやわからないことの相談先や相談方法の案内（37.5%）」、「学習指導（25.0%）」「性に関する学習（25.0%）」が続く。

Q10×Q2_施設のサポートで「将来に向けて役に立つ」と思うもの×施設区分 (n=180)



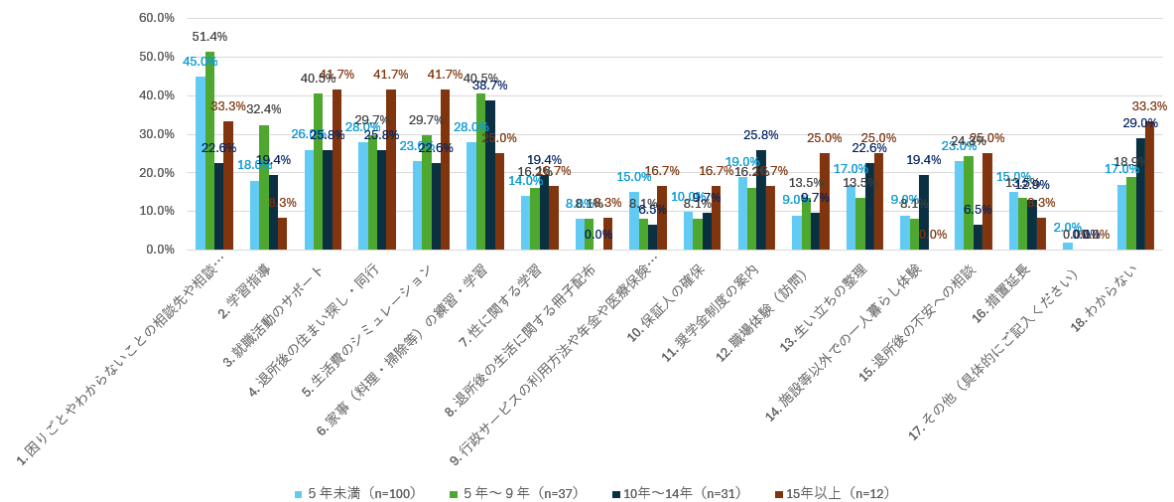
※グラフから「施設区分」の「その他」は除いた

【クロス集計】 将来に向けて「役に立つ」と思うサポート×施設等で過ごしている年数 (Q7-1×Q3) (n=131)

「将来に向けて「役に立つ」と思うサポート」は、「施設等で過ごしている年数」によって変化があるのだろうか。クロス集計を示す。

施設等の生活経験年数で、「将来に向けて役立つ」と思うサポートが異なる。生活年数9年以下では「困りごとの相談方法」、10年～14年では「家事の練習」、15年以上では「就職活動、住まい探し、金銭管理」が上位である。

将来に向けて「役に立つ」と思うサポート×施設等で過ごしている年数（n=131）

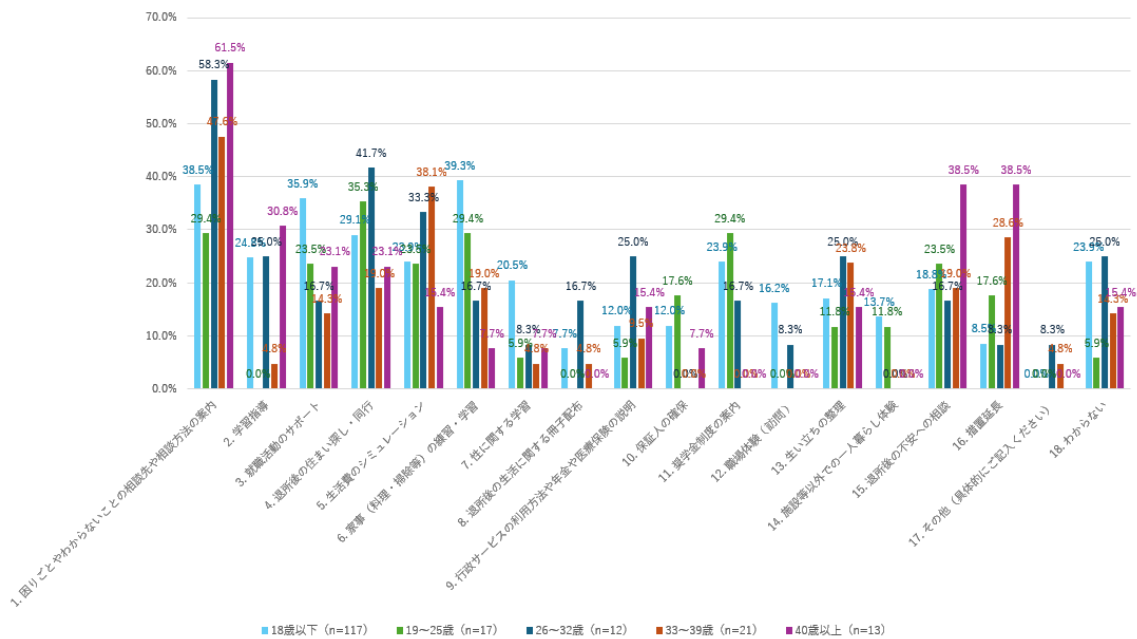


【クロス集計】将来に向けて「役に立つ」と思うサポート×年齢（Q7-1×Q1）（n=131）

「将来に向けて「役に立つ」と思うサポート」は、「年齢」によって変化があるのだろうか。クロス集計を示す。

どの年齢層も「困りごとやわからないことの相談先や相談方法の案内」の数値が高い傾向なのは共通しているが、年齢層ごとの特徴も見える。

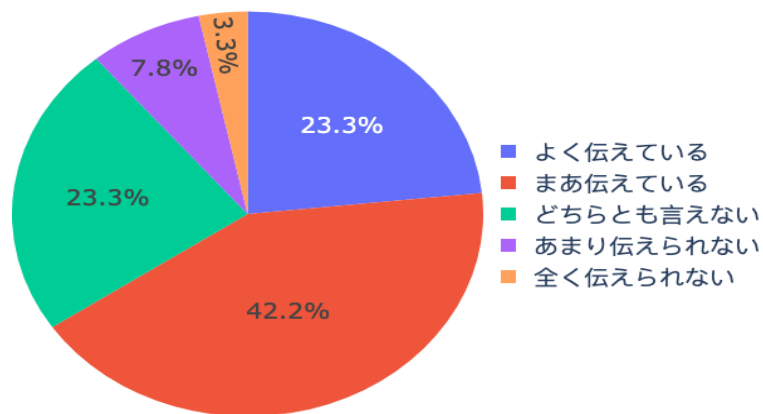
18歳以下では「就職活動のサポート」と「家事（料理・掃除等）の練習・学習」が、他の年齢層よりも高い数値となっている。19歳～25歳は、大学や専門学校への進学のためか、「奨学金制度の案内」の数値が高くなっている。26歳～32歳は、「退所後の住まい探し・同行」と「行政サービスの利用方法や年金や医療保険の説明」が高く、33歳～39歳は「生活費のシミュレーション」が高い。40歳以上は保護者の意見という側面もあり、「学習指導」、「退所後の不安への相談」、「措置延長」が高くなっている。



■将来についての意思表示

「自分の気持ちや希望が伝えられているか」に関しては、65.5%が「よく伝えている（23.3%）」または「まあ伝えている（42.2%）」と回答している。

Q13-1_自分の将来について、自分の気持ちや希望は十分に伝えられていますか（n=180）

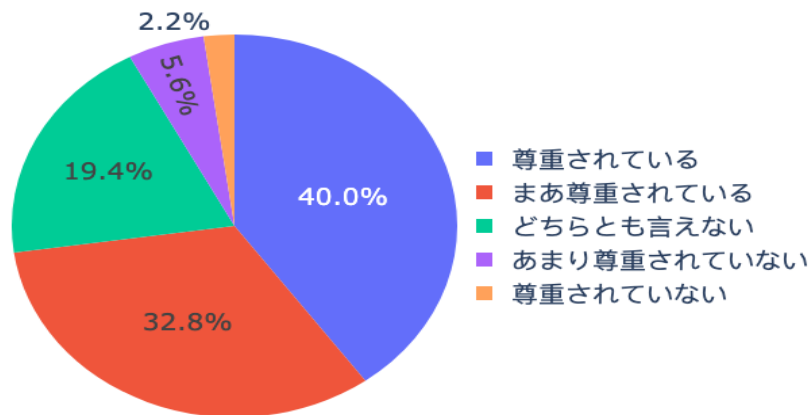


■尊重されている感覚

「自分の意見が尊重されているか」については、72.8%が「尊重されている（40.0%）」または「まあ尊重されている（32.8%）」と回答している。

Q13-2_あなたの意向や意見などは、施設職員や里親、児相の担当者から、

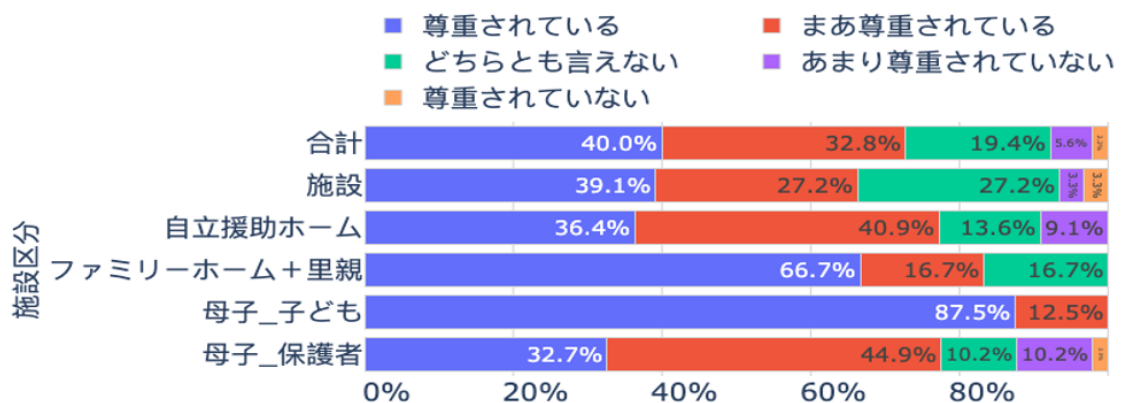
尊重されていると感じますか (n=180)



==参考 施設区分ごとの自分の意見が尊重されているか==

「自分の意見が尊重されているか」を施設区分でクロス集計すると、「ファミリーホーム+里親」と「母子生活支援施設の児童のみ」の「尊重されている」の回答率が高いことが分かる。他の施設が 30%台なのに対し、「ファミリーホーム+里親」が 66.7%、「母子生活支援施設の児童のみ」が 87.5%となった。

Q13-2×Q2_自分の意見が尊重されているか×施設区分 (n=180)

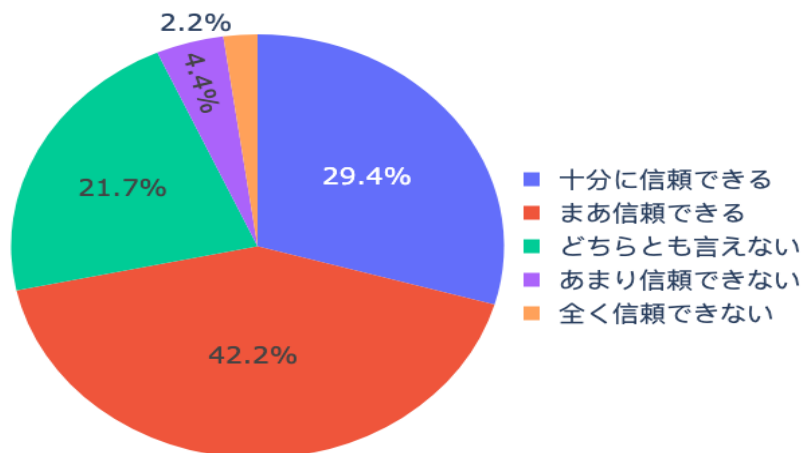


※グラフから「施設区分」の「その他」は除いた

■施設職員や里親、児相の担当者が信頼できるか

「施設職員や里親、児相の担当者が信頼できるか」についても、71.6%が「十分に信頼できる (29.4%)」または「まあ信頼できる (42.2%)」と回答している。

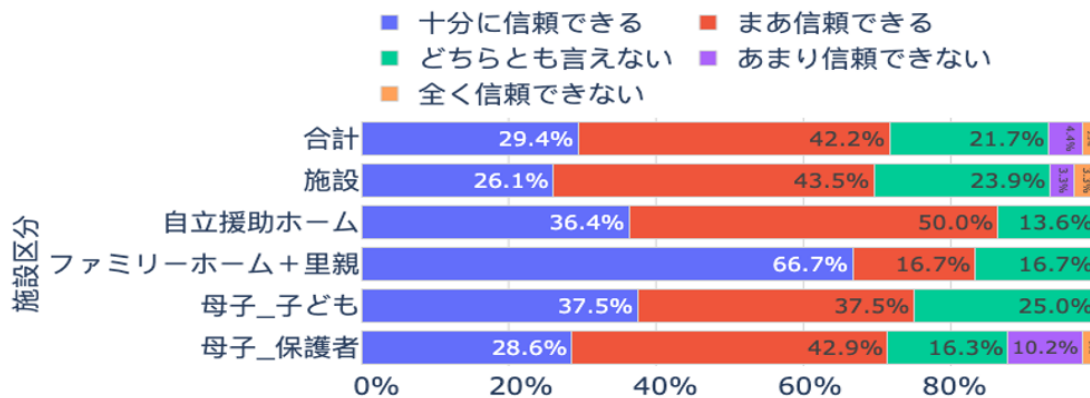
Q14_施設職員や里親、児相の担当者は信頼できると思っていますか (n=180)



==参考 施設区分ごとの施設職員や里親、児相の担当者が信頼できるか==

「施設職員や里親、児相の担当者が信頼できるか」を施設区分でクロス集計すると、「ファミリーホーム+里親」の信頼度が高いことが分かる。他の施設が 26%～37%なのに対し、「ファミリーホーム+里親」は 66.7%となっている。

Q14×Q2_施設職員や里親、児相の担当者が信頼できるか×施設区分 (n=180)

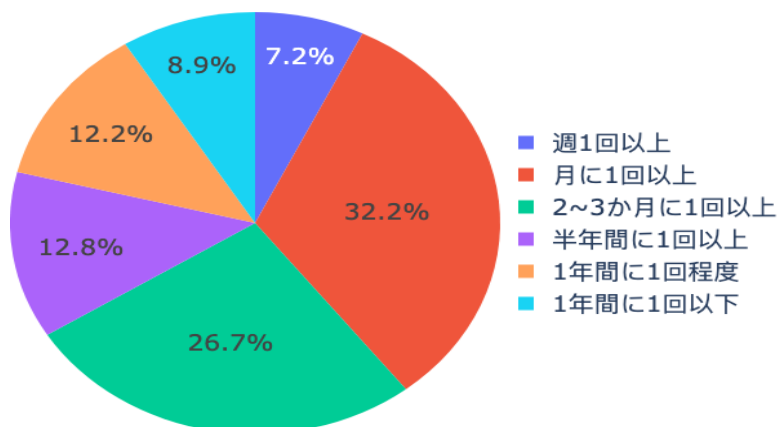


※グラフから「施設区分」の「その他」は除いた

■将来の施設等からの連絡頻度

「将来の施設等からの連絡頻度」は、「月に1回以上」が 32.2%で最も多く、次いで「2～3か月に1回以上」の 26.7%が続く。

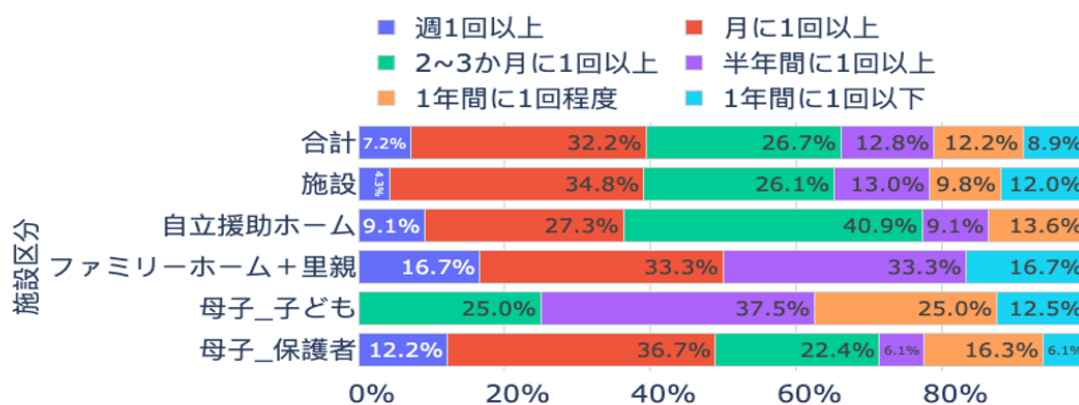
Q15-1_将来、施設等からどのくらいの連絡をして欲しいと思いますか
 ※電話だけでなく、メール、SNS、対面、個別の職員との連絡も含みます (n=180)



==参考 施設区分ごとの、将来の施設等からの連絡頻度==

「将来の施設等からの連絡頻度」を施設区分でクロス集計すると、「母子生活支援施設の児童のみ」だけが、「週1回以上」と「月に1回以上」の頻繁な連絡への回答がないことが分かる。

Q15-1×Q2_将来の施設等からの連絡頻度×施設区分 (n=180)

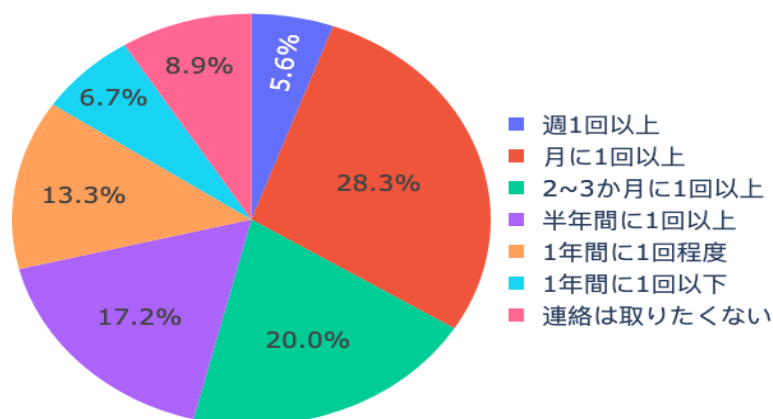


※グラフから「施設区分」の「その他」は除いた

■将来の回答者から施設等への連絡頻度

「将来の回答者からの施設等への連絡頻度」は、「月に1回以上」が28.3%で最も多く、「2~3か月に1回以上」の20.0%が続く。

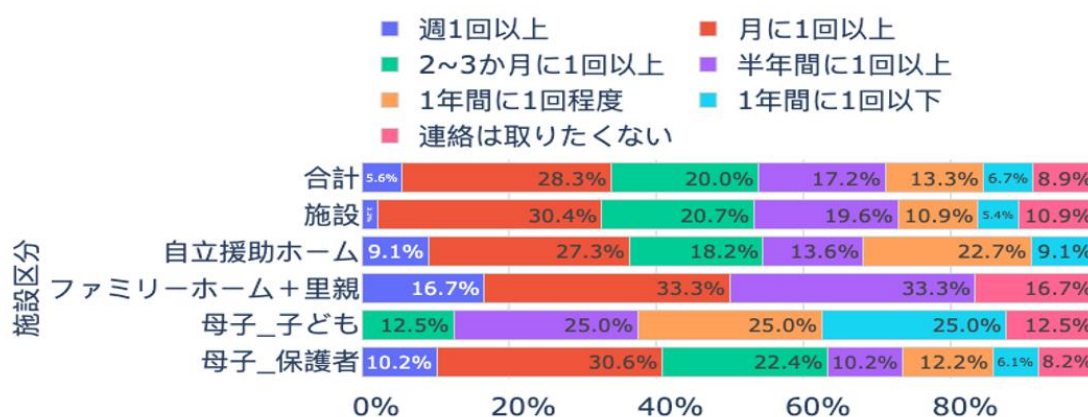
Q15-2_将来、あなたから施設等へ、どのくらいの連絡をとりたいと思いますか
 ※電話だけでなく、メール、SNS、対面、個別の職員との連絡も含みます (n=180)



==参考 施設区分ごとの、将来の回答者からの施設等への連絡頻度==

「将来の回答者からの施設等への連絡頻度」を施設区分でクロス集計すると、「将来の施設等からの連絡頻度」と同様に、「母子生活支援施設の児童のみ」だけが、「週1回以上」と「月に1回以上」という頻繁な連絡が回答がないことが分かる。

Q15-2×Q2_自身から施設等への連絡頻度×施設区分 (n=180)



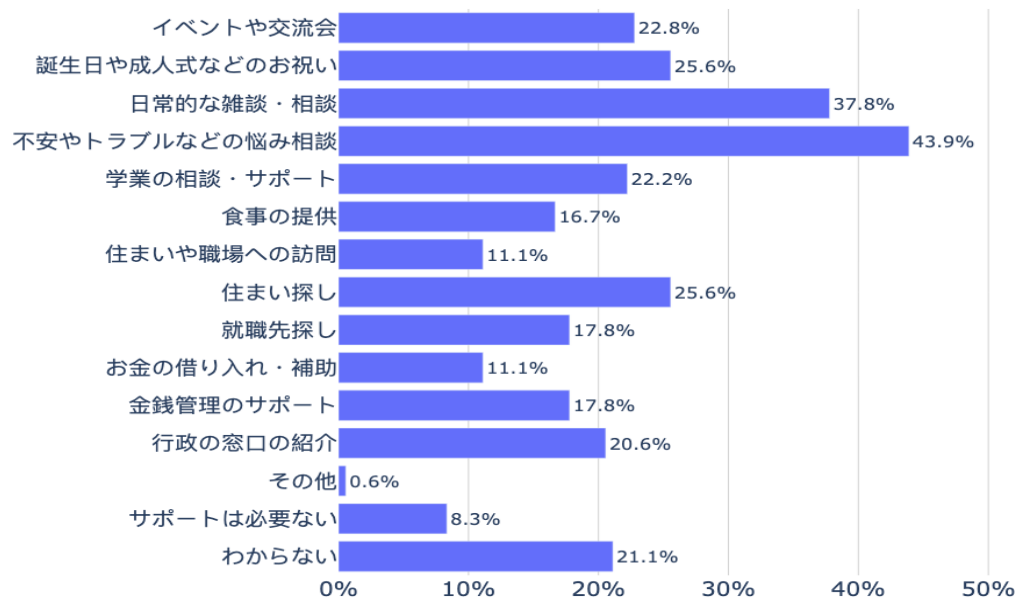
※グラフから「施設区分」の「その他」は除いた

■退所後に受けたたいサポート

「退所後に受けたたいサポート」は、「不安やトラブルなどの悩み相談」が最も多く 43.9%で、「日常的な雑談・相談」の 37.8%、「誕生日や成人式などのお祝い」と「住まい探し」の 25.6%が続く。

Q16_施設等を出た後で、どのようなサポートを受けたいと思いますか
(あてはまるもの全て)

※行政とは、市役所、福祉事務所、保健所等のことです (n=180)

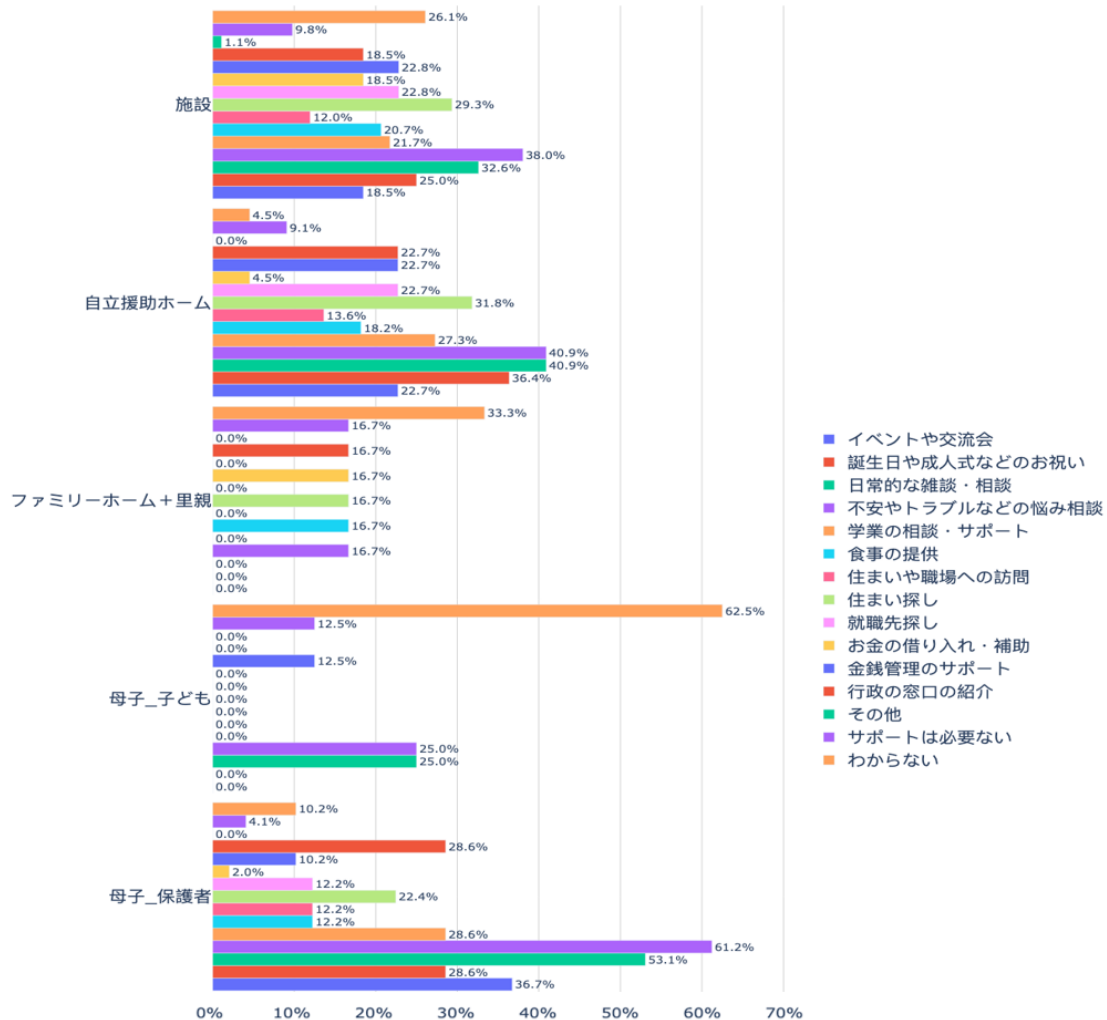


==参考 施設区分ごとの退所後に受けたいサポート==

「退所後に受けたいサポート」を施設区分でクロス集計すると、概ねどの施設においても受けたいと回答されているサポートの特徴が見えてくる。多くの施設で、「不安やトラブルなどの悩み相談」と「日常的な雑談・相談」の割合は高くなっている。その他「イベントや交流会」や「誕生日や成人式などのお祝い」も高い割合となっている。

また、施設ごとでは、「ファミリーホーム+里親」と「母子生活支援施設の児童のみ」は、回答しているサポートの種類が少なく、他の施設は幅広いサポートに回答していることが分かる。

Q16×Q2_退所後に受けたいサポート×施設区分(n=180)

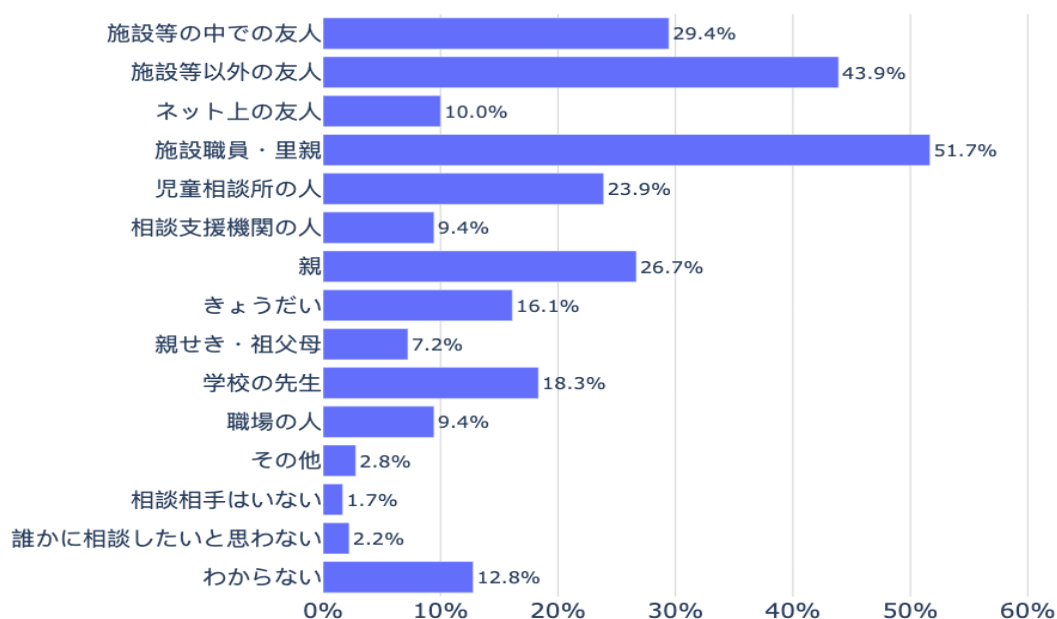


※グラフから「施設区分」の「その他」は除いた

■困った時の相談相手

「困った時の相談相手」に関しては、「施設職員・里親」が最も多く 51.7%で、次いで「施設等以外の友人」の 43.9%、「施設の中での友人」の 29.4%が続く。

Q17_もし困ったことがあった時に、相談できる相手はいますか
(あてはまるもの全て) (n=180)



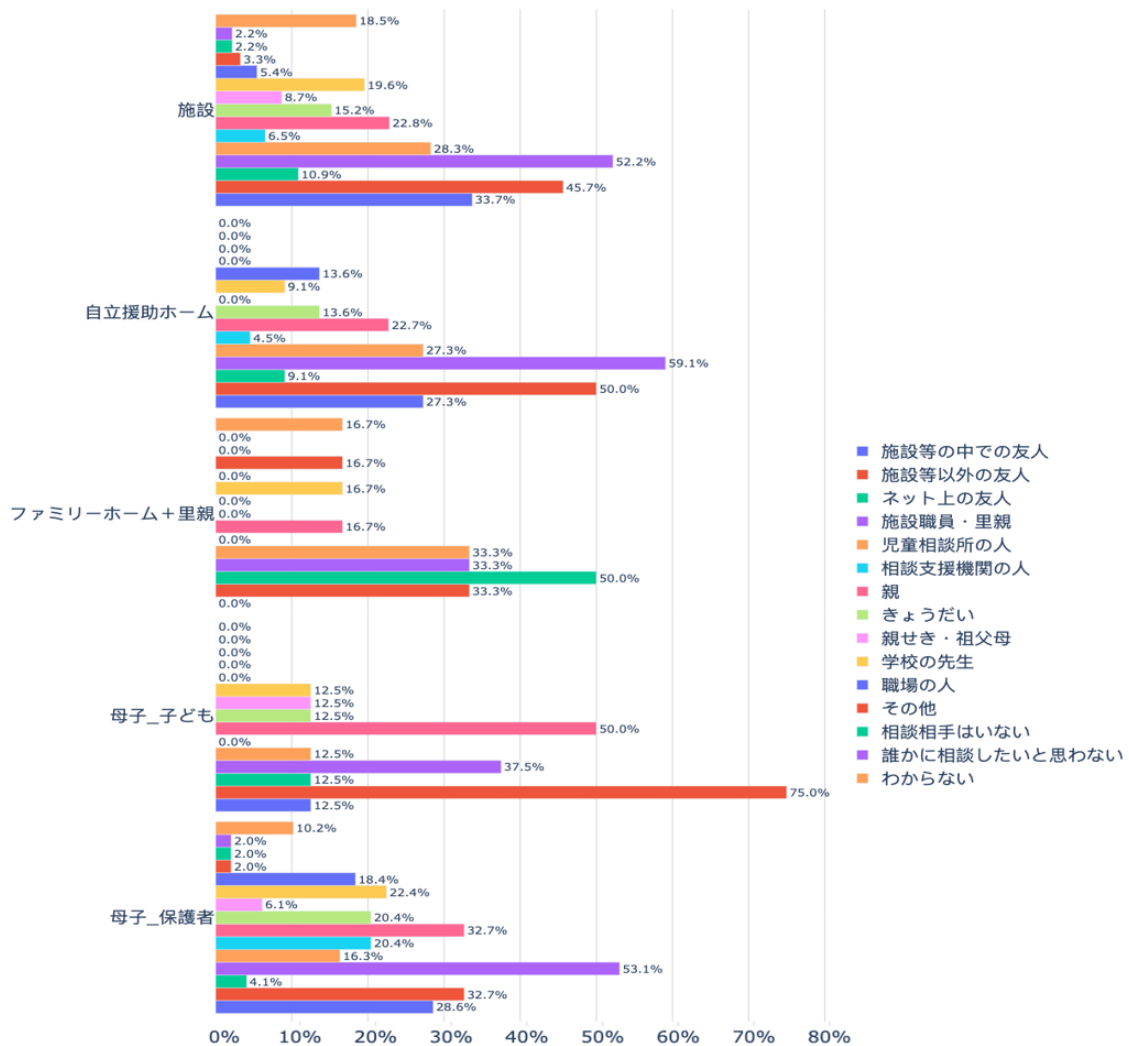
==参考 施設区分ごとの困った時の相談相手==

「困った時の相談相手」を施設区分でクロス集計すると、それぞれの施設の特徴が見える。「施設」と「自立援助ホーム」は、「施設職員・里親」、「施設等以外の友人」、「施設等の中での友人」や「児童相談所の人」の割合が高い。

「ファミリーホーム+里親」は、「ネット上の友人」が 50.0%と半数を占める。

「母子生活支援施設の児童のみ」は、75.0%が「施設等以外の友人」、50.0%が「親」と回答している。

Q17×Q2_困った時の相談相手×施設区分 (n=180)

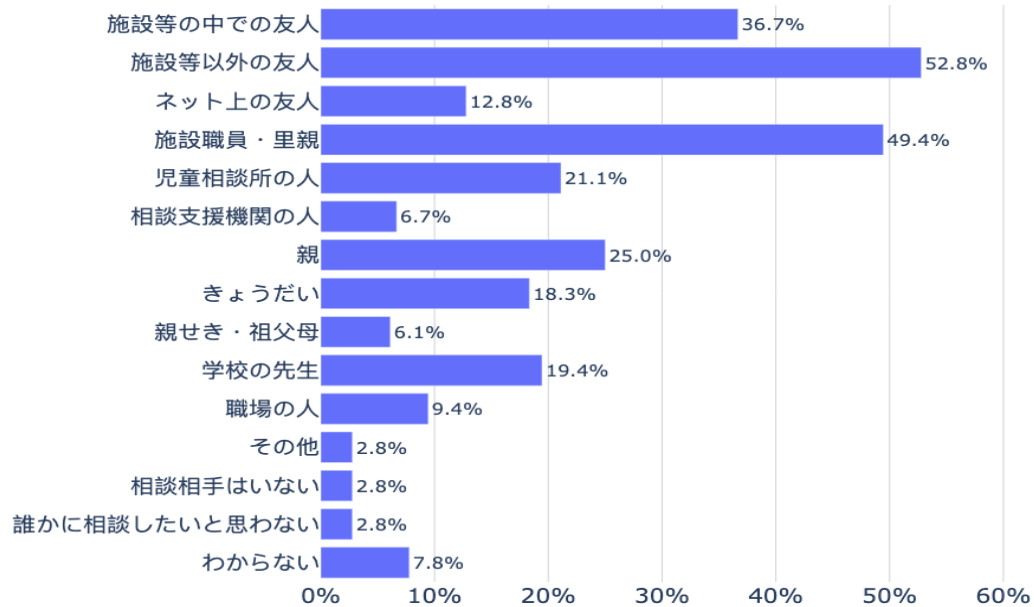


※グラフから「施設区分」の「その他」は除いた

■良かったこと、嬉しかったことを伝える相手

「良かったこと、嬉しかったことを伝える相手」に関しては、「施設等以外の友人」の52.8%が最も多く、次いで「施設職員・里親」が49.4%、「施設等の中での友人」が36.7%で続く。

Q18_良かったこと、嬉しかったことを伝える相手はいますか
(あてはまるもの全て) (n=180)



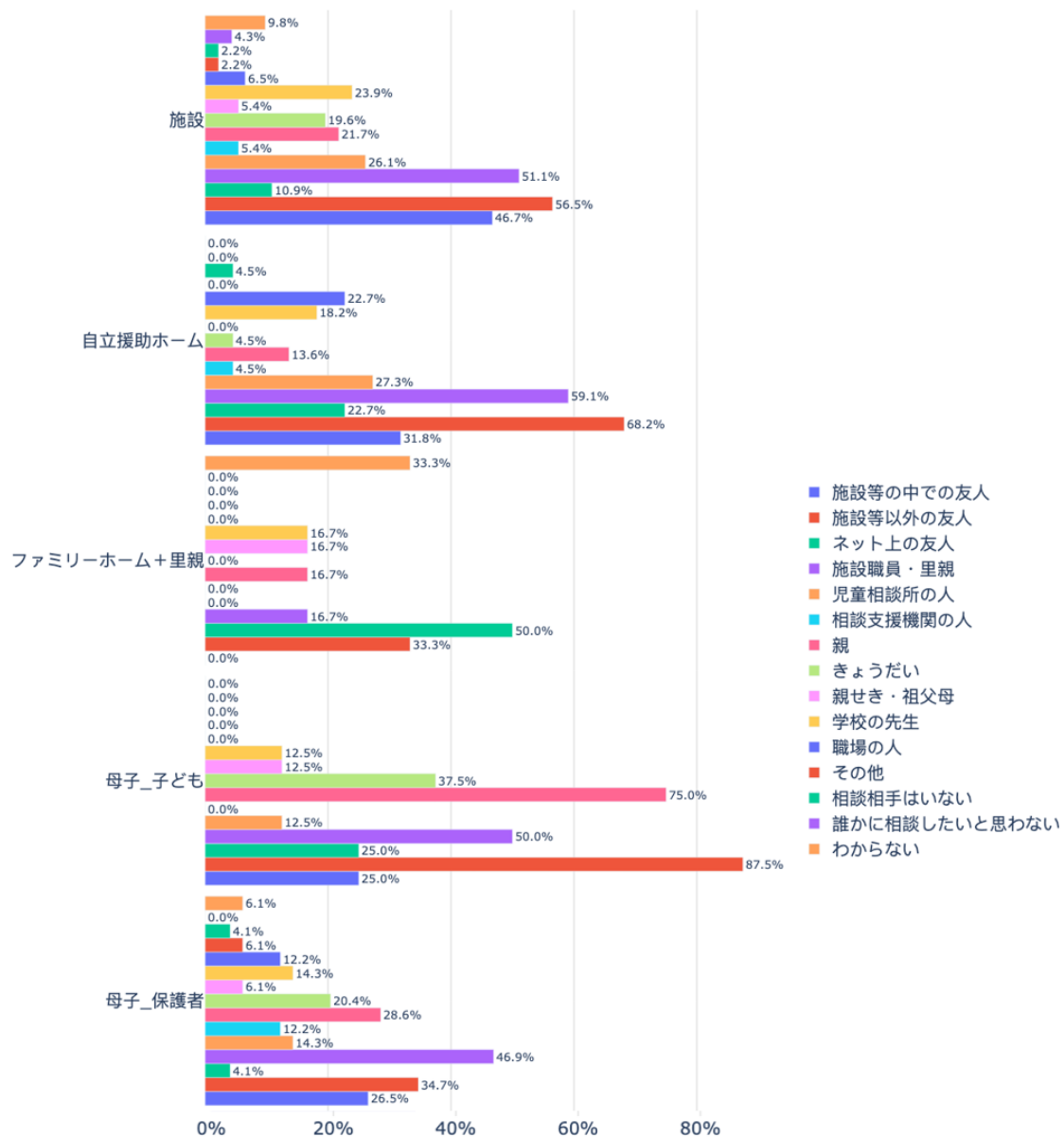
==参考 施設区分ごとの良かったこと、嬉しかったことを伝える相手==

「良かったこと、嬉しかったことを伝える相手」を施設区分でクロス集計すると、「困った時の相談相手」と似た傾向が確認できる。

概ね「施設等以外の友人」と「施設職員・里親」の割合が高い。

「ファミリーホーム＋里親」は、「ネット上の友人」が 50.0%で、「困った時の相談相手」と同様の傾向となる。「母子生活支援施設の児童のみ」は、75.0%が「親」と回答しており、こちらも「困った時の相談相手」と同様の傾向となる。

Q18×Q2_良かったこと、嬉しかったことを伝える相手×施設区分(n=180)

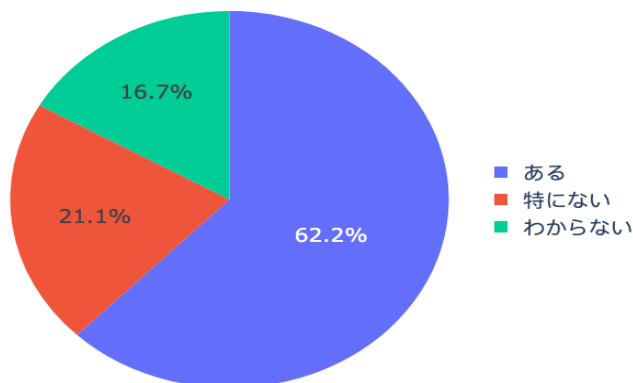


※グラフから「施設区分」の「その他」は除いた

■安心安全な居場所

「気持ちが安らぐ場所や趣味、活動」については、62.2%が「ある」と回答しており、自由記入欄では「ゲーム」「アニメ・マンガ」「スポーツ」「音楽・映画鑑賞」などの回答が目立った。

Q19-1_気持ちが安らぐ場所や趣味、活動はありますか (n=180)



入所者調査のまとめ

以上の入所者調査から分かったことを抜粋する。

【入所者の精神の健康状態】

- ・入所者の 45.0%が、精神的な不調を示している。
- ・40.0%が「通院している」、5.0%が「通院していないが心の状態が悪い」と回答している。

【入所者の生活状態】

- ・現在の通学先は、「全日制高校」が最も多く、次いで「学校に通っていない」、「定時制・通信制高校」「特別支援学校」が続く。
- ・「卒業後の進路」は「就職」が最も多く、次いで「未定」、「進学」が続く。
- ・「将来の不安」は、「生活費や学費のこと」、「仕事のこと」と「住まいのこと」が3大不安要素となる。
- ・「将来の働くイメージ」に関しては、46.7%が「できている・まあできている」と回答している。
- ・「生活・生計を立てていくイメージ」に関しては、44.5%が「できている・まあできている」と回答している。
- ・「社会人マナー」に関しては、59.4%が「できている・まあできている」と回答している。

・「将来についての希望」に関しては、39.5%が「希望が持てる・まあ希望が持てる」と回答している。「希望が持てない層」は22.3%となった。

【将来の自立準備】

・「就職や進学の前準備開始時期」は、「高校2年生」、「高校1年生」、「高校3年生」の順位となる。

・「自立準備の前準備時期の評価」については、41.0%が「ちょうどいい」と回答している。一方、「遅かった・やや遅かった」と回答も37.3%となった。

【入所中のサポート】

・「将来に向けて役に立つ」と思うサポートは、「困りごとやわからないことの相談先や相談方法の案内」、「家事の練習・学習」、「就職活動のサポート」、「退所後の住まい探し・同行」や「生活費のシミュレーション」が上位となる。

・施設等の生活経験年数で、「将来に向けて役立つ」と思うサポートが異なる。生活年数9年以下では「困りごとの相談方法」、10年～14年では「家事の練習」、15年以上では「就職活動、住まい探し、金銭管理」が上位である。

・「自分の気持ちや希望が伝えられているか」に関しては、65.5%が「よく伝えている・まあ伝えている」と回答している。

・「自分の意見が尊重されているか」については、72.8%が「尊重されている・まあ尊重されている」と回答している。

・「施設職員や里親、児相の担当者が信頼できるか」については、71.6%が「十分に信頼できる・まあ信頼できる」と回答している。

・「退所後に受けたサポート」は、「不安やトラブルなどの悩み相談」、「日常的な雑談・相談」、「誕生日や成人式などのお祝い」や「住まい探し」が上位となる。

・「困った時の相談相手」は「施設職員・里親」が最も多く、次いで「施設等以外の友人」、「施設の中での友人」が続く。

・「良かったこと、嬉しかったことを伝える相手」は「施設等以外の友人」が最も多く、次いで「施設職員・里親」、「施設の中での友人」が続く。

施設調査

調査概要

（１）調査の目的

社会的養護の施設等の措置受託者の自立支援に対するニーズの把握を行い、退所者および入所者が直面する課題や困難に対して効果的な自立支援が提供されるための環境整備を行い、将来的な支援につなげる。

（２）調査対象

前述の「退所者調査」および「入所者調査」の対象者を措置受託経験した、以下の施設等における措置受託者
児童養護施設、児童自立支援施設、児童心理治療施設、自立援助ホーム
母子生活支援施設、里親家庭、ファミリーホーム

（３）調査方法

措置受託者を回答者とする web アンケート調査

（４）実施期間

令和 6 年（2024 年）10 月 18 日～11 月 3 日

（５）回答件数

- ・調査対象者（里親家庭除く）：50 件
- ・回答数
 - 里親家庭を含む：40 件
 - 里親家庭を除く：34 件（回答率 68.0%）

（６）調査項目

設問種別と設問内容については次ページ図表のとおり。調査項目一覧は、末尾の参考資料に掲載。

設問種別	設問内容	
(1)基本情報	①施設名	
(2)入所者への自立支援	①提供している自立支援の内容	②自立支援への意見
(3)退所者とのつながり	①退所者への連絡頻度 ③退所者とのつながりに関する意見・事例	②連絡が取れる退所者の割合
(4)退所者への支援	①提供している自立支援の内容 ③退所者に対して有効と思われる支援内容	②自立支援への意見
(5)自立支援のアイデア		
(6)回答依頼数	①退所者への回答依頼数	②入所者への回答依頼または回答数

(1) 基本属性

基本的な属性として、記入された施設等の名称から施設種別を区分した。

また、調査結果において、施設区分別の比較を実施しているケースがあるが、その際の「施設区分」を、以下の5分類で定義した。

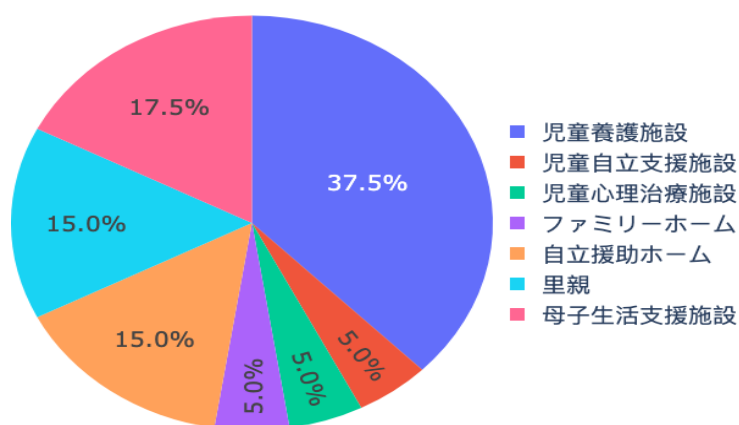
【施設区分の定義】

1. 施設（児童養護施設、児童自立支援施設、児童心理治療施設）
2. 自立援助ホーム
3. ファミリーホーム＋里親
- 4-1. 母子生活支援施設の児童
- 4-2. 母子生活支援施設の保護者

■施設区分

「施設区分」で最も多いのは「児童養護施設」の 37.5%で、次いで「母子生活支援施設」の 17.5%、「自立援助ホーム」と「里親」の 15.0%が続く。

Q0_施設区分* (n=40)



*施設、里親名から区分を判定

(2) 自立支援の実施状況について

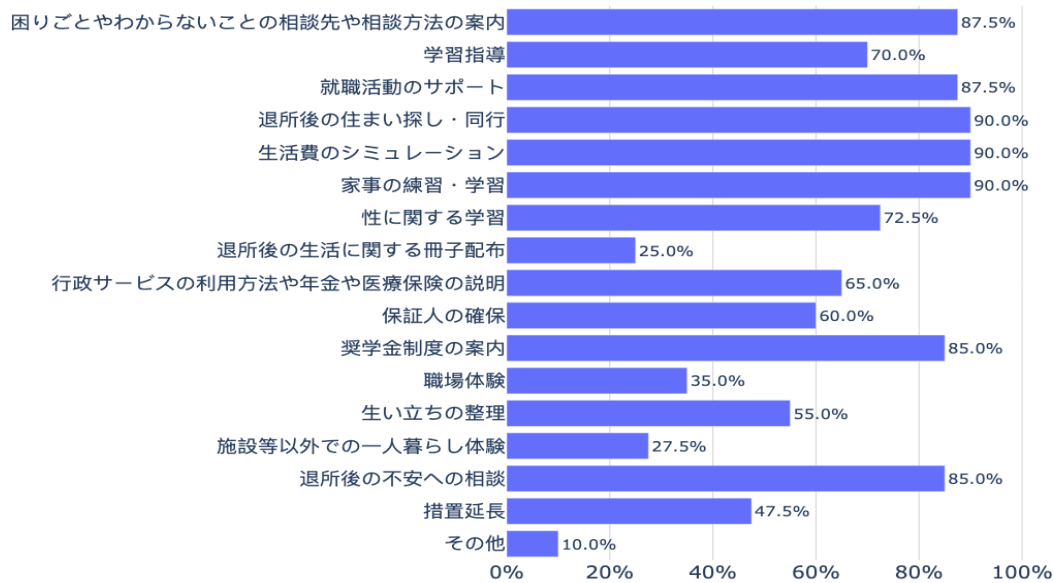
実施している自立支援内容についてたずねた。

■取り組んでいる自立支援施策

「取り組んでいる自立支援」に関しては、「退所後の住まい探し・同行」、「生活費のシミュレーション」と「家事の練習・学習」がいずれも 90.0%で最多となる。次いで「困りごとやわからないことの相談先や相談方法の案内」と「就職活動のサポート」が 87.5%、「奨学金制度の案内」と「退所後の不安への相談」が 85.0%で続く。

対応が半数以下となったのは、「退所後の生活に関する冊子配布 (25.0%)」、「施設等以外での一人暮らし体験 (27.5%)」、「職場体験 (35.0%)」、「措置延長 (47.5%)」となった。

Q1-1_貴施設で、入所者への自立支援について取り組んでいると思うことを
お聞かせください（当てはまるもの全て）（n=40）



==参考 施設区分ごとの取り組んでいる自立支援施策==

「取り組んでいる自立支援施策」を施設区分でクロス集計すると、施設ごとの施策で差が出ているのは、「退所後の生活に関する冊子配布」、「職場体験」、「生い立ちの整理」や「施設等以外での一人暮らし体験」となっている。

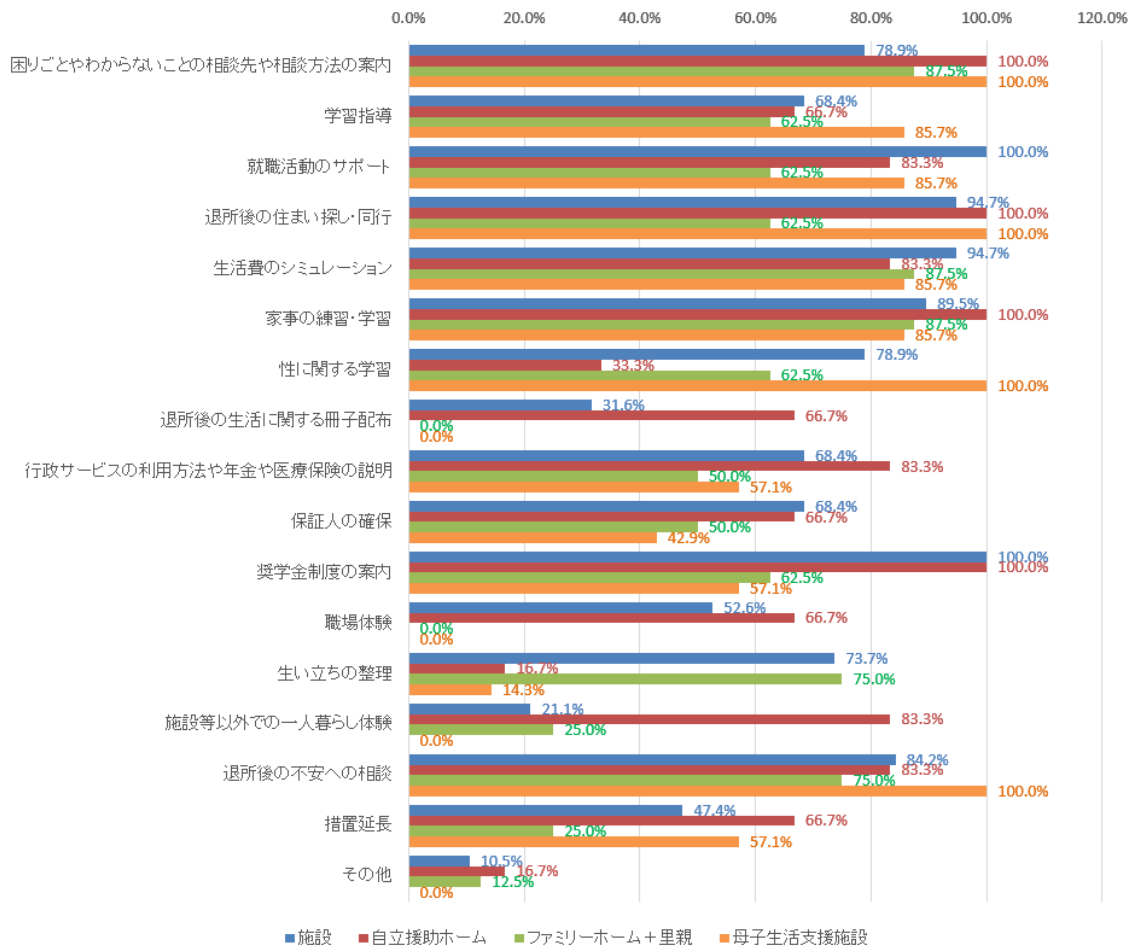
「退所後の生活に関する冊子配布」は、「施設」が 31.6%、「自立援助ホーム」が 66.7%なのに対して、「ファミリーホーム+里親」「母子生活支援施設」は 0.0%となる。

「職場体験」は、「施設」が 52.6%、「自立援助ホーム」が 66.7%なのに対して、「ファミリーホーム+里親」と「母子生活支援施設」は 0.0%となる。

「生い立ちの整理」は、「施設」が 73.7%、「ファミリーホーム+里親」が 75.0%なのに対して、「自立援助ホーム」が 16.7%、「母子生活支援施設」は 14.3%となる。

「施設等以外での一人暮らし体験」は、「自立援助ホーム」が 83.3%なのに対して、「施設」が 21.1%、「ファミリーホーム+里親」が 25.0%、「母子生活支援施設」は 0.0%となる。

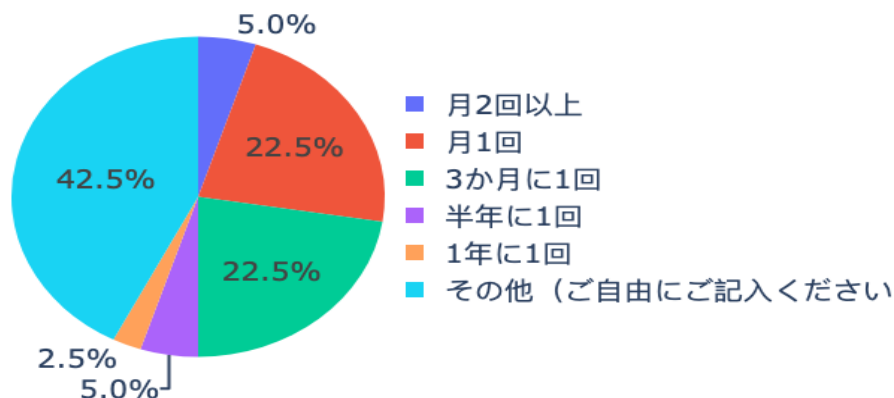
Q1-1×Q0_取り組んでいる自立支援施策×施設区分(n=40)



■施設から退所者への連絡頻度

「施設から退所者への連絡頻度」は、「月 1 回」と「3 か月に 1 回」がともに 22.5%となっており、「月 2 回以上」と「半年に 1 回」が 5.0%、「1 年に 1 回」が 2.5%となった。また最も割合が高かった「その他（42.5%）」は、「退所者によって頻度が変わる」という自由記入回答がほとんどとなっている。

Q2_貴施設の基本的な考えとして、施設から退所者への連絡は、どれくらいの頻度でやった方がいいと思いますか。もしくは「やる」と決めていますか (n=40)

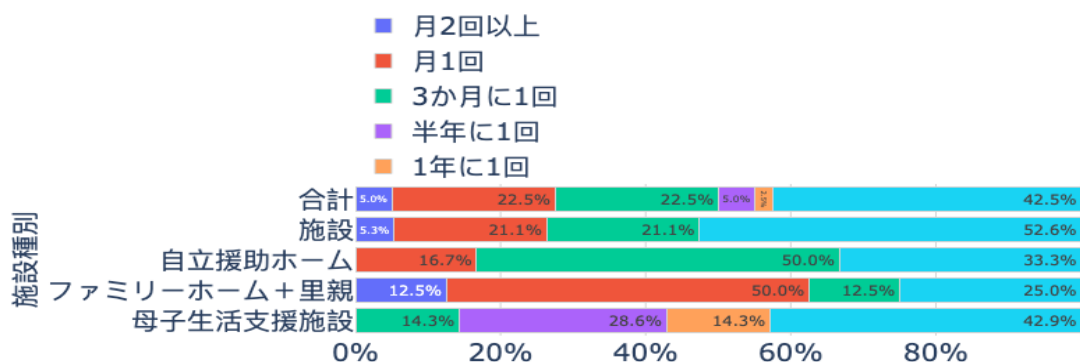


==参考 施設区分ごとの施設から退所者への連絡頻度==

「施設から退所者への連絡頻度」を施設区分でクロス集計すると、頻繁な連絡が多い施設と、頻繁な連絡をしない施設に分かれていることが分かる。

「ファミリーホーム+里親」は頻繁な連絡が多く、「月2回以上」が12.5%、「月1回」が50.0%となる。一方「母子生活支援施設」は、「月2回以上」や「月1回」の連絡はしていないことが分かる。

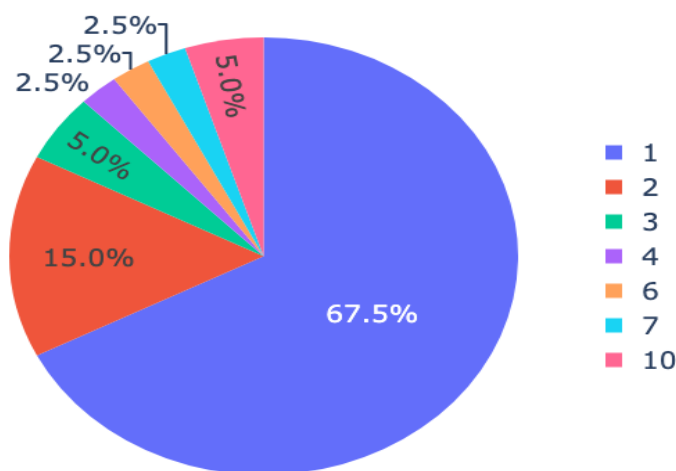
Q2×Q0_施設から退所者への連絡頻度×施設区分 (n=40)



■連絡が取れない退所者の割合

「連絡が取れない退所者の割合」は、「1割」が最も多く67.5%で、次いで「2割」が15.0%で、8割以上が「2割以下」と回答している。

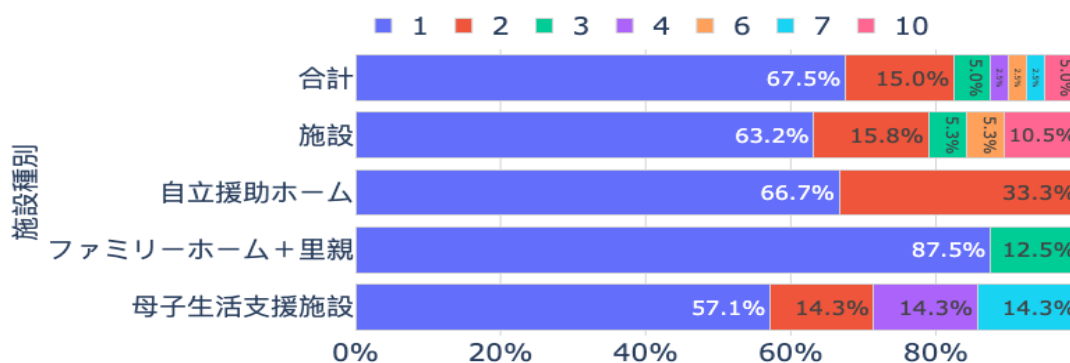
Q3-1_退所後の自立が心配なのでつながりたいのに、連絡がとれない退所者は、
今回の退所者調査の対象者のうち、何割くらいですか (n=40)



==参考 施設区分ごとの連絡が取れない退所者の割合==

「連絡が取れない退所者の割合」を施設区分でクロス集計すると、各施設「1割」と回答した割合が 63%～87%となっている。一方、「施設」では連絡が取れていない退所者が多く、「3割以上」という回答が 21.1%となる。

Q3-1×Q0_連絡が取れない退所者の割合×施設区分 (n=40)



(3) 退所者へのサポートについて

退所者へのサポートについてたずねた。

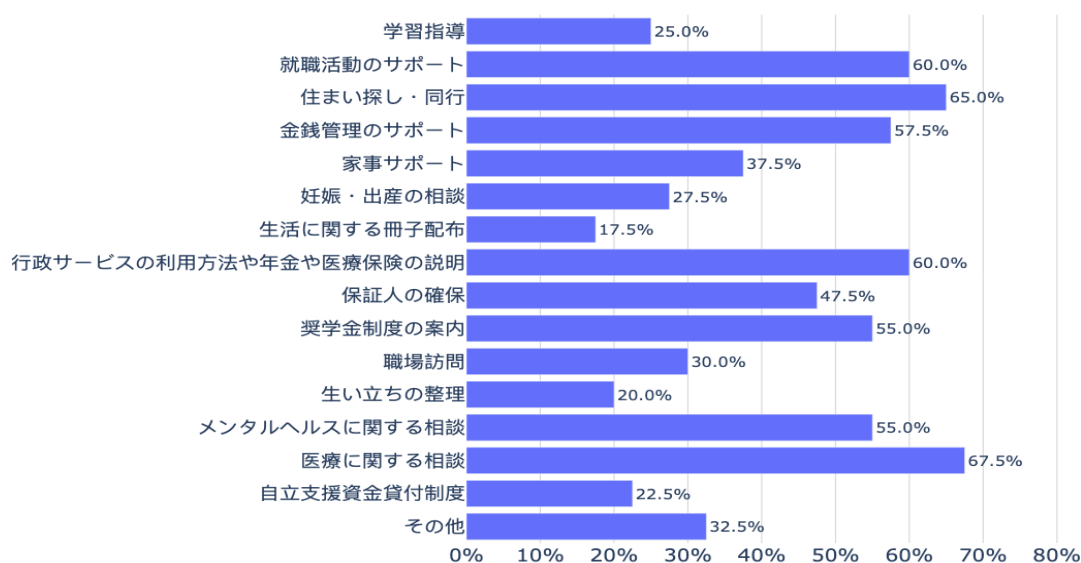
■退所者への自立支援の取り組み内容

「退所者への自立支援の取り組み内容」は、「医療に関する相談」が最も多く 67.5%で、次いで「住まい探し・同行」の 65.0%、「就職活動のサポート」と「行政サービスの利用方法

や年金や医療保険の説明」の 60.0%が続く。

一方、対応ケースが少ないものとしては、「生活に関する冊子配布（17.5%）」、「生い立ちの整理（20.0%）」、「自立支援資金貸付制度（22.5%）」や「学習指導（25.0%）」があげられる。

**Q4-1_貴施設で、退所者への自立支援について取り組んでいると思うことを
お聞かせください（当てはまるもの全て）（n=40）**



==参考 施設区分ごとの退所者への自立支援の取り組み内容==

「退所者への自立支援の取り組み内容」を施設区分でクロス集計すると、各施設で共通して対応しているもの、特定の施設のみが対応しているものが見えてくる。

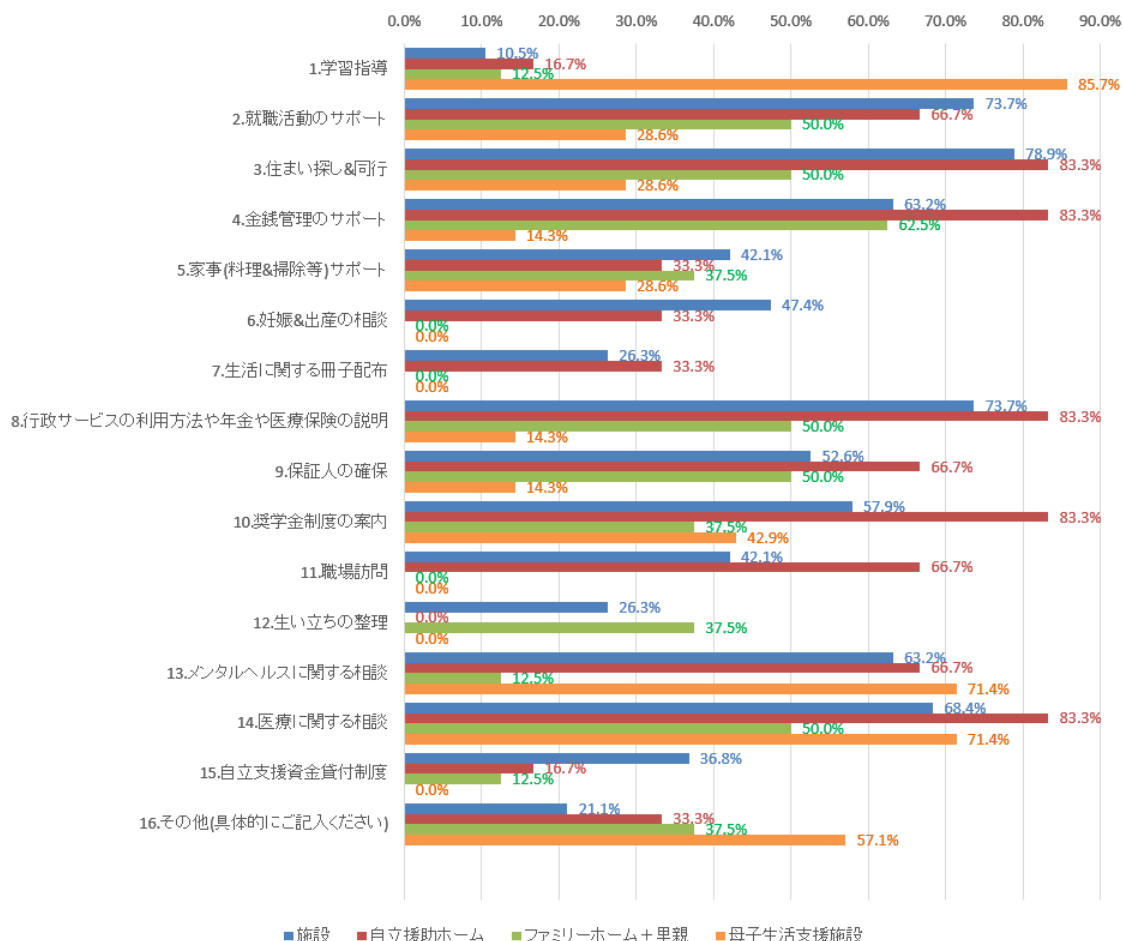
施設ごとの施策で差が出ているのは、「学習指導」、「妊娠&出産の相談」、「生活に関する冊子配布」、「行政サービスの利用方法や年金や医療保険の説明」、「保証人の確保」、「職場訪問」、「生い立ちの整理」や「自立支援資金貸付制度」など多岐にわたる。

具体的に、施設によって対応の差があるものが下記となる。

「学習指導」は、「母子生活支援施設」が 85.7%なのに対し、他施設は 10%台である。「妊娠&出産の相談」、「生活に関する冊子配布」と「職場訪問」は、「施設」と「自立援助ホーム」が 25%以上なのに対して、「ファミリーホーム+里親」と「母子生活支援施設」では 0.0%となる。「行政サービスの利用方法や年金や医療保険の説明」と「保証人の確保」は、「施設」、「自立援助ホーム」と「ファミリーホーム+里親」が 50%～83%なのに対して、「母子生活支援施設」では 14.3%となる。「生い立ちの整理」は、「施設」と「ファミリー

ホーム＋里親」がそれぞれ 26%、37%なのに対して、「自立援助ホーム」「母子生活支援施設」は 0.0%となる。「自立支援資金貸付制度」は、「施設」「自立援助ホーム」と「ファミリーホーム＋里親」では 12%～36%なのに対し、「母子生活支援施設」は 0.0%となる。

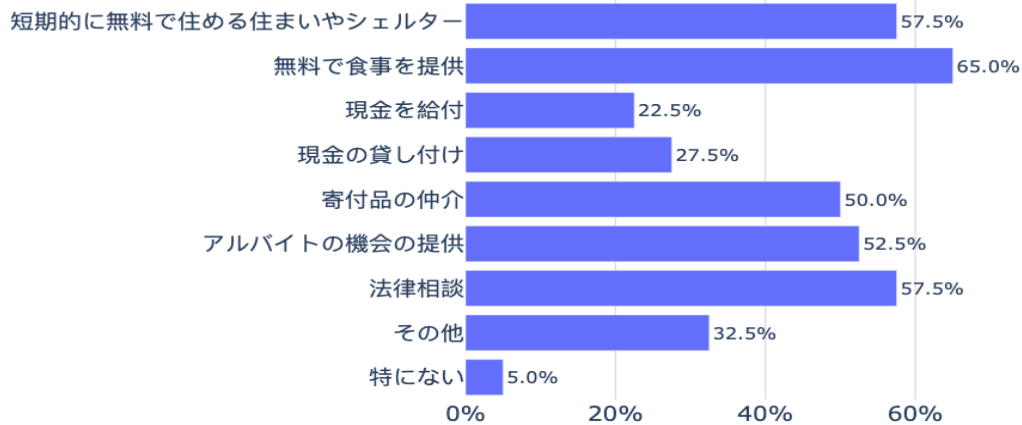
Q4-1×Q0_退所者への自立支援の取り組み内容×施設区分 (n=40)



■つながっている退所者にしたらよいと思うサポート

「つながっている退所者にしたらよいと思うサポート」は、「無料で食事を提供（65.0%）」が最も多く、次いで「短期的に無料で住める住まいやシェルター」と「法律相談」の 57.5%、「アルバイトの機会の提供」の 52.5%、「寄付品の仲介」の 50.0%が続く。食事・住まい・寄付品と共に、「法律相談」の必要性が高いと感じられているようである。一方で「現金給付（22.5%）」や「現金の貸付（27.5%）」の割合は低くなっている。

Q4-3_つながっている退所者に対して、提供したらよいと思うサポートについて
お聞かせください（当てはまるもの全て）（n=40）

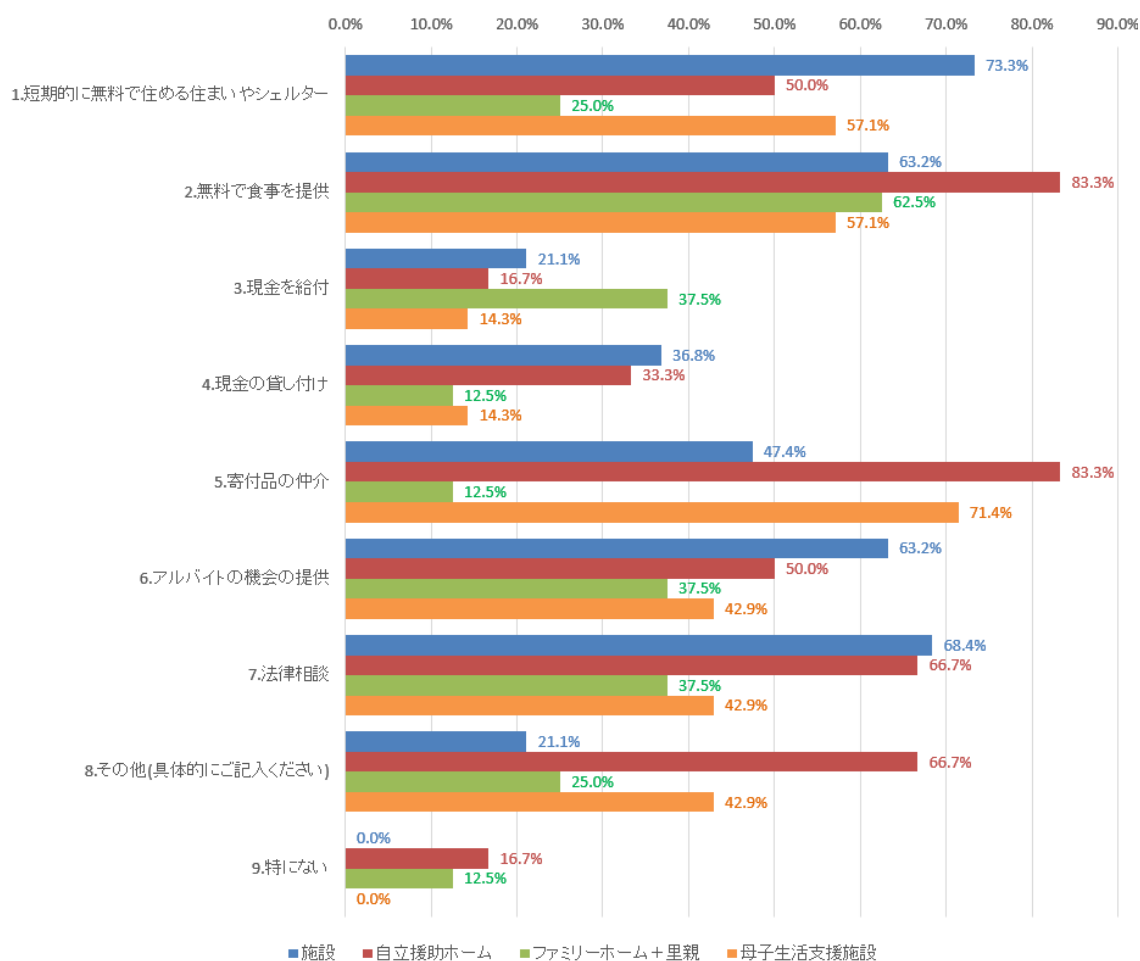


==参考 施設区分ごとのつながっている退所者にしたらよいと思うサポート==

「つながっている退所者にしたらよいと思うサポート」を施設区分でクロス集計すると、「現金を給付」と「現金の貸し付け」は、各施設とも 40%未満と低くなっていることが分かる。

施設により差があるのは、「短期的に無料で住める住まいやシェルター」と「寄付品の仲介」で、「施設」、「自立援助ホーム」と「母子生活支援施設」に比べて、「ファミリーホーム+里親」は 25%以下と低い。また、全施設で 50%を超えているのが、「無料で食事を提供」となっている。

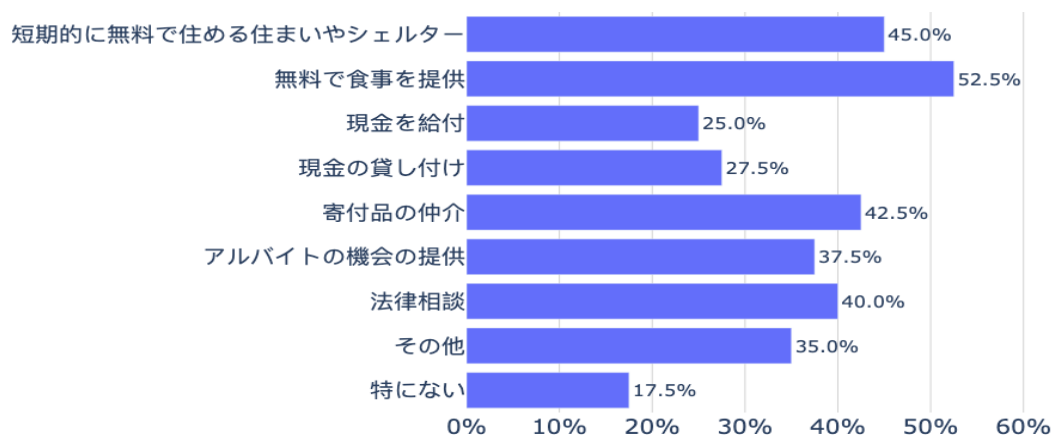
Q4-3×Q0_つながっている退所者にしたらよいと思うサポート×施設区分 (n=40)



■つながっていない退所者にしたらよいと思うサポート

「つながっていない退所者」に対しては、「無料で食事を提供」が 52.5%で最も多く、次いで「短期的に無料で住める住まいやシェルター (45.0%)」、「寄付品の仲介 (42.5%)」が続く。「特にない」は 17.5%で、つながってなくてもサポートが必要と回答している割合が8割以上となっている。

Q5-2_「つながっていない」退所者に提供したらよいと思うサポート
(当てはまるもの全て) (n=40)



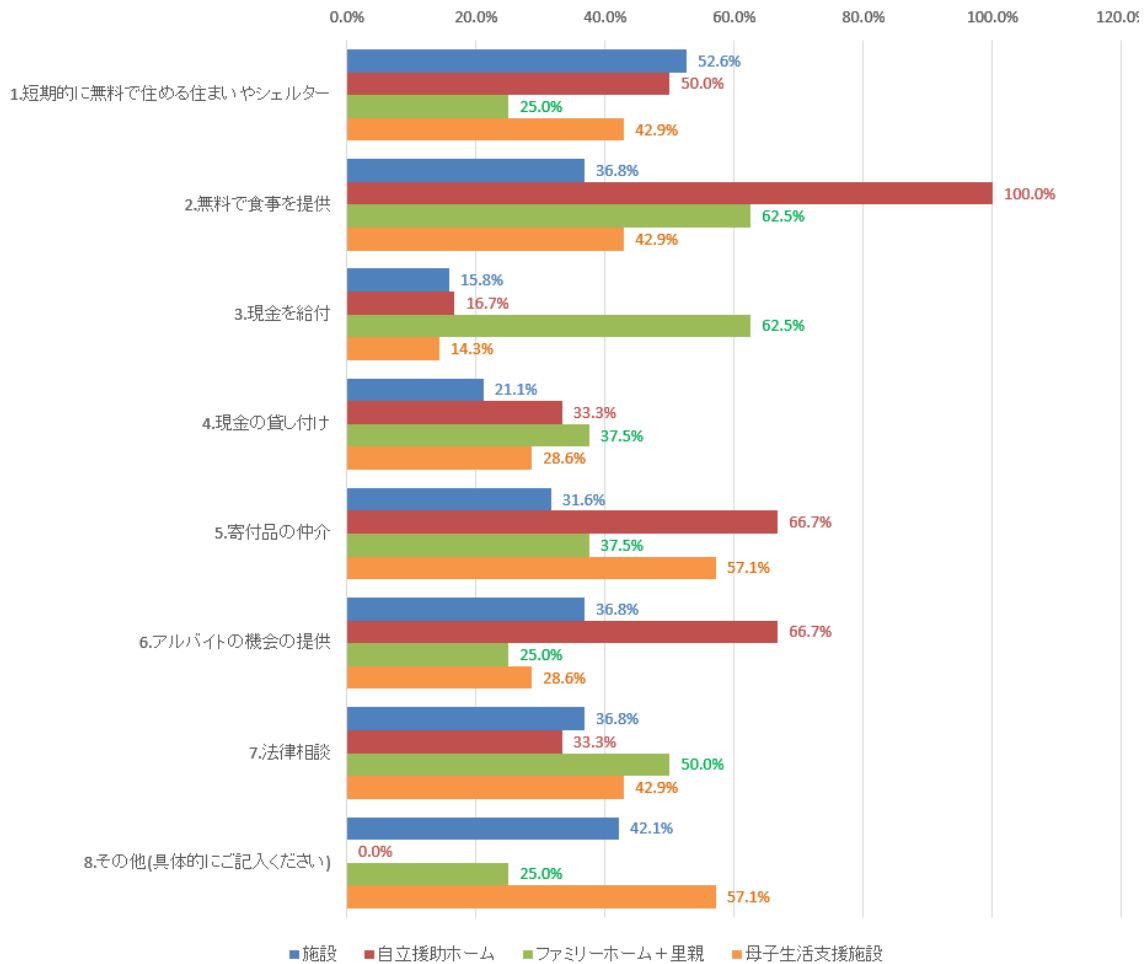
==参考 施設区分ごとのつながっていない退所者にしたらよいと思うサポート==

「つながっていない退所者にしたらよいと思うサポート」を施設区分でクロス集計すると、「現金の貸し付け」は、各施設とも低くなっている。

施設により差があるのは、「無料で食事を提供」と「アルバイトの機会の提供」である。

「無料で食事を提供」は、「自立援助ホーム」のみが 100%となっており、他の施設は 37%～62%程度となっている。「アルバイトの機会の提供」も、「自立援助ホーム」のみが 66.7%で、他の施設は 25%～37%程度と差が出ている。

Q5-2×Q0_つながっていない退所者にしたらよいと思うサポート×施設区分 (n=40)



施設調査のまとめ

以上の施設調査から分かったことを抜粋する。

【自立支援の実施状況】

・「取り組んでいる自立支援」は、「退所後の住まい探し・同行」、「生活費のシミュレーション」と「家事の練習・学習」がいずれも 90.0%で最多となる。次いで「困りごとやわからないことの相談先や相談方法の案内」と「就職活動のサポート」が 87.5%、「奨学金制度の案内」と「退所後の不安への相談」が 85.0%で続く。

・取り組んでいる割合が 50%以下となった自立支援は、「退所後の生活に関する冊子配布

(25.0%)」、「施設等以外での一人暮らし体験 (27.5%)」、「職場体験 (35.0%)」、「措置延長 (47.5%)」となった。

・「連絡が取れない退所者の割合」は、8 割以上が「2 割以下 (「1 割 (67.5%)」 + 「2 割 (15.0%)」)」という回答となった。

【退所者へのサポート】

・「退所者への自立支援の取り組み内容」については、「医療に関する相談」、「住まい探し・同行」、「就職活動のサポート」と「行政サービスの利用方法や年金や医療保険の説明」を、6 割以上の施設等が回答している。

・「つながっている退所者にしたらよいと思うサポート」は、「無料で食事を提供」、「短期的に無料で住める住まいやシェルター」、「法律相談」、「アルバイトの機会の提供」や「寄付品の仲介」が上位となる。

・「つながっていない退所者」に対しては、「無料で食事を提供」、「短期的に無料で住める住まいやシェルター」、「寄付品の仲介」が続く。

・「つながっていない退所者」でも、サポートが必要との回答が8 割以上となっている。

参考資料目次

1. 退所者調査

- ① 退所者調査 調査票
- ② 退所者調査 自由記述回答

2. 入所者調査

- ① 入所者調査 調査票
- ② 入所者 自由記述回答

3. 施設調査

- ① 施設調査 調査票
- ② 施設調査 自由記述回答

1. 退所者調査

① 調査票

【退所者調査 調査票】

◆調査実施主体について◆
このアンケートは、横浜市の依頼を受けて、ブリッジフォースマイルが実施しています。
ブリッジフォースマイルの個人情報保護方針については、こちらをご覧ください。
<https://www.b4s.jp/privacy/>

●あなたにお伝えしたいこと●
もし今困っていることがあったら
不安だけど、一人でガマンしていることがあったら
世の中には、あなたをサポートするいろいろなサービスがあります
誰かに声をかければ、そこからあなたの支援が始まります
まずは、あなたが信用できると思う人に話かけてみましょう

相談・支援情報サイトのご紹介
★ブリッジフォースマイル ★社会的養護経験者向け情報ウェブサイト
相談・支援情報 Web ページ Iris (アイリス)





★よこはま子ども・若者相談室 (LINE 相談) ★相談窓口を探すことも家訪

アンケート内容は次のページから確認してね！

【退所者調査 調査票】

横浜市の社会的養護自立支援実態把握事業
施設等退所者の生活や意識に関する調査

アンケートへのご協力をお願い

- 1) このアンケートは、あなたが入所していた横浜市内の施設または単独宅の協力を得て、お届けしています
- 2) このアンケートの目的は、あなたやあなたと同じ立場の若者への支援を充実させるためのもので、横浜市の今後の自立支援施策に役立てるものです。ぜひ、協力していただきたいのですが、協力して回答するかどうかはあなたの自由ですし、協力しなくても何の不利もありません。また、アンケートを始めたとしても答えたくない質問には答えなくても構いません。
- 3) アンケートでは、名前や住所を聞く必要はありません。また、あなたが答えた内容は、統計的に処理されるため、あなたが特定されることはありませんので、安心して回答してください。
- 4) アンケート回答にかかる時間は、15 分程度です。答え始めた場合、回答内容を途中で保存することはできませんので、最後まで答えてください。
- 5) 最後に答えてくださった方には、謝礼としてクオカード pay (1000 円分) を、あなたが指定したメールアドレスに送ります。アンケートの初めにメールアドレスの記入場がありますので、間違えないように記入してください。
もし 2 回以上回答しても、クオカード pay は 1 回しか送りませんので、ご了承ください。
- 6) 回答は、一人一回のみです。ただし、回答が 3 分の 2 以上ない場合、または嘘の回答をするなどの不正がわかった場合、謝礼はお渡しできませんので、ご了承ください。
もし 2 回以上回答した場合は、後から答えた方（新しい方）の回答のみ有効とします。

- ◆アンケートで使われている用語について◆
 - この調査では、施設や里親・ファミリーホームのことを「施設等」という言葉でまとめて表現しています。
 - 「施設等を退所した後のこと」とたずねている質問は、以前に住んでいた施設や里親・ファミリーホームを離れた後のことをお答えください。

1. あなたの基本情報について教えてください。

Q0 メールアドレスを教えてください。

▲謝礼のクオカード pay ギフト券を受け取る時に必要です！！

Q1 誕生年月を教えてください。

西暦	年	月
----	---	---

Q2-1 最後に生活した施設等を教えてください。

1. 施設（児童養護施設、児童自立支援施設、児童心理治療施設）		
2. ファミリーホーム	3. 自立援助ホーム	4. 里親
5. 母子生活支援施設	6. その他（具体的に記入ください）	

Q2-2 最後に生活していた施設等で、どのぐらいの期間を過ごしましたか。

おおよそ	年	か月間
------	---	-----

Q2-3 最後に生活していた施設等を出たのは、何歳の時ですか。

歳の時

Q3 最後に生活していた施設等を出た時、その直後の進路を教えてください。

1. 就職	2. 当時働いていた職場に引き続き就労	3. 進学
4. 当時通っていた学校に引き続き通学	5. 未定だった	
6. その他（具体的に記入ください）		

2. 仕事・学校・すまいのことについて教えてください。

Q4 現在のお仕事や学校について教えてください。（あてはまるもの全て）

1. 働いている（パート、アルバイト、日雇いも含む）		
2. 学校に通っている（オンライン授業の受講や通信制学校を含む）		
3. 「1」と「2」いずれにも当てはまらない		
4. その他（具体的に記入ください）		

Q5-1 現在、働いている人にお聞きします。

現在、どのような働き方をしていますか。（あてはまるもの全て）

1. 正社員	2. 契約社員・派遣社員	3. パート・アルバイト
4. 日雇い・期間工（数か月間などある期間だけ工場などで働くこと）	5. 自営業	
6. その他（具体的に記入ください）		

Q5-2 現在、仕事を探すための活動をしていますか。（あてはまるもの全て）

1. ハローワークを利用している	
2. サポートステーションやジョブカフェ（若者向けの就労支援相談）を利用している	
3. 施設等の恩所者を支援する団体による就労支援を利用している	
4. 自分ひとりで仕事を探している（就労情報誌や就労サイトの利用等）	
5. その他（具体的に記入ください）	7. 活動できない
6. 活動していない	

Q6-1 現在、学校に通っている人にお聞きします。

現在、どんな学校に通っていますか

1. 全日制高校	2. 定時制・通信制高校
3. 専門学校・短期大学	4. 4 年制大学
5. その他（具体的に記入ください）	

Q6-2 これまでに通っていた学校を中退または休学したことがありますか。

1. ある	2. 中退・休学したが転学・復学した
3. ない	4. 回答しない

Q6-3 学校を中退または休学した理由を教えてください。
(あてはまるもの全て)

1. 将来などを考え進路を変更するため	5. 学力不足
2. 自分に合った、通いやすいなどの理由で転学した	8. 人間関係
3. 経済的な問題	11. 結婚・出産
4. 学習意欲の低下	
6. 留年決定	7. 出席日数不足
9. 体調不良	10. メンタル不調
12. 生活リズムの乱れ	13. 回答しない
14. その他（具体的に記入ください）	

Q7 現在、どのようなところに住んでいますか。

1. 親の家	2. 親せき・祖父母・きょうだいの家
3. 民間賃貸住宅（アパート・マンション等）	
4. 公的賃貸住宅（公団・県営・市営住宅など）	
5. 持ち家（戸建・マンション等）	6. 友人の家
7. 交際中の人の家	8. 会社や学校の寮
9. 福祉施設、自立援助ホーム	10. 以前住んでいた里親の家や施設
11. その他（具体的に記入ください）	

3. 家計と健康のことについて教えてください。

Q8-1 現在、月々の収入（給料、年金、奨学金など）と

支出（生活費、学費など）はどちらが多いと感じますか。

1. 収入のほうが多い（黒字）	2. 収入と支出はほとんど同じくらい
3. 支出のほうが多い（赤字）	4. わからない

Q8-2 現在、月々の収入（給料、年金、奨学金など）以外に
貯金はありますか。

1. 貯金がある	2. 貯金がない	3. わからない
----------	----------	----------

Q8-3 現在、返す必要のある奨学金はありますか。

1. 返す必要のある奨学金がある	2. 返す必要のある奨学金がない
3. わからない	

Q8-4 現在、ローンや借金はありますか。（奨学金は除く）

1. ローン・借金がある（奨学金は除く）	2. ローン・借金はない
3. わからない	

Q8-5 ローンや借金がある方におたずねします。

ローンや借金の理由について、当てはまるものを選んでください。
(あてはまるもの全て)

1. 日常的な生活費が足りずに借金をした
2. 一時的な出費（引越しや車の購入など）があつて借金をした
3. 無駄遣い（計画性のないゲーム課金、買い食い）が多くて借金をした
4. 奨学金の返済などを優先したため借金をした
5. 金銭管理（お金の使い方）が苦手な借金をした
6. 住宅ローンを借りた
7. その他（具体的に記入ください）

Q9-1 現在の「身体」の状態として、あてはまるものを選んでください。

(あてはまるもの全て)

1. 通院している	2. 入院中である
3. 通院していないが体調が悪い	
4. 障害認定を受けている（難病を除く）	
5. 難病の指定を受けている	6. その他（具体的に記入ください）
7. あてはまるものはない	

Q9-2 現在の「心（精神）」の状態として、あてはまるものを選んでください。
(あてはまるもの全て)

1. 通院している	2. 入院中である
3. 通院していないが心（精神）の状態が悪い	
4. 障害認定を受けている	
5. 難病の指定を受けている	6. その他（具体的に記入ください）
7. あてはまるものはない	

Q10-1 過去1年間に、病院や歯医者に行きたいのに、行けなかったことがありますか。

1. なかった	2. あった
---------	--------

Q10-2 病院へ行けなかったことがあったと回答した方にお聞きします。
その理由として、あてはまるものを選んでください。

（あてはまるもの全て）		
1. お金がかかるから	2. 保険証がないから	3. 時間がないから
4. 通院等について相談できる人や付き添ってくれる人がいないから		
5. 病院やクリニックが遠いから		
6. どの病院やクリニックに行けばいいかわからないから		
7. その他（具体的に記入ください）		

4. 施設等とのかかわりについて教えてください。

Q11 施設等を出る前後で、不安なことはありましたか。

(あてはまるもの全て)

1. 学校のこと	2. 仕事のこと	3. 生活費や学費のこと
4. 手給きのこと	5. 住まいのこと	6. 借金のこと
7. 家族・親せきのこと	8. 人間関係のこと	9. 孤独感のこと
10. 健康のこと（身体）	11. 健康のこと（精神）	
12. 家事や食事のこと	13. 妊娠や出産のこと	
14. 子育てのこと	15. 将来のこと	16. その他
17. 不安なことはない	18. 覚えていない	

Q12 施設等で生活している時、自分の将来について、自分の気持ちや希望は十分に伝えられましたか。

1. よく伝えられた	2. まあ伝えられた	3. どちらとも言えない
4. あまり伝えられなかった	5. 全く伝えられなかった	

Q13 施設等で生活している時、あなたの意向や意見などは、施設職員や里親、里相の担当者から、尊重されていたと感じますか。

1. 尊重されていた	2. まあ尊重されていた	3. どちらとも言えない
4. あまり尊重されていなかった	5. 尊重されていなかった	

Q14 施設等で生活している時、自立に向けた準備（退所準備）は十分だったと思いますか。

1. 十分だった	2. まあできた	3. どちらとも言えない
4. あまりできなかった	5. 全くできなかった	

Q15 施設等で生活している時、将来の就職や進学に向けて、準備を始めたのは、いつ頃でしたか。

1. 中学2年生以前	2. 中学3年生
3. 高校1年	4. 高校2年
5. 高校3年	
6. その他（具体的に記入ください）	

※学校に通っていない場合は「その他」を選んで具体的に年齢などを記入してください

Q16 施設等で生活している時、自立の準備を始めた時期について、どのように思いますか。

1. 早かった	2. やや早かった	3. ちょうどいい
4. やや遅かった	5. 遅かった	

Q17 施設等を出る前に受けたサポートで「役に立った」と思うものを
お答えください。(あてはまるもの全て)

1. 困りごとやわからないことの相談先や相談方法の案内	4. 退所後の住まい探し・同行
2. 学習指導	3. 就職活動のサポート
5. 生活費のシミュレーション	6. 家事（料理・掃除等）の練習・学習
7. 性に関する学習	8. 退所後の生活に関する冊子配布
9. 行政サービスの利用方法や年金や医療保険の説明	12. 職場訪問
10. 保証人の確保	11. 奨学金制度の案内
13. 生い立ちの整理	14. 施設等以外での一人暮らし体験
15. 退所後の不安への相談	16. その他（具体的に記入ください）
17. わからない	

Q18-1 施設等を出る前に受けたサポートで【役に立たなかった】と思うものを
お答えください。(あてはまるもの全て)

1. 困りごとやわからないことの相談先や相談方法の案内	4. 退所後の住まい探し・同行
2. 学習指導	3. 就職活動のサポート
5. 生活費のシミュレーション	6. 家事（料理・掃除等）の練習・学習
7. 性に関する学習	8. 退所後の生活に関する冊子配布
9. 行政サービスの利用方法や年金や医療保険の説明	12. 職場訪問
10. 保証人の確保	11. 奨学金制度の案内
13. 生い立ちの整理	14. 施設等以外での一人暮らし体験
15. 退所後の不安への相談	16. その他（具体的に記入ください）
17. わからない	

Q18-2 施設等を出る前に受けたサポートで【役に立たなかった】ものがあると
答えた方にうかがいます。

役に立たなかった理由を教えてください。(自由に記入ください)

Q19 施設等を出る前のあなたへの自立支援について、
どんなサポートがあれば良かったか、考え・意見があれば教えてください。
(自由に記入ください)

Q20-1 この1年間で、施設等から、どのくらい連絡がありましたか。
※電話だけでなく、メール、SNS、対面、個別の職員からの連絡を含みます。

1. 週1回以上	2. 月に1回以上
3. 2~3か月に1回以上	4. 半年間に1回以上
5. 1年間に1回程度	6. 1年間に1回もない

Q20-2 施設等からの連絡の頻度について、どのように思いますか。

1. 多い	2. やや多い	3. ちょうどいい
4. やや少ない	5. 少ない	

Q20-3 この1年間で、あなたから施設等へ、どのくらい連絡をしましたか。
※電話だけでなく、メール、SNS、対面、個別の職員からの連絡を含みます。

1. 週1回以上	2. 月に1回以上	3. 2~3か月に1回以上
4. 半年間に1回以上	5. 1年間に1回程度	
6. 1年間に1回もない	7. 連絡は取りたくない	

5. 支援や相談について教えてください。

Q21 施設等を出た後に受けたサポートで「役に立った」と思うものを
お答えください。(あてはまるもの全て)

※行政とは、市役所、福祉事務所、保健所等のことです。

1. イベントや交流会	2. 誕生日や成人式などの祝い
3. 日常的な雑談・相談	4. 不安やトラブルなどの悩み相談
5. 学業の相談・サポート	6. 食事の提供
7. 住まいや職場への訪問	8. 住まい探し
9. 就職先探し	10. お金の借り入れ・補助
11. 金銭管理のサポート	12. 行政の窓口の紹介
13. その他（具体的に記入ください）	
14. サポートは受けていない	15. わからない

Q22-1 施設等を出た後に受けたサポートで【役に立たなかった】と思うものを
お答えください。(あてはまるもの全て)

※行政とは、市役所、福祉事務所、保健所等のことです。

1. イベントや交流会	2. 誕生日や成人式などのお祝い
3. 日常的な相談・相談	4. 不安やトラブルなどの悩み相談
5. 学業の相談・サポート	6. 食事の提供
7. 住まいや職場への訪問	8. 住まい探し
9. 就職先探し	10. お金の借り入れ・補助
11. 金銭管理のサポート	12. 行政の窓口の紹介
13. その他（具体的に記入ください）	14. わからない

Q22-2 施設等を出た後に受けたサポートで【役に立たなかった】ものがあると
答えた方にうかがいます。

役に立たなかった理由を教えてください。(自由にご記入ください)

--

Q23 施設等を出た後のあなたの自立支援について、
どんなサポートがあれば良いか、考え・意見があれば教えてください。
(自由にご記入ください)

--

Q24 現在、困っていることや不安な事、心配なことがあれば、教えてください。
(あてはまるもの全て)

1. 学校のこと	2. 仕事のこと	3. 生活費や学費のこと
4. 手続きのこと	5. 住まいのこと	6. 借金のこと
7. 家族・親せきのこと	8. 人間関係のこと	9. 孤独感のこと
10. 健康のこと（身体）	11. 健康のこと（精神）	
12. 家事や食事のこと	13. 妊娠や出産のこと	
14. 子育てのこと	15. 将来のこと	
16. その他（具体的に記入ください）	17. 不安なことはなかった	
18. わからない		

Q25 もし困ったことがあった時に、相談できる相手はいますか。
(あてはまるもの全て)

1. 施設等で生活したことのある友人	2. 施設等以外の友人	
3. ネット上の友人	4. 交際中の人（仮氏・仮女）・配偶者（結婚相手）	
5. 親	6. 交際中の人（仮氏・仮女）・配偶者（結婚相手）の親	
7. 元里親	8. きょうだい	9. 親せき・祖父母
10. 施設の（元）職員	11. 職場の人	12. 相談支援機関の人
13. 児童相談所の人	14. 学校の教員・恩師	
15. その他（具体的に記入ください）	16. 相談相手はいない	
17. 誰かに相談したいと思わない	18. わからない	

Q26 良かったこと、嬉しかったことを伝える相手はいますか。
(あてはまるもの全て)

1. 施設等で生活したことのある友人	2. 施設等以外の友人	
3. ネット上の友人	4. 交際中の人（仮氏・仮女）・配偶者（結婚相手）	
5. 親	6. 交際中の人（仮氏・仮女）・配偶者（結婚相手）の親	
7. 元里親	8. きょうだい	9. 親せき・祖父母
10. 施設の（元）職員	11. 職場の人	12. 相談支援機関の人
13. 児童相談所の人	14. 学校の教員・恩師	
15. その他（具体的に記入ください）	16. 伝える相手はいない	
17. 誰かに伝えたいと思わない	18. わからない	

Q27-1 気持ちが安らぐ場所や趣味、活動はありますか。

1. ある	2. 特にない	3. わからない
-------	---------	----------

Q27-2 気持ちが安らぐ場所や趣味があると回答した方にうかがいます。
それは具体的にどのようなものですか。(自由にご記入ください)

--

アンケートへのご協力ありがとうございました！

もし、いま、困っていることがあったら
不安だけど、一人でガマンしていることがあったら

世の中には、あなたをサポートする、いろいろなサービスがあります。誰かに声をかければ、そこからあなたへの支援が始まります。まずは、あなたが信用できると思う人に話しかけてみましょう。

◆相談・支援情報サイトのご紹介◆

[アクトフォースマイル](#) 相談・支援情報 Web ページ

[社会的養護経験者向け情報ウェブサイト Iris \(アイリス\)](#)

[よこはま子ども・若者相談室 \(LINE 相談\)](#)

[相談窓口を探す | こども家庭庁 \(こどもからいこう\)](#)

おれのクオカード pay は、今日から 2 週間以内に、あなたが最初に記入したメールアドレスへ届きます。しばらくお待ちください。

② 退所者調査 自由記述回答

※表中の略記：施設の種類 FH＝ファミリーホーム、自援＝自立援助ホーム、母子＝母子生活支援施設
※年齢：令和 6 年（2024 年）4 月時点（生年月から算出）

Q6-3 学校を中退または休学した理由

（自由回答、順不同、原文のまま）

No	施設区分	年齢	進路	属性	回答内容
1	施設	21	継続就労	保護者以外	登校拒否
2	施設	20	就職	保護者以外	少年院に行き高校に通うことが出来なくなったため
3	施設	22	就職	保護者以外	施設養護のルールで休んでいた期間があった
4	施設	22	就職	保護者以外	家庭環境が悪く、1 時保護所にいたため
5	施設	21	進学	保護者以外	大学進学費用を稼ぐため高校を中退し通信へ転学。
6	自援	23	就職	保護者以外	お金を稼げなかったから
7	FH・里親	21	その他	保護者以外	一時保護所

Q18-2 施設等を出る前に受けたサポートで役に立たなかったと答えた理由

(自由回答、順不同、原文のまま)

No	施設区分	年齢	進路	属性	回答内容
1	施設	19	その他	保護者以外	考えてくれた
2	施設	22	就職	保護者以外	読まなかった
3	施設	23	就職	保護者以外	精神的自立ができてないのに異性関係をきちんとすることは出来ない。これは当然のこと。あと、年金に関してはたんに教えてくれなかった。
4	施設	18	就職	保護者以外	元々できていたから。
5	施設	22	就職	保護者以外	相談先として頼れる大人が既にいたため
6	施設	22	進学	保護者以外	生活してみないと分からない部分がどうしてもあるから。 アルバイトがどれくらいできるか、支出がどの程度あるかなど。
7	施設	17	進学	保護者以外	そんな時間はなかった。
8	自援	19	進学	保護者以外	思った以上にお金がかかった
9	自援	19	通学継続	保護者以外	詳しく聞かなかったのであんまり分からない
10	FH・里親	21	その他	保護者以外	勝手に決められてしまった
11	母子	32	未定	保護者	施設から紹介してもらった不動産屋で『母子家庭はこの物件は無理だ』と断られた物件を、他の不動産屋(自分で連絡し見つけた仲介業者)とところで、すんなり決まった為。
12	母子	39	未定	保護者	解決しなかったため
13	その他	20	その他	保護者以外	性の知識は理解したけれど、実際にどういう変な人がいるのか全く無知であり、全ての性的な質問、誘い、これからのことにすべて真面目に答えてしまったことがあります。 当時の周りの人からは非常に心配されました。自分で身をもって「やばい」と分かってからようやく対処の仕方を身に付けました。

Q19 施設等を出る前の自立支援についてあれば良かったサポートへの考えや意見

(自由回答、順不同、原文のまま)

No	施設区分	年齢	進路	属性	回答内容
1	施設	19	その他	保護者以外	お仕事について
2	施設	22	就職	保護者以外	一緒に住む人たちとのコミュニケーションとかの相談
3	施設	19	就職	保護者以外	役に立たなかったことは、特にありませんでした
4	施設	22	就職	保護者以外	年金、生命保険などのお金関係の説明

5	施設	20	就職	保護者以外	部屋の整理
6	施設	19	就職	保護者以外	1年も働かず退職した時の手当など具体的なものの
7	施設	23	就職	保護者以外	NHKには入らなくてもいいことを教えて欲しかった
8	施設	18	就職	保護者以外	焦らずちゃんとした所に就職する支えを自分自身でもすればよかった。
9	施設	21	進学	保護者以外	今後暮らす家の家賃などこんぐらいで抑えられたら1ヶ月このぐらいの支出だとわかるものが欲しかった初めての一人暮らしで苦労したから
10	施設	19	進学	保護者以外	奨学金の書類選考について、解答のコツ(受かる文章の書き方、具体的な解答例)のようなマニュアルがあるとより良かった。
11	施設	17	進学	保護者以外	奨学金支援制度を入念に調べてくれた職員さんのサポートのおかげで、給付で大学を行けるようになったこと。
12	施設	22	進学	保護者以外	ケータイの使い方 メールの仕方
13	施設	18	通学継続	保護者以外	将来のことでの相談ができる場所があったらいいと思います
14	自援	21	通学継続	保護者以外	もっと自分の現状にあった支援をして欲しかったです
15	自援	19	通学継続	保護者以外	たくさん色々話を聞いて貰えたこと
16	自援	23	未定	保護者以外	措置が切れたあとの具体的な将来の計画、児童相談所の担当者への自分の意見を代弁すること
17	自援	18	未定	保護者以外	職員は児童の意見をもっと聞き、対応すべき
18	FH・里親	21	その他	保護者以外	まず、どうしたいか希望を聞いて欲しかった
19	母子	35	その他	保護者	入所の時に「退所される方は大体2年くらいで退所しています。」と言われましたが金銭面も生活面でも不安があったのもう少し分かりやすく一緒に何時までに退所をするか目処をつけしっかり話し合いながら計画をたて目標を立てて貯金もしながら退所したかった。
20	母子	55	継続就労	保護者	充分なサポートを受けていたので、あれば良かったと思うのは、職員の方ともっとゆっくり話せる時間くらいです。
21	母子	51	継続就労	保護者	母子寮で生活して居る人が皆、生保を受けて居る定での情報しか無い為、自分で色々調べるしか無かった。生保、非課税世帯には国からの恩恵があるが、課税対象だと高校での控除など違う事なども解っての情報、生活の情報も知っていて貰いたかった。
22	母子	25	就職	保護者	じゅうぶんサポートしていただきました。

23	母子	31	就職	保護者	引越しの手続き
24	母子	36	通学継続	保護者	仕事してる人の気持ちを考えながらの接し方が、出来てなかった。仕事をしてない人だけに、スタッフは優しすぎて甘やかしていた
25	母子	32	未定	保護者	特にない。そっと見守っていて欲しい。
26	母子	49	未定	保護者	退所と父親の死去が重なったのでそちらのほうで忙しかった。
27	母子	39	未定	保護者	先の見通しが立てられるように情報を整理してから退所したかった
28	その他	20	その他	保護者以外	すぐく基本的なことです、変な人にはついて行かないとか犯罪に対する知識 また若い人が多いのでインターネット、SNSの危険性も必須だと思います。 私の施設はスマホインターネット全禁止だったので、そこの知識のない子が非常に多いです。 YouTube と TikTok って何？から始まる子もいます。心配です また食材の買い方とか、調理のガスとかの使い方とかも知っておきたいです。 (あくまで私の体験上)

Q22-2 施設等を出た後に受けたサポートで役に立たなかったと答えた理由

(自由回答、順不同、原文のまま)

No	施設区分	年齢	進路	属性	回答内容
1	母子	44	継続就労	保護者	子供のことの相談、子供食堂
2	母子	49	未定	保護者	横浜市の施設から現在、東京都なので行政に違いがある。
3	母子	17	その他	保護者以外	サポートは受けていない

Q23 施設等を出た後の自立支援についてあれば良かったサポートへの考えや意見

(自由回答、順不同、原文のまま)

No	施設区分	年齢	進路	属性	回答内容
1	施設	19	その他	保護者以外	バイトしたい
2	施設	22	就職	保護者以外	みんなでなにか一緒にできるイベントがあったらいいなと思います
3	施設	22	就職	保護者以外	月1の面談があればいいと思う もしくは半年後に振り返りの面談があれば自分の行動を見つめ直す機会になる 第三者と話すことで気持ちの整理、行動の振り返り、今後に向けた対策を練れると思う

4	施設	22	進学	保護者以外	施設を出て急に1人で全部こなさなくてはならない感覚が誰にでもあると思うから、例えば、職員からの定期的な連絡や、会ってご飯と一緒にに行く機会が年に数回でもあれば、孤独感が薄れて精神的にも安定する人も多いと思う。
5	施設	21	進学	保護者以外	金銭管理、相談、3ヶ月に一回ぐらいで良いので食品を送ってくれるなど
6	施設	19	進学	保護者以外	賃貸の選び方
7	施設	19	進学	保護者以外	私の出身施設は公立なので難しいとは思いますが、住まいへの訪問や交流会があると良い。自分から(自主的に)アポを取ることで職員さんと会うことはできるが、それ以外の支援が少ないと思う。
8	施設	17	進学	保護者以外	正直わかりません。どうせ法人だから、職員だから、と、諦めがあります。頼りにくい。
9	施設	18	通学継続	保護者以外	もっといろんなサポートが増えればいいと思います
10	自援	21	通学継続	保護者以外	自分の生活見て欲しい、どうでもいいイベントするより生活助けて欲しかった
11	自援	23	未定	保護者以外	入居中の子どもたちの対応に追われていて、相談できなかった。相談したとしても、退所後はそういうのやってない?…という感じで返されてしまった。
12	FH・里親	21	その他	保護者以外	夜間でも相談できる場所が欲しい
13	母子	55	継続就労	保護者	声を挙げられない子供は沢山います。出せない声を助けてくれるサポートがもっと増えていく事を願います。 また、18歳を過ぎるとサポートが少なくなるけど、声をあげられない子供の世界はとても狭いです。その環境をもっと理解する大人が増えることを望みます。
14	母子	33	就職	保護者	子供たちも施設の子達に会いたいけど、入所時は気軽に遊べてたのに入所者限定の施設イベントとかもあってあまり遊べなかったりしたのでそこをもう少し緩和して欲しい
15	母子	25	就職	保護者	じゅうぶんサポートいただいています。
16	母子	31	就職	保護者	施設のイベントなど招待していただきました。悩みの相談など
17	母子	36	通学継続	保護者	関わりたくないなので、何也没有什么ありません。
18	母子	49	未定	保護者	忙しいかも、と思うと電話しにくいのでラインやメールで気軽に話せたらいいなと思ったことがあります。

19	母子	39	未定	保護者	ある程度安定するまで定期的に訪問してもらえたら良かった
----	----	----	----	-----	-----------------------------

Q27-2 気持ちが安らぐ場所や趣味

(自由回答、順不同、原文のまま)

No	施設区分	年齢	進路	属性	回答内容
1	施設	19	その他	保護者以外	自分の部屋、ネットカフェ
2	施設	22	就職	保護者以外	自分の好きなことをしている時間
3	施設	23	就職	保護者以外	おかし
4	施設	24	就職	保護者以外	水泳、スノーボード
5	施設	23	就職	保護者以外	家にいると気持ちが安らぐ
6	施設	19	就職	保護者以外	散歩
7	施設	22	就職	保護者以外	インターネットや一人の時間
8	施設	22	就職	保護者以外	アニメや自分の好きな作品のイベントに行くこと
9	施設	20	就職	保護者以外	音楽を聞く
10	施設	22	就職	保護者以外	体を動かせる場所、好きなアーティストのライブに行くこと、温泉、自然に触れられるところに行く、友達と遊ぶ
11	施設	18	就職	保護者以外	音楽聴いたり奏でたり、ゲームしたり、誰かと話したり
12	施設	22	進学	保護者以外	自分の家 友達やアルバイト先の職員との飲み会 音楽を聴く sns 上の友達とのゲーム
13	施設	20	進学	保護者以外	家
14	施設	19	進学	保護者以外	サウナ
15	施設	18	進学	保護者以外	音楽聴きながら散歩をする。 旅行に行く
16	施設	19	進学	保護者以外	具体的な場所は学校や友人と遊ぶ場など。趣味は読書や執筆、野球観戦、旅行。
17	施設	19	進学	保護者以外	1人になれる場所がある事。 好きな事をやっている時など。
18	施設	23	進学	保護者以外	好きなアイドルの動画を見る
19	施設	20	通学継続	保護者以外	マンガを読む。寝る
20	施設	18	通学継続	保護者以外	公園で散歩したり、友達と遊んだり動画をみたりする。
21	施設	18	通学継続	保護者以外	推しです！
22	施設	18	未定	保護者以外	友達といる時。
23	自援	19	就職	保護者以外	家でゆっくりすること
24	自援	21	就職	保護者以外	カードゲームとそれをする友達との時間

25	自援	20	就職	保護者以外	旅行や食事、散歩など多岐にあります。
26	自援	19	進学	保護者以外	大好きな麻雀
27	自援	19	通学継続	保護者以外	友達といる時。自分の居場所は外にある
28	自援	23	未定	保護者以外	安らぐのは大人が相手をしてくれることです。 周りの人が自分のことを見てくれていると感じ 安心します。 安らぐ趣味はアロマやマッサージ（整体・鍼 灸）です。 スポーツも好きです。主に野球、テニス、筋トレ などです。
29	自援	18	未定	保護者以外	恋人と一緒に居る、一緒にの時間を過ごす
30	FH・里親	21	就職	保護者以外	ゲームやネット上で話せる人との時間が何より 安心出来る場所です
31	FH・里親	21	進学	保護者以外	家で気が済むまで寝たり、のんびりすること。1 人カラオケ等
32	母子	31	その他	保護者	好きなアーティスト
33	母子	51	継続就労	保護者	元施設や、家は勿論、趣味は、英語のアプリや 今ペップトークについて勉強していて、気がま ぎらうし、勉強にもなるので、やって楽し い。
34	母子	40	継続就労	保護者	仕事をしてる時、カフェに行った時
35	母子	55	継続就労	保護者	家族のいる自宅
36	母子	31	継続就労	保護者	子供達と出掛けること 支度や実家
37	母子	51	継続就労	保護者	家
38	母子	38	継続就労	保護者	習い事、家にいること
39	母子	51	継続就労	保護者	美味しいものを食べに行く
40	母子	39	継続就労	保護者	自宅 実家 テレビゲーム
41	母子	25	就職	保護者	ネイルをする、寝る、SNS
42	母子	37	就職	保護者	歌を歌ったり絵を描いたりです。
43	母子	32	就職	保護者	音楽や映画
44	母子	29	就職	保護者	家
45	母子	49	通学継続	保護者	編み物
46	母子	36	通学継続	保護者	持ち家
47	母子	32	未定	保護者	小物製作
48	母子	49	未定	保護者	外出が苦手なので家でできる手芸、編み物、絵 画など。 今はそれが仕事にも繋がっているので仕事も楽 しくやっている。
49	母子	17	その他	保護者以外	お絵かき

50	母子	17	その他	保護者以外	家で家族と一緒にいるときや絵を描いているとき
51	母子	18	進学	保護者以外	ドライブとか自然の触れること
52	母子	21	通学継続	保護者以外	お絵描き，ゲーム，学校，芸術鑑賞
53	母子	17	通学継続	保護者以外	家、学校
54	母子	16	通学継続	保護者以外	学校
55	母子	18	通学継続	保護者以外	家
56	母子	16	未定	保護者以外	家 音楽を聴いたり、テレビを見ること
57	その他	20	その他	保護者以外	ぬい（ぬいぐるみ）と暮らすこと（又はぬい活） 親と関わりを切った後から急に好きになりました。

2. 入所者調査

① 入所者調査 調査票

【入所者調査 調査票】

1. あなたの現在のことについて教えてください。

Q1 誕生年月を教えてください。

西暦	年	月
----	---	---

Q2 現在、生活している施設等を教えてください。

1. 施設（児童養護施設、児童自立支援施設、児童心理治療施設） 2. ファミリーホーム 3. 自立援助ホーム 4. 里親 5. 母子生活支援施設 6. その他（具体的に記入ください）
--

Q3 施設等で生活している期間は、どのくらいになりますか。

※今の施設とは別の施設での生活や里親家庭での生活もすべて含む

おおよそ	年	か月間
------	---	-----

Q4-1 現在の「身体」の状態として、あてはまるものを選んでください。

（あてはまるもの全て）

1. 通院している 2. 入院中である 3. 通院していないが体調が悪い 4. 障害認定を受けている（難病を除く） 5. 難病の指定を受けている 6. その他（具体的に記入ください） 7. あてはまるものはない

Q4-2 現在の「心（精神）」の状態として、あてはまるものを選んでください。

（あてはまるもの全て）

1. 通院している 2. 入院中である 3. 通院していないが体調が悪い 4. 障害認定を受けている（難病を除く） 5. 難病の指定を受けている 6. その他（具体的に記入ください） 7. あてはまるものはない

【入所者調査 調査票】

横浜市の社会的養護自立支援実態把握事業
施設等入所者の生活や意識に関する調査

アンケートへのご協力をお願い

- 1) このアンケートの目的は、あなたやあなたと同じ立場の若者への支援を充実させるためのもので、横浜市の今後の自立支援施策に役立てるものです。ぜひ、協力していただきたいのですが、協力して回答するかどうかはあなたの自由です。協力しなくても何の不利ともありません。また、アンケートを始めたとしても答えたくない質問には答えなくても構いません。
- 2) アンケートでは、名前や住所を書く必要はありません。また、あなたが答えた内容は、統計的に処理されるため、あなたが特定されることはありませんので、安心して回答してください。
- 3) アンケート回答にかかる時間は、10分程度です。答え始めた場合、回答内容を途中で保存することはできませんので、最後まで答えてください。
- 4) アンケートに最後まで回答したら、施設の職員さんや里親さんに回答したことを伝えてください。謝礼のクオカードは、あなたが入所している施設や里親さんから12月末までに届きます。
- 5) 回答は、一人一回のみです。ただし、回答が3分の2以上ない場合、または嫌の回答をするなどの不正がわかった場合、謝礼はお渡しできませんので、ご了承ください。
- 6) このアンケートは、横浜市の依頼を受けて、ブリッジフォースマイルが実施しています。ブリッジフォースマイルの個人情報保護方針については、こちらをご覧ください。
<https://www.b4s.jp/privacy/>

◆アンケートで使われている用語について◆

- この調査では、施設や里親・ファミリーホームのことを「施設等」という言葉でまとめて表現しています。

Q5-1 どんな学校に通っていますか。

1. 全日制高校	2. 定時制・通信制高校
3. 専門学校・短期大学	4. 4 年制大学
5. 特別支援学校	6. 職業訓練校
7. その他（具体的に記入ください）	8. 学校に通っていない

Q5-2 今通っている学校は、あと何年で卒業する予定ですか

1. 1 年未満	2. 2 年未満	3. 3 年未満
4. 4 年未満	5. 5 年以上	6. その他（具体的に記入ください）

Q6 今後（現在通っている学校を卒業した後）の進路を教えてください。

※現在学校に通っていない人は、今後の予定を教えてください

1. 就職	2. 進学
3. 未定	4. その他（具体的に記入ください）

2. 将来のことについて教えてください。

Q7 将来（施設等を離れるにあたって）不安なことはありますか。

（あてはまるもの全て）

1. 学校のこと	2. 仕事のこと	3. 生活費や学費のこと
4. 手続きのこと	5. 住まいのこと	6. 借金のこと
7. 家族・親戚のこと	8. 人間関係のこと	9. 孤独感のこと
10. 健康のこと（身体）	11. 健康のこと（精神）	12. 家事や食事のこと
13. 妊娠や出産のこと	14. 子育てのこと	15. 将来のこと
16. その他	17. 不安はない	18. わからない

Q8-1～6 について、どのように感じていますか

Q8-1 自分がどのくらいお金を持っているか、把握できていますか。

1. できている	2. まあできている	3. どちらとも言えない
4. あまりできていない	5. できていない	

Q8-2 将来、自分が働いているイメージができますか。

1. できている	2. まあできている	3. どちらとも言えない
4. あまりできていない	5. できていない	

Q8-3 自分自身で生活・生計を立てていくイメージができますか。

1. できている	2. まあできている	3. どちらとも言えない
4. あまりできていない	5. できていない	

Q8-4 社会人としてのマナーは身につけていると思いますか。

1. できている	2. まあできている	3. どちらとも言えない
4. あまりできていない	5. できていない	

Q8-5 わからないことがあった時は、必要な情報を調べることができますか。

1. できている	2. まあできている	3. どちらとも言えない
4. あまりできていない	5. できていない	

Q8-6 自分の将来について、希望が持てますか。

1. 希望がもてる	2. まあ希望が持てる	3. どちらとも言えない
4. あまり希望は持てない	5. 希望が持てない	

3. 自立のことについて教えてください。

Q9-1 将来の就職や大学等への進学に向けて、準備を始めたのは、いつ頃ですか。

1. 中学 2 年生以前	2. 中学 3 年年	
3. 高校 1 年	4. 高校 2 年	5. 高校 3 年
6. その他（具体的に記入ください）	7. まだ準備を始めていない	

Q9-2 自立の準備を始めた時期について、どのように思いますか。

1. 早かった	2. やや早かった	3. ちょうどいい
4. やや遅かった	5. 遅かった	

Q10 施設で受けている説明やサポートで、将来に向けて「役に立つ」と思うものを教えてください。（あてはまるものを全て）

1. 困りごとやわからないことの相談先や相談方法の案内	4. 退所後の住まい探し・同行
2. 学習指導	3. 就職活動のサポート
5. 生活費のシミュレーション	6. 家事（料理・掃除等）の練習・学習
7. 性に関する学習	8. 退所後の生活に関する冊子配布
9. 行政サービスの利用方法や年金や医療保険の説明	12. 職場訪問
10. 保証人の確保	11. 奨学金制度の案内
13. 生い立ちの整理	14. 施設等以外での一人暮らし体験
15. 退所後の不安への相談	16. 措置延長
17. その他（具体的に記入ください）	18. わからない

Q11-1 施設で受けている説明やサポートで、将来に向けて【役に立たない】と思うものを教えてください。（あてはまるものを全て）

1. 困りごとやわからないことの相談先や相談方法の案内	4. 退所後の住まい探し・同行
2. 学習指導	3. 就職活動のサポート
5. 生活費のシミュレーション	6. 家事（料理・掃除等）の練習・学習
7. 性に関する学習	8. 退所後の生活に関する冊子配布
9. 行政サービスの利用方法や年金や医療保険の説明	12. 職場訪問
10. 保証人の確保	11. 奨学金制度の案内
13. 生い立ちの整理	14. 施設等以外での一人暮らし体験
15. 退所後の不安への相談	16. 措置延長
17. その他（具体的に記入ください）	18. わからない

Q11-2 施設で受けている説明やサポートで【役に立たない】ものがあると答えた方にうかがいます。

役に立たないと思う理由を教えてください

Q12 あなたへの自立支援について、どんなサポートがあると良いか、考え・意見があれば教えてください。

4. 人とのつながりについて教えてください。

Q13-1 自分の将来について、自分の気持ちや希望は十分に伝えられていますか。

1. よく伝えている	2. まあ伝えている	3. どちらとも言えない
4. あまり伝えられない	5. 全く伝えられない	

Q13-2 あなたの意向や意見などは、施設職員や里親、見相の担当者から、尊重されていると感じますか

1. 尊重されている	2. まあ尊重されている	3. どちらとも言えない
4. あまり尊重されていない	5. 尊重されていない	

Q14 施設職員や里親、見相の担当者は信頼できていると思いますか。

1. 十分に信頼できる	2. まあ信頼できる	3. どちらとも言えない
4. あまり信頼できない	5. 全く信頼できない	

Q15-1 将来、施設等からどのくらいの連絡をして欲しいと思いますか。

※電話だけでなく、メール、SNS、対面、個別の職員からの連絡も含みます。

1. 週 1 回以上	2. 月に 1 回以上
3. 2～3 か月に 1 回以上	4. 半年間に 1 回以上
5. 1 年間に 1 回程度	6. 1 年間に 1 回以下

Q15-2 将来、あなたから施設等へ、どのくらいの連絡を取りたいと思いますか。

※電話だけでなく、メール、SNS、対面、個別の職員からの連絡も含みます。

1. 週 1 回以上	2. 月に 1 回以上	3. 2～3 か月に 1 回以上
4. 半年間に 1 回以上	5. 1 年間に 1 回程度	
6. 1 年間に 1 回以下	7. 連絡は取りたくない	

5. 支援と相談について教えてください。

Q16 施設等を出た後で、どのようなサポートを受けたいと思いますか。
(あてはまるもの全て)

※行政とは、市役所、福祉事務所、保健所等のことです。

1. イベントや交流会	2. 誕生日や成人式などのお祝い
3. 日帰的な相談・相談	4. 不安やトラブルなどの悩み相談
5. 学業の相談・サポート	6. 食事の提供
7. 住まいや職場への訪問	8. 住まい探し
9. 就職先探し	10. お金の借り入れ・補助
11. 金銭管理のサポート	12. 行政の窓口の紹介
13. その他（具体的に記入ください）	
14. サポートは必要ない	15. わからない

Q17 もし困ったことがあった時に、相談できる相手はいますか。
(あてはまるもの全て)

1. 施設の中での友人	2. 施設等以外の友人	3. ネット上の友人
4. 施設職員・里親（元職員・元里親も含む）		
5. 兄弟相談所の人	6. 相談支援機関の人	
7. 親	8. きょうだい	9. 親せき・祖父母
10. 学校の先生	11. 職場の人	
12. その他（具体的に記入ください）	13. 相談相手はいない	
14. 誰かに相談したいと思わない	15. わからない	

Q18 良かったこと、楽しかったことを伝える相手はいますか。
(あてはまるもの全て)

1. 施設の中での友人	2. 施設等以外の友人	3. ネット上の友人
4. 施設職員・里親（元職員・元里親も含む）		
5. 兄弟相談所の人	6. 相談支援機関の人	
7. 親	8. きょうだい	9. 親せき・祖父母
10. 学校の先生	11. 職場の人	
12. その他（具体的に記入ください）	13. 相談相手はいない	
14. 誰かに伝えたいと思わない	15. わからない	

Q19-1 気持ちが安らぐ場所や趣味、活動はありますか。

1. ある	2. 特になし	3. わからない
-------	---------	----------

Q19-2 気持ちが安らぐ場所や趣味があると回答した方にかかいます。
それは具体的にどのようなものですか。(自由にご記入ください)

--

アンケートへのご協力ありがとうございました！

アンケート調査の結果は、横浜市のホームページで公表される予定です。
アンケートに最後まで回答したことを、施設の職員さんや里親さんに伝えてください。謝礼のクオカードは、あなたが入所している施設や里親さんから12月末までに届きます。

② 入所者調査 自由記述回答

※表中の略記：施設の種類 FH＝ファミリーホーム、自援＝自立援助ホーム、母子＝母子生活支援施設

※年齢：令和6年（2024年）4月時点（生年月から算出）

Q11_2_施設等で受けているサポートで役に立たないと答えた理由

（自由回答、順不同、原文のまま）

No	施設区分	年齢	進路	属性	回答内容
1	施設	17	就職	保護者以外	ネットがない上外出する機会もあまり無いため通常の生活やマナーがあまりわからない
2	施設	18	就職	保護者以外	自分の求めていた回答ではなかった為
3	施設	16	就職	保護者以外	私はそーゆー専門大学みたいなやつには行きません！それに、それに、性に関しては一通り習っています。
4	施設	16	就職	保護者以外	過去の生い立ちと将来は関係ないと思うから。
5	施設	18	就職	保護者以外	施設のこと、自分の都合のいいことしか職員は教えてくれない
6	施設	17	進学	保護者以外	説明やサポートを受けていない
7	施設	18	進学	保護者以外	自分自身に関してはあまり興味がなく意味を感じなかった
8	施設	14	進学	保護者以外	説明の内容を理解出来てない人が多いから。
9	自援	19	進学	保護者以外	受験生なのに施設で学習時間を設定されるのは意味不明だから。
10	FH・里親	16	進学	保護者以外	役に立たないというより、そもそも存在しなかった気がするからです。
11	母子	39	その他	保護者	まだその話を聞いてない。

Q12_自立支援についてあると良いサポートへの考えや意見

（自由回答、順不同、原文のまま）

No	施設区分	年齢	進路	属性	回答内容
1	施設	16	就職	保護者以外	就職関連
2	施設	17	就職	保護者以外	お金の管理のサポート
3	施設	14	進学	保護者以外	いまの施設は全力でサポートしてくれるからいいと思うし頼りになるので今のままでいいと思う
4	施設	16	進学	保護者以外	大学等の学費だけではなく設備費等の金銭の援助。（自分の行きたい大学は学費より設備費が高かったから）

5	施設	16	進学	保護者以外	学校に配布されるような大学のチラシやパンフレットを施設にも届けて欲しい
6	施設	17	進学	保護者以外	お金の事 これから使うお金の具体的な紹介
7	施設	14	進学	保護者以外	もっと一人暮らしのサポートがあると良いと思う。
8	施設	18	進学	保護者以外	保険について
9	施設	14	未定	保護者以外	第三者委員さんにもっと多く来てもらう。
10	施設	18	未定	保護者以外	お金を貢いでくれる人
11	施設	17	未定	保護者以外	高校生からだけでなく中学生ぐらいから自立に必要な知識を教えてもらえる機会があれば慌てる事なく将来の見通しが出来ると思います。
12	施設	16	未定	保護者以外	高校三年生から将来のことを考えるより、もっと前にできるだけ早いうちから将来絵の準備を進めたほうが良いと思う
13	施設	14	未定	保護者以外	安心して成長する機会をいただける環境がほしいです。
14	自援	19	進学	保護者以外	自由に勉強できる時間と環境
15	自援	19	未定	保護者以外	今のままでいい
16	FH・里親	16	進学	保護者以外	相談だけじゃない心のケアがあって良いかなと思います。
17	母子	39	その他	保護者	一緒に内見に行って契約を交わすところまでサポートがあると安心
18	母子	39	その他	保護者	職員からしたら保護する家族の1つだが、それぞれの形がある。その形にあったサポートがほしい。 行動範囲、スマホ等、決まり事は大切だけど、1人の人間として必要な情報、生活を考えてほしい。 でもそれには1人の人間としての価値観も大事。それを踏まえての決まり事を作ってほしい。 あと、もっと職員が必要。人材不足を早く解消すべき。 頼りたい。話したい。でも職員がいない。 手が離せない。では困ります。
19	母子	41	その他	保護者	自分の本音を話せる、気持ちに寄り添ってくれる人、場所が欲しい。
20	母子	45	就職	保護者	心お気なく、話し合いが出来る環境作り。
21	母子	38	就職	保護者	子供の保育などのサポート

22	母子	39	就職	保護者	・退所するにあたって、退所の時期も自分で決めた。 ・支援学校の見学は付き添ってもらってすごく良かった 時間があれば、もっと一緒に他の学校も見に行きたかった。 ・退所までの長期間の見通しがいたりきたりで、一応決めるがその時の状況でいいなど…見通しがやスケジュール感が曖昧だった。 帯グラフシュミレーションなどがあると良いかな。
23	母子	42	就職	保護者	入所から退所までの大まかな流れの説明や、決まり事などを事前に説明またはパンフレットなどでの説明をしてほしい。
24	母子	36	進学	保護者	就労や自立サポートなどの案内も区役所から提案されましたが、ドクターストップがかかりました。直接区役所に質問したい件などあっても施設の方が体調を気にして意見交換がうまくいかない時期もありました。 お忙しいのは承知ですが、もう少しワーカーさんと自身とのこまめな連携を直接取れると何事にもスムーズなのになと感じることがあります。
25	母子	46	未定	保護者	話を聞いてくれる
26	母子	46	未定	保護者	現在、複数の病気を抱えてる中で今の私に最適な声掛けや関わり方が望ましいです。
27	母子	30	未定	保護者	仕事と住むところを考える
28	母子	50	未定	保護者	全てして貰えた。必要な人に施設を知って貰いたい。

Q19-2_気持ちが安らぐ場所や趣味

(自由回答、順不同、原文のまま)

No	施設区分	年齢	進路	属性	回答内容
1	施設	28	その他	保護者以外	音楽を聴くこと
2	施設	17	就職	保護者以外	将来のための勉強
3	施設	17	就職	保護者以外	バスケ、スポーツ、音楽聴くこと
4	施設	17	就職	保護者以外	テレビを見ること
5	施設	18	就職	保護者以外	カードゲーム等

6	施設	18	就職	保護者以外	3DCAD ソフト (SOLID WORKS) で機械設計をしたりして遊んだり、CNC 制御装置をいじったり、機械加工をすることが趣味です。物理学、特に流体力学などを学ぶ時間がとても安らぎます。
7	施設	17	就職	保護者以外	ゲーム
8	施設	16	就職	保護者以外	推し活。寝ること
9	施設	16	就職	保護者以外	音楽を聴くことです。家とか外とかでのんびり聴くことが好きです。
10	施設	18	就職	保護者以外	一人でいられるところや（自分の部屋など）静かな場所。
11	施設	15	就職	保護者以外	ゲーム 読書
12	施設	17	就職	保護者以外	友達と喋れる空間。 音楽 スポーツ 見たり聞いたりする
13	施設	16	就職	保護者以外	遊んだ時
14	施設	15	就職	保護者以外	友達といるとき
15	施設	17	就職	保護者以外	ゲーム
16	施設	16	就職	保護者以外	走ることが得意なため嫌なことがあったら走りに行き気持ちを安らげるようにしています。
17	施設	17	就職	保護者以外	ピアノ ダンス
18	施設	17	就職	保護者以外	家や学校など
19	施設	16	就職	保護者以外	自分の好きなことが出来る時間
20	施設	16	就職	保護者以外	音楽を聴く アニメを見る
21	施設	17	就職	保護者以外	運動
22	施設	18	進学	保護者以外	音楽を聴いたりとか散歩
23	施設	16	進学	保護者以外	ゲーム、自転車、友達と遊ぶ
24	施設	14	進学	保護者以外	学校の図書室
25	施設	17	進学	保護者以外	絵を描く マンガを読む 音楽を聴く
26	施設	16	進学	保護者以外	野球部、オフ、遊び
27	施設	16	進学	保護者以外	自室、音楽を聴いたり絵を描いたりすること
28	施設	16	進学	保護者以外	ピアノを弾くこと、お菓子を作ること。

29	施設	16	進学	保護者以外	自分ひとりの部屋
30	施設	18	進学	保護者以外	読書 睡眠 風呂 音楽
31	施設	18	進学	保護者以外	ライブに行く
32	施設	15	進学	保護者以外	漫画、ゲーム
33	施設	18	進学	保護者以外	自分の部屋
34	施設	18	進学	保護者以外	ゲーム
35	施設	19	未定	保護者以外	自分の部屋
36	施設	14	未定	保護者以外	音楽を聴くと気持ちが安らぎます。
37	施設	18	未定	保護者以外	マイルーム
38	施設	17	未定	保護者以外	ゲーム
39	施設	16	未定	保護者以外	体を動かしている時
40	施設	17	未定	保護者以外	施設内、外の友達と話したりすること
41	施設	17	未定	保護者以外	自分で考えて創る漫画
42	施設	14	未定	保護者以外	ゲーム
43	施設	18	未定	保護者以外	場所：自分の住んでいる施設 趣味：職員さんとの雑談、ゲーム・テレビ鑑賞
44	施設	16	未定	保護者以外	自分の部屋
45	施設	17	未定	保護者以外	部屋
46	施設	17	未定	保護者以外	漫画(るろうに剣心、HUNTER×HUNTER、鬼滅の刃、家庭教師ヒットマン REBORN)
47	施設	16	未定	保護者以外	一人の時間を満喫できる場所 普段人が多いけど自分一人だけになったとき
48	施設	14	未定	保護者以外	サッカー、けん玉。 瞑想して心を落とす。
49	自援	19	その他	保護者以外	サッカー観戦
50	自援	16	就職	保護者以外	ゲーム
51	自援	16	就職	保護者以外	音楽を聴く 動画鑑賞 友達との雑談 推し活
52	自援	19	就職	保護者以外	音楽を聴く
53	自援	19	就職	保護者以外	自分の部屋、お風呂場、友達のいるところ、カラオケ
54	自援	19	就職	保護者以外	みせすを聴くのがだいすきです
55	自援	17	進学	保護者以外	ゲーム、読書、音楽の視聴
56	自援	16	進学	保護者以外	学校
57	自援	19	進学	保護者以外	ゲームしたりいい作品を観ること

58	自援	19	未定	保護者以外	ゲーム、麻雀
59	自援	19	未定	保護者以外	イラスト、ゲーム、アニメ、漫画、人とのコミュニケーション
60	FH・里親	20	その他	保護者以外	ゲームや読書などで集中している時
61	FH・里親	17	就職	保護者以外	映画鑑賞 音楽を聴く
62	FH・里親	16	就職	保護者以外	一人で夜散歩する
63	FH・里親	16	進学	保護者以外	ありますが内容は控えます。
64	母子	31	その他	保護者	早起きして自分の時間をとること
65	母子	25	その他	保護者	推し活
66	母子	38	その他	保護者	真如苑に行くこと。
67	母子	34	その他	保護者	Mrs. GREEN APPLE の音楽を聴いたり動画を観たりすること
68	母子	39	就職	保護者	子供と湯船でゆっくりする。子供と絵本を読む おしゃれして景色が良いところへ散歩、御朱印、ピアノ、絵を描く、
69	母子	37	就職	保護者	料理、洋裁
70	母子	44	就職	保護者	自分の時間が出来たときにパズルをしたり、子供達と運動したりする事。
71	母子	24	就職	保護者	子供の集まり
72	母子	23	就職	保護者	アニメを見ることや美容院、岩盤浴
73	母子	40	就職	保護者	家、子供達と遊ぶ。
74	母子	42	就職	保護者	職場
75	母子	29	未定	保護者	映画、音楽を聴く
76	母子	46	未定	保護者	施設の装飾や友達や彼氏との時間
77	母子	39	未定	保護者	施設のイベント
78	母子	47	未定	保護者	自宅 編物
79	母子	46	未定	保護者	毎週受けているカウンセリングの時間と施設内外の友達との談話。
80	母子	50	未定	保護者	作業所が、楽しい。
81	母子	17	就職	保護者以外	GEME
82	母子	17	就職	保護者以外	鉄道系、パソコン系、音ゲー等
83	母子	16	就職	保護者以外	絵を描く
84	母子	18	就職	保護者以外	インターネット
85	母子	14	進学	保護者以外	お布団の中

86	母子	17	未定	保護者以外	家
87	その他	16	その他	保護者以外	歌うこと、絵を描くこと、食べること、寝ること。あと、気持ちが安らぐ場所は施設内にはないです。ですが、家がやっぱり1番落ち着きます。
88	その他	19	就職	保護者以外	部屋

3. 施設調査

① 施設調査 調査票

【施設調査 調査票】

1. 国のことやわからないことの相談先や相談方法の案内
2. 学習指導 / 3. 就職活動のサポート / 4. 退所後の住まい探し・同行
5. 生活費のシミュレーション / 6. 家事（料理・掃除等）の練習・学習
7. 住に関する学習 / 8. 退所後の生活に関する冊子配布
9. 行政サービスの利用方法や年金や医療保険の説明 / 10. 保証人の確保
11. 奨学金制度の案内 / 12. 職場体験（訪問） / 13. 生い立ちの整理
14. 施設等以外での一人暮らし体験 / 15. 退所後の不安への相談
16. 措置延長 / 17. その他（具体的に記入ください）

Q1-2 入所者への自立支援について、うまく取り組めていないことや困っていることなどについて、ご意見を聞かせてください

退所者支援について教えてください。

Q2 貴施設の基本的な考えとして、施設から退所者への連絡は、どれくらいの頻度でやられた方がいいと思いますか。もしくは「やる」と決めていますか

1. 月2回以上 / 2. 月1回 / 3. 3か月に1回 / 4. 半年に1回
5. 1年に1回 / 6. その他（ご自由に記入ください）

Q3-1 退所後の自立が心配なのでつながりたいのに、連絡がとれない退所者は、今回の退所者調査の対象者のうち、何割くらいですか

() 割くらい

Q3-2 つながりたいのに、つながれなかった理由をお聞かせください

Q3-3 当初つながれていなかったのに、つながれるようになったという良い事例があったらお聞かせください

【施設調査 調査票】

横浜市社会的養護自立支援実態把握事業
施設の取り組みに関する調査

アンケートへのご協力をお願い
横浜市では、今年度社会的養護自立支援実態把握事業を特定非営利活動法人ブリッジフォースマイルに委託して行うこととし、社会的養護経験者の支援ニーズ等を把握して政策に反映するための実態調査（アンケート）を実施します。
各施設様・里親様には「退所者調査」「入所者調査」に加えて、こちらの「施設調査」にもご協力いただきたくお願いいたします。

◆調査実施主体について◆
このアンケートは、横浜市の依頼を受けて、ブリッジフォースマイルが実施しています。
ブリッジフォースマイルの個人情報保護方針については、こちらをご覧ください。
<https://www.b4s.jp/privacy/>

Q0-1 施設名または里親名（姓名）をご記入ください。

Q0-2 メールアドレスを教えてください。

入所者支援について教えてください。

Q1-1 貴施設で、入所者への自立支援について取り組んでいると思うことをお聞かせください

Q4-1 貴施設で、退所者への自立支援について取り組んでいると思うことをお聞かせください

1. 学習指導 / 2. 就職活動のサポート / 3. 住まい探し・同行
4. 金銭管理のサポート / 5. 家事（料理・掃除等）サポート
6. 妊娠・出産の相談 / 7. 生活に関する冊子配布
8. 行政サービスの利用方法や年金や医療保険の説明 / 9. 保証人の確保
10. 奨学金制度の案内 / 11. 職場訪問 / 12. 生い立ちの整理
13. メンタルヘルスに関する相談 / 14. 医療に関する相談
15. 自立支援資金貸付制度 / 16. その他（具体的に記入ください）

Q4-2 貴施設でつながっている退所者に提供するサポートについて、うまく取り組めていないことや困っていることなどについて、ご意見をお聞かせください

Q4-3 つながっている退所者に対して、提供したらよいと思うサポートについてお聞かせください

1. 短期的に無料で住める住まいやシェルター
2. 無料で食事を提供 / 3. 現金を貸付 / 4. 現金の貸し付け
5. 寄付品の仲介 / 6. アルバイトの機会の提供 / 7. 法律相談
8. その他（具体的に記入ください） / 9. 特になし

Q5-1 貴施設で「つながっていない」退所者に対して、困っていることや課題と
思っていることについて、ご意見をお聞かせください

Q5-2 「つながっていない」退所者に対し、提供したら良いと思うサポートを
お聞かせください。

1. 短期的に無料で住める住まいやシェルター
2. 無料で食事を提供 / 3. 現金を貸付 / 4. 現金の貸し付け
5. 寄付品の仲介 / 6. アルバイトの機会の提供 / 7. 法律相談
8. その他（具体的に記入ください） / 9. 特になし

Q6 生活・就労・自立に関する相談等の機会や、措置解除等の間の相互相談等
の場を提供する事業についてのアイデアがありましたら、お聞かせください

退所者調査・入所者調査の協力依頼件数について

Q7-1 今回お願いした「退所者調査」の回答依頼を、
貴施設出身者のうち何人に配信しましたか

() 人

Q7-2 今回お願いした「入所者調査」の回答依頼を、
貴施設入所者のうち何人に配信しましたか

※回答者数が把握できている場合は、回答者数をご記入ください。

() 人

アンケートへのご協力ありがとうございました！

② 施設調査 自由記述回答

※表中の略記：施設の種類 FH＝ファミリーホーム、自援＝自立援助ホーム、母子＝母子生活支援施設

Q1_2_入所者への自立支援で、うまく取り組めていないことや困っていること
(自由回答、順不同、原文のまま)

No	施設区分	回答内容
1	施設	18歳年齢になっても明らかに自立が難しいこどもへの支援。児童福祉から成人福祉へのスムーズな移行。
2	施設	入所中の支援目標は、経済的自立と精神的自立です。その二つの目標に向かって「働ける大人」になることを目指しています。 高卒退所者に関して、ほとんどの人が進学先、就職先、居住先を決めて退所しているので、退所までの自立支援には一定程度の評価をしています。就職者をみると、10年以上最初の就労先で働き続けている人もいますが、1年未満で退職し、その後不安定な就労形態での生活となっている人たちが少なからずいます。発達障害の疑いのある人や、被虐待の影響が強く精神的な不安定さが残る人たちへの自立支援の難しさを感じています。
3	施設	特別支援学校高等部に在学中の児童が多く、実習先の訪問やグループホーム探しなど、かなり手が取られ、職員の負担が大きい。一方、その一部に障害受容が難しく、進路についての方針が一致しない児童もいて、対応に苦慮している。
4	施設	個人の状況が様々であり、同じ対応が一つもなく、支援側にかかなりの知識とアプローチ方法を求められていること
5	施設	施設生活が長い児童にとくに多くみられることですが、「なんとかなる」「なんとかしてくれる」といった認識でいて、中々、そこから抜け出せない
6	施設	退園後のお金の使い方に問題が生じる卒園生が多く、金銭管理について、経験が乏しい
7	施設	一人暮らし体験をさせたいが資源がない。話をしても頭に入らない。
8	施設	インケアの中で自立に向けた取り組みをすることはとても大切なことと思ながらも、本人の意識と職員が感じている難しさにはかなりの開きがあり危機感や切迫感が違う。そこを少しでも埋めれる様な何かは必要と感じている。
9	施設	入所児童が様々な環境で育ってきたこともあり、支援方法に複雑な面が見られる(年齢差もある)。
10	施設	14.について、児童自立生活援助事業Ⅱ型を行いたい、ハード面(家賃含む)と人員不足により、現実的ではない。 16.について、児童相談所との見解の相違により、実施に至っていない。必要な児童が支援を受けることができるよう、ご配慮いただけるとありがたいです。
11	施設	大変な子どもほど、新しい人との関係性が作りにくく、地域の支援につながりにくい。入所中は施設が抱えがち(過保護気味)になるので、地域での生活とのギャップが埋まりにくい。
12	施設	就労先の開拓。進学支援。知的境界線の進路の進め方。

13	施設	児童の権利意識が強くなってきており、こちらが必要と思っている支援ができなくなっている。現実的によいと思う方向性を伝えても納得はせず、児童自身の意向が強く反映されてしまい結果卒園後にうまくいかないケースが多い。
14	施設	・1人暮らしや社会生活に対する意識付けが難しく、児童自身が主体的になれない ・今後の生活を見通した金銭管理ができない（適切な金銭管理に対する考え） ・知的障害、発達障害等の児童に対する自立への意識付けと受け止め（理解）など
15	施設	・卒園後に外部へつながりたいが、実際につながり始めるのが卒園後なので、在園時に関係性を作っておきたいところだが実際には難しい。 ・役所や手続等、一緒に役所へ行ったり手続きもするが、結局卒園後に困ってしまうパターンが多い。
16	自援	・精神面で課題がある入所者に対して、どこを自立の目標にして支援していけば良いのか、本人、児相、施設それぞれで認識の差があり困る事がある。 ・児童養護施設のように、育て直しを希望される時があるが、自立援助ホームの人員体制では難しいと感じるが、そのような依頼のケースが増えているように感じる。
17	自援	職員への暴力事案が時々ある。
18	自援	職員への暴力事案が時々ある。
19	自援	自立の時期が近くなると不安から精神面が不安定になり今まで出来ていたこと（バイト等）が出来なくなる傾向にある
20	FH・里親	高校生を受け入れています。高校生で来ると、本人との関係づくりをし、本人の課題が少しずつ見えてきたところで、進路を決めていかないといけなくなります。本人をよく捉えられないまま進路になるために、この進路でやっていけるのかどうか不安なまま進めることになります。そして、問題が退所後に先延ばしになります。やはり進路までに5年ぐらいはほしいです。
21	FH・里親	まだ、自立させた経験が無いので、これから話し合っていきたいと思います。
22	FH・里親	片付けやゴミ捨て、掃除、洗濯などの生活習慣がなかなか身に付かない
23	母子	入居者自身の理解、課題意識や実行能力が低く、支援にのらない事がある。
24	母子	・中高生年齢での入所になると、関係構築の難しさもあり『自立』の話しに至るまでに時間を要する。 ・金銭管理支援は限界がある。 ・本人の意向と支援者から見る自立（自律）に大きな差があるとき。 ・世帯全体の自立と、子ども個人が18歳になった時の自立を考えなければならない。
25	母子	依存的にならないように気を付けている。 退所理由によってはアフターケアができないケースもあり、子どもたちの生活が心配。
26	母子	金銭のやりくりがうまくいかず、退所資金が貯められない利用者が多い

27	母子	母子生活支援施設では世帯単位で職員定数が定められているため、他の児童福祉施設に比べて相対的に職員数が少ないため、多様なニーズに対応することが難しい。また、人材の確保と定着及び離職防止に向けた処遇改善等の取り組みが必要と感じている。
----	----	---

Q3_2_退所者とながりがたかったのにつなげなかった理由

(自由回答、順不同、原文のまま)

No	施設区分	回答内容
1	施設	連絡先が分からない。既読にならない。
2	施設	つなげなかった理由は、過去に退所者から連絡を絶ったため。
3	施設	連絡先がわからない。
4	施設	本人の意思
5	施設	本人自身が「気まずい、と思うようなことをしてしまい、足が遠のく」といったケースが多いです 在園児童とのトラブルや金銭トラブル（奨学金を踏み倒すなど）
6	施設	子どもの状況が悪化するにしたがってこちらからの連絡に出なくなった。
7	施設	連絡先の交換はしており、本人が困った時には連絡してきて助けを求めてくるが、本人の都合が悪くなると LINE も既読が付かず電話にも出なくなってしまう。
8	施設	児童本人の居場所がわからない
9	施設	生活支援センターや計画相談とながっていたが、居住地が県外に移り、支援が外れてから疎遠になった。
10	施設	連絡しても返信がない。 相手が支援を求めている。 連絡先がわからない。 途中退所の児童は職員と関係性が崩れたうえで退所していることが多く、関りが難しい。
11	施設	連絡先が不明
12	施設	全く繋がっていないわけではないが、こちらから連絡をしてもあまり返事がないが、本人自身が困ったり気が向いた際に連絡がある。
13	自援	当施設を家出後、他施設への措置となったが、そこも家出しており、その後行方不明になっているため。
14	自援	本人の拒否や本人が連絡先を勝手に変えてしまっているため。
15	自援	定期的に連絡をしているが、レスがない 連絡先を教えてくれない
16	自援	入院や本人の意思により連絡が取れなくなる

17	FH・里親	里子の兄の施設退所後自立支援をしたが、里子の生活への羨ましい気持ちなどから、表面的な関係しか築くことができず、自立後は、うちにいる妹としか連絡を取らず、それもだんだん疎遠になり、実母が亡くなった後は、こちらからは一切連絡がつかなくなった
18	FH・里親	本人が困ったから相談したいと連絡してきたので、日程を調整しようとする、返事が途中で途絶えてしまう、ということを繰り返しています。向き合って考えることが難しいのだと思っています。
19	母子	施設に干渉されたくないとの理由で連絡がとれなくなった。
20	母子	DV 加害者の世帯に戻った。DV 加害に繋がる親族宅に戻った。 DV 加害者の実家等に戻り他機関の支援を受ける事になった。 ※DV 関係について秘匿性の高い施設になるので、退所後の積極的な支援者としての関りが難しい時があります。
21	母子	メールアドレスが変わっていた。
22	母子	DV 夫の元に戻るなど、施設の安全が確保できないため
23	母子	自己都合による退所については当事者がつながりを望まないことが多い。
24	母子	お引越しをされていて、その後の様子がわからない。 手紙・メール・電話等でコンタクトを試みるも応答がない。 引っ越し先を訪ねても応答がない。

Q3_3_当初つながれていなかったのにつながれるようになった良い事例

(自由回答、順不同、原文のまま)

No	施設区分	回答内容
1	施設	退所後、金銭トラブルを抱え、元担当職員がその解決に奔走したが、その後連絡が取れなくなったケースがあった。数年後、安定した仕事に就き、生活が落ち着いたころに、元担当職員に連絡が入り、顔を見せにきてくれるようになった。最近では、結婚、子どもが産まれた報告をしてくれている。
2	施設	本人から連絡があり、園内診療所の受診に至った。在園中は施設不適應に近い形で退園したが、自分の事を一番よく知っている医師は当園診療所の医師だと思い、受診に至った。
3	施設	本人から施設に電話連絡。何度かやり取りをした後、携帯電話、SNS の連絡先を交換できた。
4	施設	再統合（家庭復帰）という形で退所したため、積極的にアフターを組まなかったケースで、成人式のタイミングや大学を卒業したタイミングなどで、報告に来てくれた。そこから繋がってやりとりをするようになったといったことなど
5	施設	月に1度、電話か LINE をし続けて、返事は来ないが関係が切れないようにした。
6	施設	突然、本人から連絡が入った
7	施設	児童が追い詰められた際に LINE で助けを求めてきた。追い込まれると相談にくるケースが多々ある。

8	自援	当施設を家出後、本児は施設に対して気まずさがあったようだが、こちらからLINEで連絡を取るなどした結果、現在は定期的に会う事ができるようになっている。 本人に理由を聞いたところ、職員が入所時と変わらない対応だったため、安心して関わる事ができたと言ってくれていた。
9	自援	障害福祉の支援機関が仲立ちしてくれて、連絡が取れるようになった。
10	自援	シェルターとは繋がっていなかったが、支援者の一人が繋がっており、シェルターの持っている資源が必要な時に繋がり直してくれた
11	自援	・ラインのアイコンが赤ちゃんに変わっていたので、それまで返信はなかったが、尋ねると返信あり、やり取りができるようになった ・突然ライン退出で心配になり訪問した
12	FH・里親	連絡しても返事が来ないので、職場まで行き、仕事が終わってでてくるのを待ちました。そこで声をかけて、話をしたところから、繋がれるようになりました。最初は不安から拒否的でしたが、話しているうちに落ち着いて話ができるようになりました。最後は笑顔もでて、ホッとしたのだと思います。
13	母子	電話連絡が入るようになった。 子どもがフラット遊びに来た。
14	母子	Q3-2のようなケースであっても、こどもの成長の節目や母親のライフステージにおける悩みや喜びを知らせに来る方もいる。施設が退所者にとって実家のように感じてくれていたのか、いつか連絡がとれなくても（周囲の支援もあると思うが）、当事者の力によってつながりが再構築されることもあると感じている。
15	母子	困り事が発生した事によって、繋がった。 当時子どもだった子が大きくなって、当施設を訪ねてくれた

Q4_2_つながっている退所者へのサポートでうまく取り組めていないことや困っていること（自由回答、順不同、原文のまま）

No	施設区分	回答内容
1	施設	機会をつくって食事をしたり、定期的に生活のサポートをしている職員はいるが、退所者の望むタイミングで必要なサポートができているのかどうかと悩むことがある。具体的には、医療にかかるタイミングが適切だったか、など。
2	施設	18歳を越えた退所者のケースについて、児童相談所にも窓口があれば、他の行政とのやりとりをする際に、心強いです。
3	施設	行政との連携、制度の上手な活用
4	施設	ドロップアウトしてしまった退所者へのサポート 子どもの金銭が足りない場合にどうしたら良いか分からない
5	施設	退所児童同士で繋がっているが、良い方向にいかない時も多い
6	施設	1. については、退所者からの需要がないため。 9. については、過去に事例がないため。 12. については、過去に事例がないが、需要があれば対応は可能。
7	施設	離職・転職が多い。

8	施設	県社協の貸付の制度をこれまでしていたのだが、うまくできている児童が一握りしかおらず、条件によって給付される制度ではあるのだが、結果借金を背負わせている形になるため課題が多い。利用する際にも権利だから何でもやらせるのではなく、本当に必要なか利用者の特性を見極めて判断する必要がある。
9	施設	金銭管理については、単身生活を始めると気が大きくなる傾向にあり、生活困難となるケースがある。
10	施設	・物事の問題が大きくなってから、施設側に相談してくることが多く、もっと早い段階で相談できていれば・・・と思うことが多い。そうならないために、定期的な連絡が欠かせない。
11	施設	体調不良で連絡が来て、明らかにメンタル不調からくるものであっても、本人が認めたくなく精神科や心療内科などになかなかつなげられないパターンが多い。
12	自援	・職員の人手不足で、なかなかアフター支援ができない状況にある。 ・アフター支援のための予算が施設にないため、寄付で頂いた食品等を送ったり、時々外食などにも誘ってあげたいと思うが、お金がかかるのでなかなかできない。
13	自援	本人に就労意欲がなく、生活保護の状態から変化が見られない。
14	自援	本人に何か困った事案が起こった時、タイムリーに動けないことがある。
15	自援	月2回施設で食事が出来るので助かっている
16	自援	退所者全員に対し公平にサポートをしているが支援に繋がらない場合がある
17	FH・里親	現在は就職していますが、大学在学中はコロナと里親家庭の出産が重なり、数回しか直接会うことができませんでした。毎月仕送りをしていたので、ラインで主に金銭面での連絡事項をやり取りしていました。もっと直接会って話をきけた方が良かったと思います。その子はしっかりしている方ですが、それでも20才前後の子が親など身近な大人の力なしに、一人で大学、家計、生活をやりくりしていくのは大変です。お金の管理や手続き関係は期限までにできないことも何度かありました。すぐそばに事情を把握している大人がいれば、毎日声をかけられますが、頼れる親族が全くいない子は自分で判断し進捗管理をしなければならず、最悪の場合犯罪に巻き込まれてしまう可能性があると思います。 できるだけ多くの様々な人が関わるのが重要だと感じます。
18	FH・里親	1歳から養育している子どもで現在大学1年、うちに下宿しているため、大きな問題もなく過ごせているが、入学直前に大怪我をして手術になり少し出遅れてので、リハビリと通学にまど、サポートが必要だが、少しずつ改善している。
19	FH・里親	市役所などでの事務手続きに行かないため、なかなか進まないこと。里親自身も働いているためになかなか、同行できない。
20	母子	母子生活支援施設が使える奨学金制度は少ないので、奨学金の案内等必要な支援を案内している。こちらが必要であろうと思っている世帯ほど反応があまり無い事。
21	母子	LINEの利用を考えても良いと思っている。

22	母子	電話相談を実施しているが、毎日何度も緊急性のない電話をかけてきて、業務に支障が出ている
23	母子	退所者ひとり親家庭への支援と捉えると、子どもの預かり機能や養育について気軽に相談できる場、子どもや対象者の年齢や発達状況に応じた伴走型支援が実施できる機関や資源が不足していると感じている。また、退所後支援実施機関の立ち位置としては、そうした機関や資源としてつながる機会や場が必要と思う。
24	母子	生活支援や養育支援

Q5_1_つながっていない退所者へのサポートでうまく取り組めていないことや困っていること（自由回答、順不同、原文のまま）

No	施設区分	回答内容
1	施設	「つながっていない」＝「生活が落ち着かない」という前提での質問であれば、周囲に頼れる存在がいるか、行政のサポートに繋がっていることを願うばかりです。各種サポート機関の情報が得やすい環境が整うことが望まれます。
2	施設	退所後、施設の把握しないところで地域のケースになっているものも多いと感じている。地域行政からケースの相談に乗りたいと思っているが、情報が回ってこない。
3	施設	状況把握が出来ないこと
4	施設	連絡がないので連絡が欲しいが、退所者は成人なので本人に任せれば良いと感じている。
5	施設	学園に定期的に来園する退園者は良いが、全く連絡のない退園者も多い
6	施設	持病の定期通院が実施できているか、服薬ができているかを把握することができず、心配である。
7	施設	つながっていない退所者ほど、本来は支援を要すると考えている。
8	施設	「つながっていない」退所者に対して、退所後に「つながる」ということは非常に難しく感じてる。退所前に退所後も「つながれる」関係性を構築したい。
9	施設	連絡がとれない。
10	施設	連絡が取れないこと
11	施設	・安否確認が取れない ・状況把握が取れない
12	自援	本人に何か困った事案が起こった時、タイムリーに動けないことがある。
13	自援	本人と連絡が取れる手段がなくなっていること。
14	自援	自分で管理して行かなくちゃ行けないが増えるので、そこが課題だと思います
15	自援	退所者が入所中の子どもの個人情報発信してしまうこと 支援者の連携が取れない為 退所者の状況が把握できない
16	FH・里親	仕事が続かず、本人に起きてる課題を話し合おうとしても、逃げてしまうこと
17	FH・里親	退所者がまだいない

18	母子	連絡が取れなくなった世帯は特に気がかりです。再度の繋がりが課題。 稀に要対協ケースでも追いきれていないことがあるので、支援が必要な人が施設入所でようやく繋がったのにも関わらず、退所して再び支援が切れてしまうのが勿体ない、子どもが心配になります。
19	母子	離婚が成立していないと訪問、来所ができず心配。 施設が嫌で退所された方には敢えて連絡する必要があると思っている。
20	母子	地域でうまくやれているのか、確認しづらい
21	母子	Q4-2と同じ。特につながれない世帯に対してはアウトリーチ機能が必要と思う。
22	母子	連絡がとれない事

Q6_相談等の機会や措置解除者等の間の相互相談等の場を提供する事業についてのアイデア（自由回答、順不同、原文のまま）

No	施設区分	回答内容
1	施設	退所者も施設に対して複雑な気持ちがあり、困っていても連絡をとりたくない場合も多いと思う。また。相談しようにも不安があったり、相談の仕組みがよくわからずに困っていると思う。ワンストップで相談に持ってくれるような施設外の窓口の設置やそれを周知する仕組みづくりが必要だと思う。
2	施設	退所者支援は充実していると感じる。相談できる団体が多くあるので退所者が支援団体があることを認知することが大切だと思う。
3	施設	各施設での同窓会。 当事者団体の主催するイベント。 相談事業を行っている団体の紹介。
4	施設	退所や卒園をしたら必ず渡す冊子(相談窓口や学園のLINEなど)を渡し、連絡がとれる可能性を残す。
5	施設	・施設退所者が集まれる機会の提供や、相談会の実施。
6	施設	生活や就労に関わらず、今の生活に寄り添うような支援が出来たらいいなと思います。どうしても「就職しなきゃ」「今よりもっと良くしなきゃ」「ちゃんとしなきゃ」といった気持ちが出てきてこちらもそういった支援をしようとしてしまいますが、一度立ち止まったり気持ちの整理をしたり、ゆっくりできる場所や時間となればいいなと。（とはいえと言う気持ちもありますが）
7	自援	施設にも退所者から、深夜や早朝に相談の連絡が来ることがある。 24時間体制で電話などで相談でき、シェルター的な要素もある場所が、何か所があると良いなと思う時はある。
8	自援	日頃より緊密に連携し、顔の見える関係性を構築しておくこと。
9	自援	日頃より関係する機関が緊密に連絡を取り合い、顔の見える関係を構築しておくこと。

10	FH・里親	学業やバイトで忙しく、そういった場があってもなかなか行くのは難しいかと思います。実際行ったという話は聞きませんでした。大人が出向いて直接会って話をきくのが一番良いのかなと思います。大人に一对一で何かしてもらったという経験が少ない子たちなので、新生活の準備や買い物、食事、手続きなどに同行してあげたら、信頼できる大人の意見を聞きつつ自分で判断し、一人でやる時の練習にもなると思います。ネットの画面の情報ではなく、ちょっとした実体験の積み重ねが生きていく力になると考えます。
11	母子	・相談の機会、場の提供 →必要な世帯（児童）に情報が伝わり、適切な支援がなされないといけない。 →ワンストップ型の・・・。 ・ホームカミングデーのように1施設が主導（薄く濃く）するものと連携しながら、行政主導（広く薄く）の『里親月間』のように『社会的養護月間』を作る。
12	母子	母子生活支援施設退所者への支援としては、子どもの居場所事業や子育て短期支援事業の充実、産前産後母子支援事業、産後ケア事業や親子支援事業を受託する等で多機能化していくことで貢献していきたい。